M138_jap_UM.book 1ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午後２時５９分

MASERATI

GRANSPORT

オーナーズ マニュアル

お客様各位

この度はマセラティ グランスポーツをご購入いただきありがとうございます。

お買い求めいただいたお車は、マセラティ社が長年にわたりツーリングカーおよびレーシング・スポーツカーのデザインと製造で培った経験と技術が反映されています。

本マニュアルはお車の装備とシステムの操作方法および作動内容をご理解いただく目的で作成されています。

本マニュアルの最終セクションには、お車の性能と品質の維持、また安全運転に不可欠な基本的な点検方法と定期点検プランが記載されています。

定期点検は長期にわたりお車の価値を維持し、また環境を保護するためにも必要です。

定期点検やお車の整備が必要な場合は、お近くの**マセラティ正規サービス ネットワーク**へお問い合わせ下さい。
十分な訓練を積んだ技術スタッフと必要な整備機器を備えておりますので、適切で信頼性のあるサービスをお約束します。

お客様ご自身や同乗者また歩行者の安全のため、お車を運転される前に必ず本マニュアルをお読みいただきますようお願いします。

オーナーズ マニュアルは車の一部として常にお車に搭載いただくようお願いします。

お車を使用する前に

走行前点検を行って下さい。

- エンジン クーラントの量は十分にありますか？（182 ページをご覧下さい）
- エンジン オイルの量は "MIN" と"MAX" の間にありますか？（180 ページをご覧下さい）
- タイヤの空気圧は適正ですか。また、トレッド面が摩耗したり、クギが刺さっていませんか？（172 ページをご覧下さい）
- リザーバー タンク内のブレーキ オイルの量は減っていませんか？（183 ページをご覧下さい）

ランニング インについて

- 新車時は 1,000km 走行するまでエンジンを 5,000 回転以下で走行して下さい。

注意

エンジン暖気中は（水温が 65 ～ 70 °C 以下）エンジンを 4,000 回転以下で走行して下さい。
エンジンの寿命をのばし、燃料のムダ使いを防止するためにも適切なエンジン回転数で走行して下さい。

走行にあたり

- 可燃性ガスが入ったスプレー缶やガソリンが入った容器などの可燃物を車に積まないで下さい。衝突事故にあった場合や炎天下の駐車時に、引火や爆発を起こすおそれがあり危険です。
- ガソリンは無鉛ハイオクをご使用下さい。有鉛ガソリンを使用すると触媒が故障します。
- 運転席の足元のまわりに物などを置かないで下さい。フロアマットはペダル操作を妨げることがないよう、正しく敷いて下さい。それらの物が挟まってブレーキやアクセル操作できなくなり、予期せぬ事故につながるおそれがあります。
- シート、ステアリング ホイール、ミラー等の位置は適切ですか？（79 ～ 85 ページをご覧下さい）
- シート ベルトは必ず装着して下さい。（20 ～ 29 ページをご覧下さい）
- エンジンはアクセル ペダルを踏まずに始動して下さい。
- リバース ギアへのシフトについては、本マニュアルの "Cambiocorsa" の項をご参照下さい。（102 ～ 108 ページをご覧下さい）
- 計器およびワーニング ライトに異常はありませんか？特に触媒高温ワーニング ライトとオルタネーター ワーニング ライトが点灯した場合は速やかに安全な場所に停止して下さい。（50 ～ 52 ページをご覧下さい）
- 走行中はエンジンを止めないで下さい。また、エンジンを止めたまま坂道を利用して車を移動させないで下さい。エンジンが止まるとステアリング操作やブレーキ操作に通常より大きな力が必要となり、予期せぬ事故につながるおそれがあります。キーを抜くとステアリング ロックがかかるため、ステアリング操作ができなくなり非常に危険です。
- 走行中にギアを "N"（ニュートラル）にしないで下さい。"N" ではエンジン ブレーキが全く効かないため、予期せぬ事故につながるおそれがあります。
- 長い下り坂では、フット ブレーキとエンジン ブレーキを併用して下さい。フット ブレーキだけを使い続けると、ブレーキが過熱してブレーキ ディスクのフェード現象やブレーキ液のベーパーロック現象が起こり、ブレーキの効きが悪くなったり、全く効かなくなるおそれがあり非常に危険です。
- 水たまりを通過した後や洗車後は、ブレーキ ディスクが濡れて効きが悪くなることがありますので、ブレーキ ペダルを軽く踏んで効きを確かめて下さい。効きが悪い場合は周囲の状況に気をつけて、安全に充分注意しながら低速走行し、効きが回復するまでブレーキ ペダルを繰り返し軽く踏んで下さい。

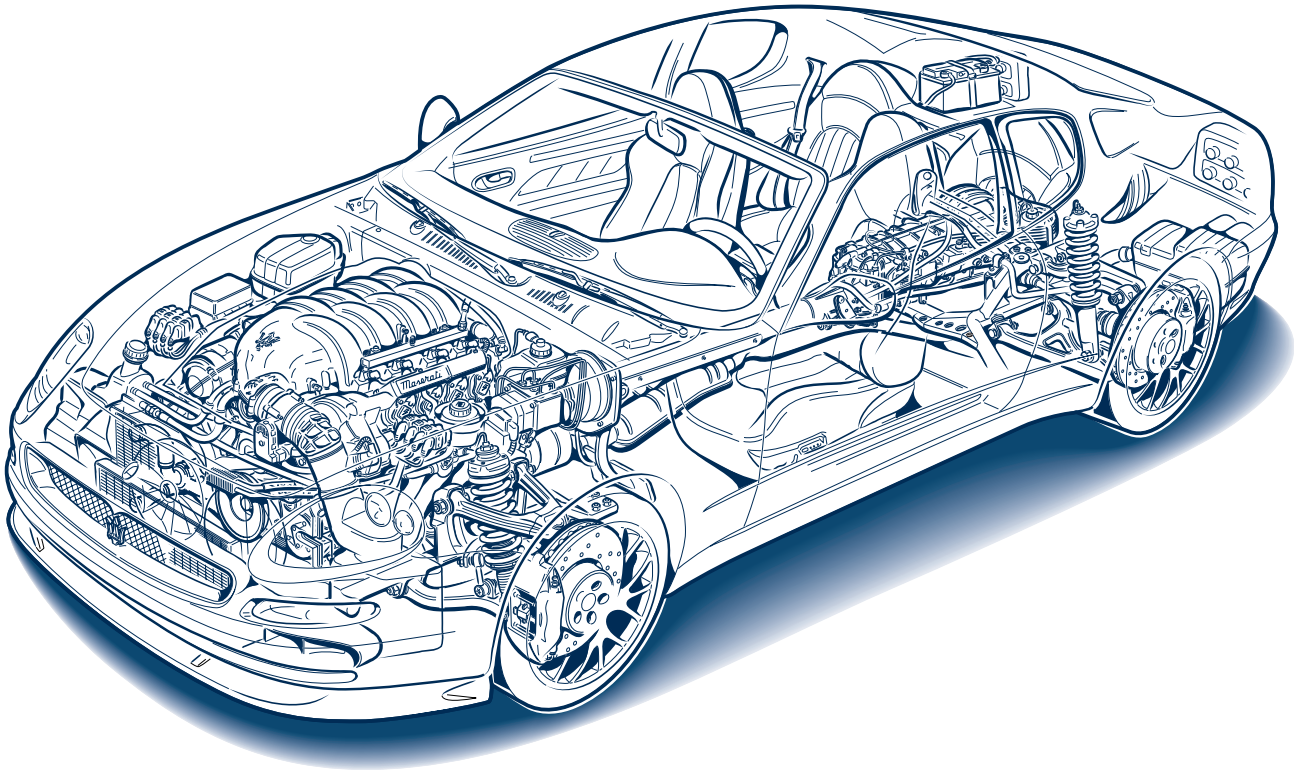
駐・停車するとき

- 車庫や屋内など換気が悪い場所では、排気ガスを吸い込んで一酸化炭素中毒を起こすおそれがありますので、エンジンをかけたままにしないで下さい。
- 仮眠するときは、かならずエンジンを止めて下さい。エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフト レバーを動かしたり、アクセル ペダルを踏み込んだりして、車が不意に発進したり、エンジンが過熱して火災が発生する危険性があります。
- 可燃物（紙、枯れ草、乾燥した落ち葉など）の上では、駐停車をしないで下さい。床下の排気管の熱により着火するおそれがあります。車両後方に可燃物があるときは、充分に距離をとって駐停車して下さい。
- エンジン回転中に、長時間ステアリングをいっぱいに切った状態にしておくと、パワー ステアリングを損傷するおそれがあります。車が静止した状態でのステアリング操作も同様にできるだけおやめ下さい。
- 坂道駐車するときはパーキング ブレーキを確実にかけて下さい。急勾配の坂道で駐車する時は輪止めをして下さい。（126 ページをご覧下さい）
- 車から離れるときは エンジンを止めて、必ずキーを抜き取って 下さい。誤って車が動き出したり、予期せぬ事故につながるおそれがあります。キーを抜き取ると盗難防止装置が作動を開始するため、万一の車の盗難を予防できます。（75 ～ 78 ページをご覧下さい）

その他の注意事項

- ドア、ウィンドウ、ボンネット、トランクリッドなどの開閉操作を、お子様にさせないで下さい。顔や手足などをはさみケガをするおそれがあります。また、大変危険ですので、走行中にウィンドウから顔や手を出さないように注意して下さい。
- お子様を車内に残したまま車を離れないで下さい。予期せぬイタズラで事故につながるおそれがあります。また、炎天下では車内が高温になり危険です。
- ウィンドウ ガラスに透明吸盤を使ったアクセサリーなどを取り付けないで下さい。視界の妨げになったり、透明吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こすおそれがあります。
- 走行中に携帯電話などを使用しないで下さい。注意力が低下し、予期せぬ事故につながるおそれがあります。
- ボンネットおよびトランク リッドを開けたときは、風の強い日などに不意に閉まらないように注意して下さい。ボンネットおよびトランク リッドを閉めるときは、指などをはさまないように注意して下さい。
- エンジンやラジエーターが熱いときは、冷却水のリザーバー タンクのキャップを開けないで下さい。たとえエンジンが止まっていても、キャップを開けると蒸気や熱湯が噴き出す危険があります。
- エンジン ルームに手を入れるときはかならずエンジンを止めて下さい。回転しているファンなどに手や衣服などが巻き込まれ予期せぬケガをするおそれがあります。排気管やラジエーターは高温になっており、触ると火傷をするおそれがあります。点火系には高電圧の部分があり、触れると感電するおそれがあります。
- バッテリーからは水素ガスが発生することがあります。引火するおそれがありますのでバッテリーの周囲では火気に気を付けて下さい。
- タイヤ交換は専用機器を備えている**マセラティ正規サービス ネットワーク**にご依頼下さい。
- ジャッキ アップは必ず指定されたジャッキアップ ポイントで行って下さい。指定以外のポイントでジャッキ アップすると、ジャッキが外れたり、ボディが破損したりするおそれがあります（135 ページをご覧下さい）。ジャッキ アップ中は、振動でジャッキが外れるおそれがありますので、エンジンを始動しないで下さい。また、手や足などの身体をジャッキ アップ中の車体の下に、絶対に入れないで下さい。
- 違法改造は絶対にしないで下さい。また、法令違反でなくても、マセラティ純正部品以外のパーツやアクセサリーを取り付けた場合、保証の対象外となります。
- 万一、水中に転落した場合は、水面に浮いている間に脱出するか、水面下に沈んだときは車内に水が満ちてくるのを待ち、車内に水が満ちたらドアかドア ウィンドウを開けて脱出して下さい。車内に水が入っていない状態では、水圧のためにドアを開けることが難しくなります。冷静に行動して下さい。

M138_jap_UM.book 3ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分



歴史的背景

1914
アルフィエーリ マセラティ ガレージ ワークショップをボローニャで開業する。

1926
タルガ フロリオ、Type 26：ボローニャ市ネプチューン像のシンボルであるトライデント エンブレムをボンネットに取り付けた車がデビュー レースを制する。

1927
エミリオ マセラティが Type 26 でイタリア チャンピオン タイトルを獲得する。

1929
バコーニ ボルザッチーニ、Type V4：246 km/h の世界記録を 10 km/h 上回る新記録を樹立。

1930
バコーニ ボルザッチーニ、V4：トリポリにて最初のグランプリ優勝を飾る。

1933
最も名声あるヨーロッパの自動車メーカー、マセラティが油圧ブレーキ システムをレーシングカーに採用。ジョゼッペ カンパリが Type 8CM でフランス グランプリで優勝し、タツィオ ヌボラーリがベルギーおよびニース グランプリで優勝。

1934
ジョゼッペ フルマニック、Type 4CM：1100 クラスで 222 km/h の世界記録を樹立。

1939
ウィルブル ショーが 8CTF でインディアナポリス 500 マイルで優勝。マセラティは、この伝説的なオーバル サーキットで優勝した最初にして現在に至るまで唯一のイタリア自動車メーカー。

1940
モデナに工場を移転する。

1947
ピニンファリーナ ボディによる最初の GT カー、A6 1500 が製造される。レース仕様の A6GCS がアルベルト アスカリによりモデナのレース場にて優勝する。

1954
250F がデビューしアルゼンチンで優勝する。このシングルシーターが、マセラティにフォーミュラー 1 のワールド チャンピオン獲得をもたらすことになる。

1957
ファンジオが 250F でワールドタイトルを獲得する。シーズン終了と共にマセラティはレース活動の停止を公式に発表する。

1961
3500GT は燃料噴射を採用した最初のイタリア車。

1963
世界最速のセダンであるクワトロポルテとミストラルの製造を開始する。

1966
ギブリを発表する。このクーペはジウジアーロによるデザイン。

1968
シトロエンがパートナーになり、V6 エンジンの製造を開始する。
2 + 2 インディを発表する。

1971
ボーラを発表する。ミッドシップ エンジンを採用した最初のマセラティ GT。
翌年にはメラクを発表。

1973
ギブリに代わりベルトーネ デザインのカムシンが発表される。

1975
シトロエンとのパートナーが終了し、アレッサンドロ デ トマソと提携する。

1976
ジウジアーロ デザインによる新型クワトロポルテを発表。イタリア共和国大統領の公用車としても使用されることになる。

1981
デ トマソのマーケティング戦略の転換に伴い、2 ドア セダン 6 気筒エンジンによるビトルボの生産を開始する。

1989
新型ビトルボ用 8 気筒エンジンを採用したシャマルを発表。

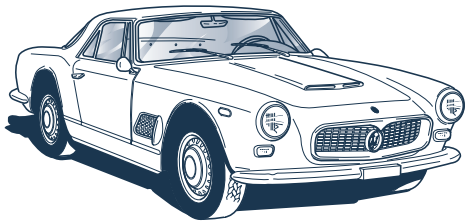
1993
フィアット オートがマセラティの残りの株式を獲得し、1998 年にはクワトロポルテを発表。

1997
フェラーリがマセラティの株式の過半数を取得。

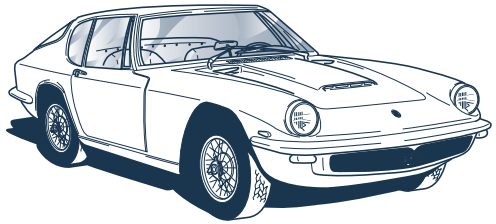
1998
クワトロポルテ エボリューション V8 3.2 および V6 2.8 の発表。
3200 GT V8 の発表。

1999
3200 GT V8 オートマチックの発表。

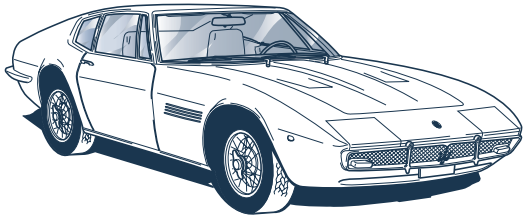
2000
" オフィチーネ アルフィエーリ マセラティ " カスタムメイド プログラム。



3500 GT



Mistral coupé



Ghibli coupé

はじめに

マニュアルの概要

簡単にご使用できるようトピックスはそれぞれ章とセクションに分かれています。
またマニュアル内の重要項目に関しましては、章とセクション内で容易に識別が可能になっています。

最重要項目：誤ったご使用方法をすると、人身の安全に関わる重大な危険が発生したり、車両が損傷する場合があります。

警告：車両の損傷や、人身の安全に関わる危険性を防止するための警告です。

イニシャル

マニュアルには下記のようなイニシャルを使用しています。

A.C. - エア コンディショナー

ABS - アンチ ロック ブレーキ システム - 制動時のホイール ロックを防止します

ASR - アンチ スリップ レギュレーション - 加速時のホイール スピンを防止します

EBD - エレクトロニック ブレーキ フォース ディストリビューション - ブレーキ力を電子式に配分します

ECU - エレクトロニック コントロール ユニット

MSP - マセラティ スタビリティ プログラム - ヨーイングを防止するためのシステムです

"Cambiocorsa" - エレクトロニック コントロール ギヤボックス

アップデーティング

高い品質水準を維持するため、車にはたえず改良が加えられています。そのため、本マニュアルの内容とお車が相違することがありますがご了承下さい。
本マニュアル内の全ての仕様および記載内容は、印刷時点のもので、予告なく変更されることがあります。

サービス

本マニュアルには、お車を正しくご使用いただくための必要事項が記載されています。
お車を安全で快適にご使用いただくため、正しい取り扱い方法を守って下さい。
また、厳選されたスタッフと専用機器を完備したマセラティ正規サービス ネットワークで定期点検を実施して下さい。
マセラティ正規サービス ネットワークの所在地については、" セールスおよびサービス ネットワーク ブック" と題された小冊子をご覧下さい。
ご不明な点は**マセラティ正規サービス ネットワーク**にお問い合わせ下さい。

"Cambiocorsa" ギヤボックス

メカニカル ギヤボックスと乾式ダブルディスク クラッチを備えており、ステアリング ホイールにあるレバーによってシフト操作する電子油圧操作システムです。
システムは " オートマチック " モードの選択が可能ですが、"Cambiocorsa" ギヤボックスは一般的なオートマチック トランスミッションとは機構が異なります。
ご使用に際しては、本マニュアルに記載されている項目を参照し、正しい取り扱い方法を守って下さい。

シンボル

マセラティ車の特定の構成部品には、色分けされたプレートが貼られています。各種シンボル マークは重要な警告の意味を持っていますので、取り扱う時は注意して下さい。
マセラティ車に貼られたプレートで使用されているシンボルを、そのシンボルに関係するコンポーネントとともに、以下に一覧として掲げます。各シンボルは、危険、禁止、警告、義務という 4 種類に分類できます。各シンボルは、その個別の意味の他に、これらの 4 種類の意味をも同時に表しています。

危険シンボル

バッテリー
腐食性の液体です。

バッテリー
爆発の危険があります。

ファン
エンジンが停止しているときでも自動的に回り始めることがあります。

エクスパンション タンク
クーラントが高温の時はキャップを外さないで下さい。

コイル
高電圧になっています。

ベルトとプーリー
回転部品です。体や衣服を近づけないで下さい。

エア コンディショナーの配管
外さないで下さい。高圧ガスが充填されています。

禁止シンボル

バッテリー
火気に近づけないで下さい。

バッテリー
お子様が手を触れないようにして下さい。

ヒート シールド、ベルト、プーリー、ファン
お手を触れないようにして下さい。

警告シンボル

触媒

可燃物のある付近に駐停車しないで下さい。
" 有害物質の排出抑止装置 " のセクションを参照して下さい。

油圧ステアリング

タンクの MAX レベル以上にオイルを補充しないで下さい。" 容量および技術仕様 " の章を参照して指定オイルを補充して下さい。

ブレーキ回路

タンクの MAX レベル以上にオイルを補充しないで下さい。" 容量および技術仕様 " の章を参照して指定オイルを補充して下さい。

ウィンドシールド ワイパー

" 容量および技術仕様 " の章を参照して指定フルードを補充して下さい。

エンジン

" 容量および技術仕様 " の章を参照して指定オイルを補充して下さい。

無鉛ガソリン車

95 オクタン以上の無鉛ガソリンを使用して下さい。

エクスパンション タンク

" 容量および技術仕様 " の章を参照して指定フルードを補充して下さい。

義務シンボル

バッテリー

目を保護して下さい。

バッテリー、ジャッキ

オーナーズ マニュアルを参照して下さい。

M138_jap_UM.book 10 ページ ２００４年１１月８日　月曜日　午前１１時５５分

M138_jap_UM.book 11 ページ ２００４年１１月８日　月曜日　午前１１時５５分

一般事項

1 車両識別データ

2 アクティブおよびパッシブ セーフティ

3 インストルメントおよびコントロール

4 運転する前に

5 お車の取り扱い

6 非常時には

7 容量および技術仕様

8 メンテナンス

9 目　次

M138_jap_UM.book 12 ページ ２００４年１１月８日　月曜日　午前１１時５５分

M138_jap_UM.book 13 ページ ２００４年１１月８日　月曜日　午前１１時５５分

車両識別データ

識別プレート 14
車両識別プレート 15
キー コード 16
電子アラーム システムのコード 17

識別プレート

シャシー番号

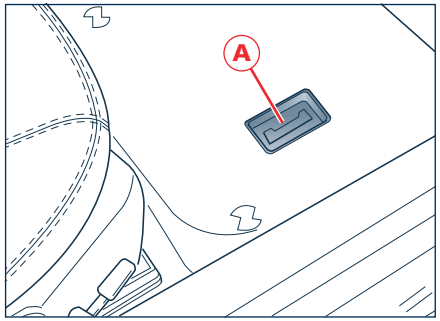
車のシャシー番号は、助手席前のフロアーに刻印されています。
シャシー番号はマットを外してフラップ **A** を開けるとあります。

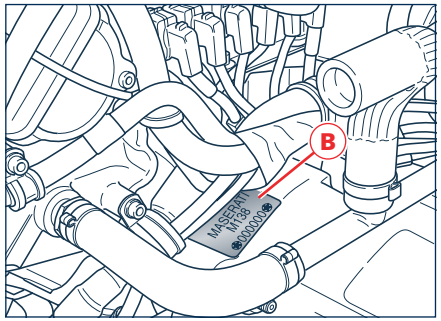
エンジン番号

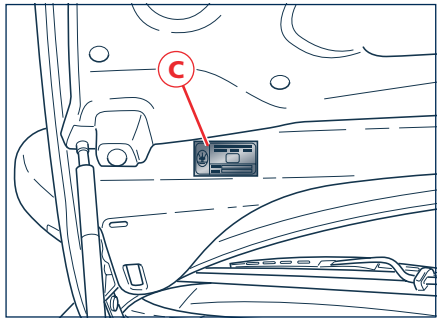
型式とシリアル番号 **B** はシリンダー ブロックに刻印されています。
エンジン型式は、フロント クロスメンバーにある車両識別プレートにも記載されています。

ペイント識別プレート

プレート **C** はボンネットに貼付してあります。







識別プレート

車両識別プレート

プレートはフロント クロスメンバーにあり、次のようなデータが記載されています。

A - 製造者名

B - 型式認定番号

C - 製造番号（VIN）と基本車種識別コード

D - シリアル番号

E - 車両の最大荷重

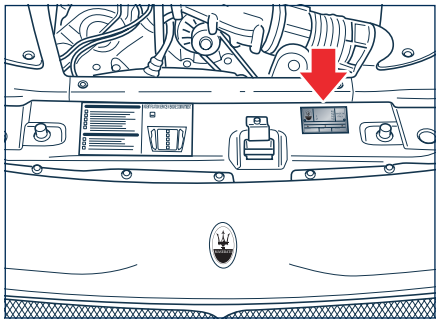
F - 前軸の最大荷重

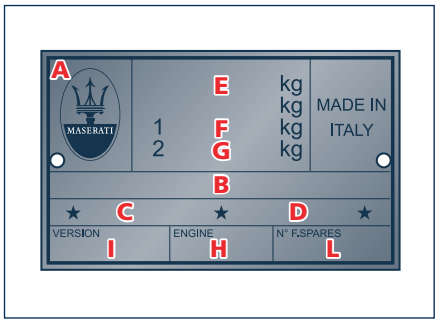
G - 後軸の最大荷重

H - エンジン型式

I - 車両仕様コード

L - アッセンブリナンバー

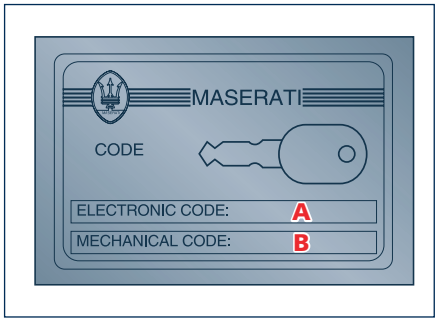




キー コード

キーと共にコード カードが供給されます。このカードには以下の内容が明記されています。

– " エンジンの非常スタート " で使用する電子コード番号 **A**
– スペア キーをマセラティ正規サービス ネットワークで作製する場合に必要となる機械的なコード番号 **B**



警告：コード カードにはコード番号が記載されていますので、安全な場所に保管して下さい。

警告：コード カード番号はエンジンの非常スタートで必要となりますので、番号は常に携行するようにして下さい。

警告：車を譲渡する場合は、全てのキーと共にコード カードを新しいオーナーに渡して下さい。

警告：スペア キーを作製する時に必要となりますので、キーについているプレートの番号を控えておき、リモート コントロールと共に（車内を避けて）安全な場所に保管して下さい。

電子アラーム システムのコード

ローリング コード

リモート コントロールのローリング コードは使用するごとに変更されます。
コード カードは安全な場所に保管して下さい。
リモート コントロール付きのスペア キーを作製する時は、**マセラティ正規サービス ネットワーク**にコード カードを提示して下さい。

M138_jap_UM.book 18 ページ ２００４年１１月８日　月曜日　午前１１時５５分

M138_jap_UM.book 19 ページ ２００４年１１月８日　月曜日　午前１１時５５分

アクティブおよびパッシブ セーフティ

シート ベルト 20
お子様の適切な搭乗 25
フロントおよびサイド エアバッグ 30
MSP システム 36
ABS と **EBD** システム 37
ASR システム（電子式アンチ スリップ装置） 39
パーキング センサー（オプション） 40
消火器（オプション：日本仕様はオプション未設定） 43
衝撃式燃料カット スイッチ 44

シート ベルト

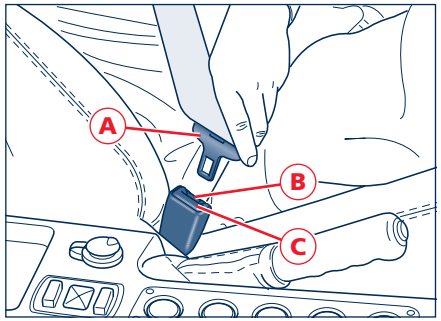
車には搭乗者が楽に動けるように自動収縮式のシート ベルトが装着されています。
シート ベルトには電子式プリテンショナーが内蔵されています。また、シート ベルトのキャッチはシートに直接取り付けられているため、シート位置に関係なく最適な保護が可能となっています。

シート ベルトの使い方

シート ベルトのタブ **A** を握ってシート側面から引き出し、バックル **B** に押込んで下さい。ベルトはカチッと音がしてロックするまで押込んで下さい。
ボタン **C** を押すとベルトは外れます。
運転席シート ベルトを着用していない状態でイグニッション キーを **AVV** 位置に回すと、インストルメント パネルのワーニング ライト が点灯し、約 8 秒間ブザーが鳴ります。

シート ベルトは、強く引き出した時や、急ブレーキまたは衝突などの時にはロックされます。
シート ベルトを強く引っ張ったためにロックした場合は、一旦少し巻き取ると、ロックが解除されます。
ベルトは搭乗者が楽に動けるように自動収縮式になっています。
急な坂道などに駐車した時、ベルトのロック機構が作動することがありますが、異常ではありません。

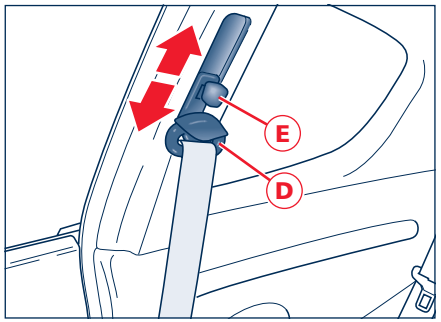
警告：ベルトを着用する時は、ねじれや引っ掛かりがないように注意して下さい。



フロント シート ベルトの高さ調節

シート ベルトの高さ調節は、停車中に行って下さい。

フロント シート ベルトの高さは、搭乗者の身長に合わせて調節して下さい。衝突時の損傷が緩和されます。
ベルトは首と肩の中間を通るように正しく調節して下さい。
シート ベルトの上部アンカーにはリングがついており、4 通りの位置に動かして高さを調節することができます。



アンカーの位置を上げるにはリング **D** を握り、下げるときはハンドル **E** を使用して下さい。

調節後は、リングがついているスライダーが所定の位置でロックされていることを確認して下さい。ハンドルを放してみて、規定の位置に正しくロックされていなかった場合は、カチッと音がするまでもう一度下へ押し、アンカーが正しい位置に来るようにして下さい。

リミテッド ロッキング機構

パッシブ セーフティを向上させるために、フロント シート ベルトには負荷を制限する機構が採用されています。これにより、シート ベルトによる拘束力が大き過ぎるとベルトをある程度伸ばして、肩にかかるベルトの力を制限します。

プリテンショナー

フロント シート ベルトの効果をさらに向上させるために、ベルトにはプリテンショナーが装着されています。
この装置は車が強い衝撃を受けると作動し、ベルトを数センチ巻き取ります。これにより、ベルトが乗員の体に適切に密着することで、体が前方に揺り動かされるのを防ぐことができます。
プリテンショナーが作動するとベルトがロックします。作動時には少量の煙が発生します。この煙は無害で火災によるものではありません。
プリテンショナーが作動した後、バックルのボタンを押すとシート ベルトは通常通り外すことができます。

プリテンショナーは給油などのメンテナンスは必要ありません。改造を行うと正しく機能しなくなります。天災など（台風や浸水など）により装置が水や泥に浸かった場合は必ず交換して下さい。
プリテンショナーの効果を高めるために、シート ベルトは胸部と骨盤に正しく着用して下さい。

シート ベルトを着用していなかった場合でもプリテンショナーは作動します。一度作動するとその機能は失われます。プリテンショナー作動後は、マセラティ正規サービス ネットワークで交換して下さい。プリテンショナーの有効期間は製造日より 10 年間ですが、有効期限が満了になる前に交換して下さい。

警告：車の点検などの際には以下のことに注意して下さい。プリテンショナー付近に強い衝撃を与えたり局部的な加熱（100 °C 以上で 6 時間）を行うと、プリテンショナーの機能が損なわれたり不意に誤作動する場合があります。ただし、走行中の路面や縁石などによる一時的な衝撃では誤作動することはありません。作業を行う場合はマセラティ正規サービス ネットワークで実施して下さい。

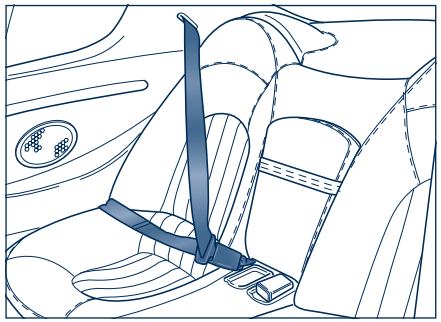
プリテンショナーの構成部品は改造しないで下さい。作業を行う場合は、専門の資格をもったスタッフのいるマセラティ正規サービス ネットワークで実施して下さい。

リヤ シート ベルトの使い方

リヤ シート ベルトは図のように着用して下さい。

激しい衝突の際にリヤ シートの乗員がシート ベルトを着用していないと、リヤ シートの乗員だけでなく、フロント シートの乗員も重大な傷害を被る恐れがあります。

背中をぴったりと背もたれに密着させた状態で、シート ベルトを着用して下さい。リヤ シートに誰も乗っていない時は、シート ベルトのバックルをそれぞれの位置に差込んでおいて下さい。



シート ベルトに関する基本的な注意事項

走行中シート ベルトの着用は法律で義務づけられています。

シート ベルトの保護効果を最大限にするため、背もたれはなるべく立てた状態に調節し、ベルトを胸部と骨盤に正しく着用して下さい。ベルトがゆるい状態で衝突すると、体が前方に飛び出しケガの原因になります。背もたれを寝かしたまま走行することは大変危険です。シート ベルトを着用していても正しく機能しません。シート ベルトが体にフィットせず体の前方にあると、衝突の時に大変危険です。さらに衝突の時ベルトの下側が骨盤ではなく胃の上部を押して、内臓に重大な傷害を与える恐れがあります。

走行中は必ずシート ベルトを着用して下さい。シート ベルト未着用のまま走行すると、たとえエアバッグが作動したとしても衝突時のケガの発生を防ぐことはできません。衝突の時シート ベルトは体が車内前方や車外に飛び出したりする危険性を防止します。エアバッグはシート ベルトと共に使用するよう設計されているため、シート ベルトの代わりにはなりません。フロント エアバッグは、中～強度の前面衝突の場合にのみ作動します。横転時や後面衝突、または前面からの軽度の衝撃では作動しません。

シート ベルトはそれぞれのバックルにロックし、他のシートのバックルには差込まないで下さい。衝突の時ベルトの下側が骨盤ではなく胃の上部を押して、内臓に重大な傷害を与える恐れがあります。

シート ベルトを腕の下に通した状態で走行することは大変危険です。衝突時に体が前方に投げ出され、頭部と首を損傷する可能性が非常に高くなります。さらにベルトが肋骨を圧迫して、内臓に重大な傷害を与える恐れがあります。

シート ベルトはねじらずに着用し、ベルトが体に密着するように正しく着用されていることを確かめて下さい。事故などの際にベルトに均等に力が分散されず、ケガをする恐れがあります。シート ベルトの上半分は、シート ガイドを通り、肩から胸にかけて対角線になるように着用して下さい。シート ベルトの下半分は、胃ではなく骨盤にくるように着用して下さい。これは衝突時に体が前方に滑り出ることを防ぐためです。ベルトが体に密着しないようにクランプなどでベルトを固定しないで下さい。

お子様を膝に抱えたままシート ベルトを着用しないで下さい。

衝突などによってシート ベルトが強いメカニカル ストレスを受けた場合は、シート ベルト本体、アンカー、アンカー取り付けボルトおよびプリテンショナーを交換して下さい。外観上は損傷がないように見える場合でも、シート ベルトの強度が低下している可能性があります。

妊娠した女性のシート ベルト着用については各国の法規に従って下さい。いずれの場合でも、シート ベルトは腹部よりも下の位置で、腰を包むように着用して下さい。

シート ベルトの適切な使用について

1) ベルトは常にピンと張った状態で、ねじれがないようにして下さい。ベルトは引っかることなく自由に伸縮するか確認して下さい。
2) プリテンショナーが作動した場合や、ベルトに損傷や摩耗が見られる場合は必ず交換して下さい。
3) シート ベルトを洗う場合は水と中性洗剤を使用し、よくすすいでから日陰で十分に乾燥させて下さい。強力な洗剤、漂白剤、染色剤や化学薬品などは、ベルトの素材を傷めますので使用しないで下さい。
4) リトラクター部分には水がかからないように注意して下さい。水がかかると正常に機能しなくなります。

お子様の適切な搭乗

衝突から最適に保護されるためには、走行中は搭乗者全員が着席し、適切な保護システムによって保護される必要があります。シートベルトは、各国の法規で規定されているような身体的な特徴（年齢、身長、体重）を持った人が使用することを念頭に置いて設計されています。そのため、そうした規定に適合しない場合は、シートの使用ができません。このことは、お子様に対しても適用されます。子供は骨と筋肉が発育途中にあるため、大人の体格と比べ頭部が大きく重たくなっています。お子様を衝突から最適に保護するためには、お子様向けの保護および安全システムを使用する必要があります。

いかなるチャイルド シートもフロントの助手席に設置しないで下さい。

お子様を膝に抱えたまま走行しないで下さい。衝突するまではお子様を重いと感じない場合でも、いざ衝突が起こると、慣性力により抱きかかえておくことができなくなります。例えばお子様の体重がわずか 5.5 kg で、40 km/h の低速走行中に衝突した場合でも、抱いている腕にかかる重量は 110 kg に増加します。ですから、走行中は必ず適切な保護システムを使用してお子様を保護して下さい。

エアバッグのすぐ近くにお子様を搭乗させると、エアバッグが作動した場合にお子様が大ケガを負う恐れがあります。エアバッグとプリテンショナーは、大人や 10 代の若者に対しては適切な保護を行いますが、子供や幼児には対応していません。シート ベルトやエアバッグは子供や幼児向けには設計されていません。子供や幼児には、子供や幼児に見合った適切な保護システムをご使用下さい。

幼児は、頭部や首も含めて体全体をサポートする必要があります。幼児の首は弱く、体の大きさに比べて頭部が大きく重たいためです。チャイルド シートを後向きにして幼児を搭乗させれば、衝突時にも肩や背中などの体の強い部分に衝撃力を分散することができます。走行中は必ず適切な保護システムを使用して幼児を保護して下さい。

子供の体型は、大人および 10 代の若者（シート ベルトに適応する体型）とは大きく異なります。子供の臀部は小さいため、シート ベルトが正しい位置になりません。そのため衝突時にはベルトが子供の胃の付近に来て、内臓に重大な損傷を与える恐れがあります。お子様には必ず体型に見合った保護システムを使用して下さい。

各国の法規で規定されている数値に該当する身体的な特徴（年齢、身長、体重）を持ったお子様に対しては、専用の適切な保護または安全システム（認定チャイルド シート、揺りかご、クッションなど）を使用して下さい。
必ず保安基準に適合したチャイルド シートをご使用下さい。
チャイルド シートをご使用になる場合は、製造元の取扱説明書をご覧下さい。

チャイルド シートが最大の効果を発揮できるよう、お車のシート形状に最もフィットする製品をお選び下さい。チャイルド シートを購入される前に、実際にお車に取り付けて確認されることをお勧めします。

事故の際、チャイルド シートが正しく取り付けられていないとケガを負う危険が増加します。

シート ベルトおよび保護システムの改造は絶対に行ってはなりません。また国によっては、法律により 12 歳以下の子供が助手席に搭乗することを禁止しています。

ヨーロッパ仕様については、子供を搭乗させる場合の安全性に関する研究の結果、欧州基準 ECE-R44 が定められています。同基準では、子供向け保護システムの使用を義務づけると同時に、下記の通りカテゴリーを 4 つのグループに分類しています。

グループ 0　体重　0 ～ 10 kg の子供向け

グループ 1　体重　9 ～ 18 kg の子供向け

グループ 2　体重 15 ～ 25 kg の子供向け

グループ 3　体重 22 ～ 36 kg の子供向け

このように、各グループが対象とする体重範囲は部分的に重なっており、また 2 つ以上のグループに対応した製品も市販されています。

全ての保護システムには、認定データと点検マークを記載したプレートをしっかり取り付けることが義務づけられており、このプレートは絶対に外してはならないことになっています。

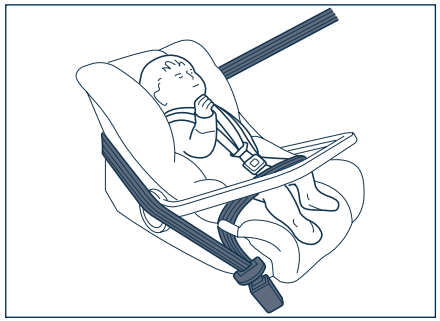
体重 36 kg 以上で身長 1.5 m 以上のお子様は大人とみなし、通常の大人用のシート ベルトを着用して下さい。

グループ 0

体重 10 kg 以下の幼児については、急な減速による首の負傷から頭部を保護するため、揺り椅子状のチャイルド シートを後向きに取り付けて下さい。

振り椅子状のチャイルド シートは、図のように車のシート ベルトによって固定し、お子様にはチャイルド シートに内蔵されたベルトを使用します。

図はあくまで参考です。
詳しくはチャイルド シートの取扱説明書をご覧下さい。



グループ 1

体重 9 kg 以上のお子様については、フロント クッション付きのチャイルド シートを前向きに取り付け、車のシート ベルトによってチャイルド シートとお子様の両方を固定して下さい。

図はあくまで参考です。
詳しくはチャイルド シートの取扱説明書をご覧下さい。

お子様の適切な搭乗

グループ 0 とグループ 1 に適合するチャイルド シートの中には、車のシート ベルト用の後部取り付けポイントが付いており、内蔵ベルトでお子様を保護するタイプのものもあります。こうしたチャイルド シートは、一定の重量があるため、クッションとともに車のシート ベルトに誤って取り付けると大変危険です。詳しくはチャイルド シートの取扱説明書をご覧下さい。

グループ 2

体重 15 kg 以上のお子様は、車のシート ベルトで直接固定して下さい。チャイルド シートには、ベルトがお子様に対して正しい位置にくるような機能が装備されています。ベルトの斜めの部分は首ではなく胸に、そしてベルトの水平の部分は胃ではなく骨盤にくるようにして下さい。

図はあくまで参考です。
詳しくはチャイルド シートの取扱説明書をご覧下さい。

グループ 3

体重 22 kg 以上のお子様については、着座位置を上げるためのクッションのみを取り付けて下さい。チャイルド シートには十分な奥行きがあり、背もたれは不要になっています。身長が 1.5 m 以上のお子様は、大人と同様にシート ベルトを着用して下さい。

図はあくまで参考です。
詳しくはチャイルド シートの取扱説明書をご覧下さい。

お子様が搭乗する時の安全基準

いかなるチャイルド シートもフロントの助手席に設置しないで下さい。必ずチャイルドシートの取扱説明書（メーカーは同梱することを法律により義務づけられています）の指示に従って下さい。

取扱説明書は、保証書やこのマニュアルと共にお車に搭載して下さい。取扱説明書のないチャイルド シートは取り付けないで下さい。

警告：車のシート形状に最もフィットする製品をお選び下さい。チャイルド シートを購入される前に実際に取り付けて確認することをお勧めします。

必ず試しにシート ベルトを引いてみて、バックル内に確実にはまっているか確認して下さい。

全ての保護システムは 1 人用です。絶対に 1 つのシートに 2 人のお子様を座らせないで下さい。

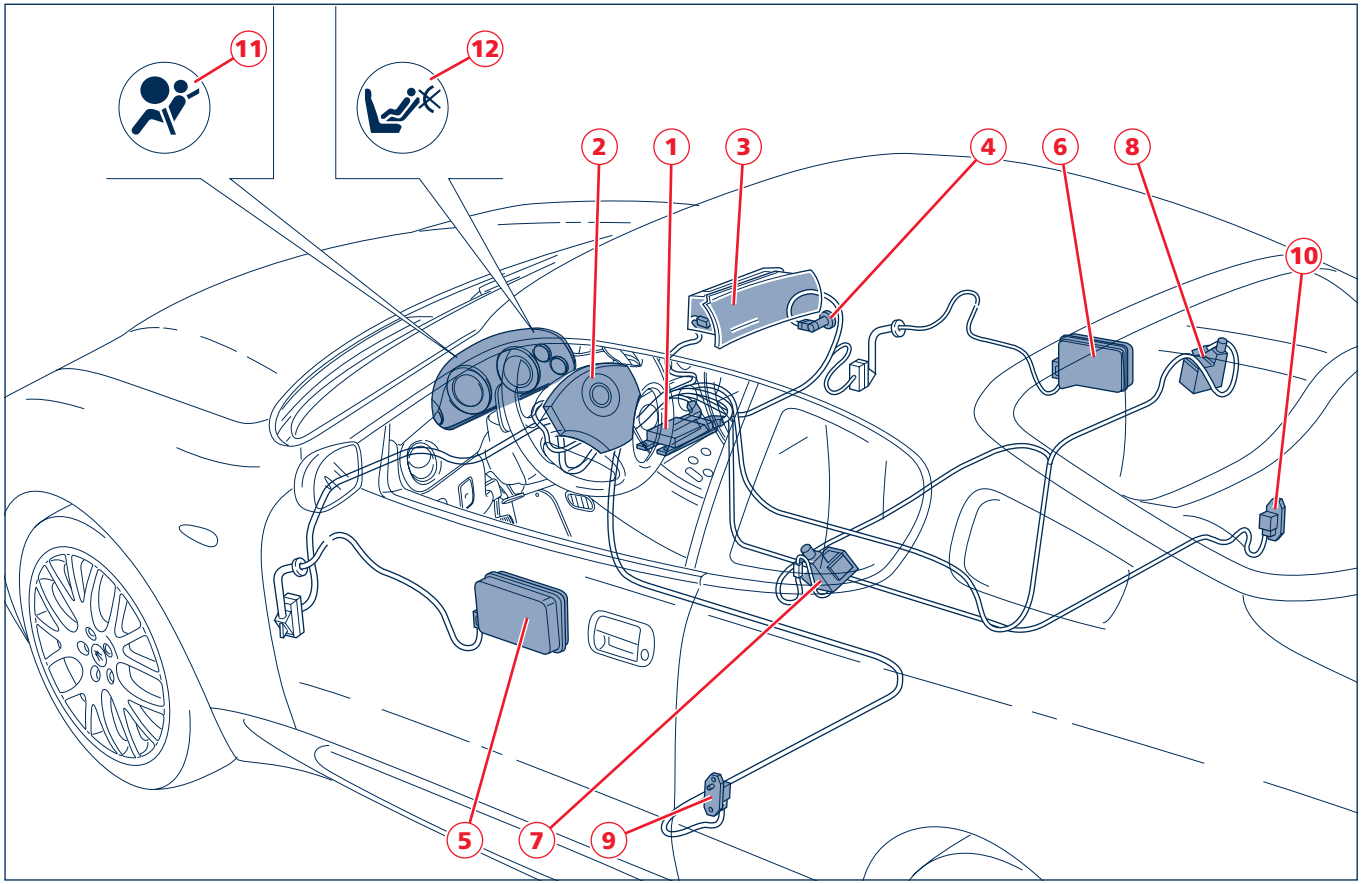
シート ベルトがお子様の首にかかっていないか必ず確認して下さい。

走行中、お子様が不適切な姿勢になったり、シート ベルトやチャイルド シートのベルトを外さないようご注意下さい。

たとえ小さな乳児の場合でも、お子様を腕で抱きかかえないで下さい。腕力がある方でも、衝突時には子供を抱きかかえていることはできません。

事故後は必ずチャイルド シートを新品と交換して下さい。

フロントおよびサイド エア バッグ



フロントおよびサイド エアバッグ

お車には合計 4 個のエアバッグ（フロントに 2 個、サイドに 2 個）と、フロント シート ベルトに電子式プリテンショナーが装着されています。
システムは以下の部品で構成されています。

1) エレクトロニック コントロール ユニット（ECU）
2) 運転席エアバッグ
3) 助手席フロント エアバッグ
4) エアバッグ機能停止スイッチ
5) 運転席サイド エアバッグ
6) 助手席サイド エアバッグ
7) フロント シート左側プリテンショナー
8) フロント シート右側プリテンショナー
9) 左側サテライト センサー
10) 右側サテライト センサー
11) エアバッグ故障ワーニング ライト
12) 助手席エアバッグ機能停止ワーニング ライト

フロント エアバッグ

フロント エアバッグ（運転席および助手席）は前面衝突から搭乗者を保護する安全装置です。
各エアバッグは専用のハウジングに収納されており、衝突を受けると瞬時に膨らみます。

– 運転席エアバッグはステアリング　ホイールの中央
– 助手席エアバッグはダッシュボード内部の大容量バッグ（フルサイズ エアバッグ）

フロント エアバッグ（運転席および助手席）は前面から中～強度の衝撃を受けた場合に乗員を保護することを目的とした安全装置で、ステアリング ホイールまたはダッシュ ボードと乗員の間でクッション（バッグ）として機能します。
衝撃を受けると、ECU は減速度センサーからの信号を演算処理し、必要に応じてバッグを膨らませます。
バッグはフロント シート乗員と車の構造物との間で瞬時に膨らみます。その後バッグは直ちに収縮します。

シート ベルト未着用のまま走行すると、衝突の時にエアバッグが完全に膨らむ以前に体が前方に投げ出されてしまいます。そうするとエアバッグの保護効果が減少します。フロント エアバッグ（運転席および助手席）はシート ベルトの代わりとなるものではなく、シート ベルトを補助するものです。欧州および世界の主な国では走行中必ずシート ベルトを着用するよう定められています。

激しい衝突の際にリヤ シートの乗員がシート ベルトを着用していないと、リヤ シートの乗員だけでなく、フロント シートの乗員も重大な傷害を被る恐れがあります。

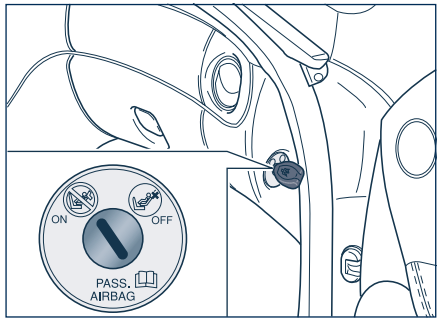
このエアバッグは前面からの軽度の衝撃では膨らみません（この場合はシート ベルトが適切に保護します）。
後方または側面からの衝撃の場合は、このエアバッグは補助的な保護の役割を果たさないため、膨らみません。
そのため、こうした場合にエアバッグが作動しなかったからといって、システムの故障を意味するわけではありません。

助手席エアバッグ（フルサイズ エアバッグ）

助手席エアバッグは、シート ベルトを着用した搭乗者を補助的に保護する目的で設計されています。
そのため、このエアバッグは搭乗者とダッシュボードの間で、広い範囲に膨らみます。

助手席エアバッグの機能停止

助手席エアバッグの機能を停止するには、イグニッション キーを差し込んだ状態で、該当するキーをダッシュボード右側のスイッチに差し込んで操作して下さい。スイッチはドアを開けた状態でのみ差込むことができます。
米国、カナダ、日本仕様には、この装置は装備されていません。



1) 助手席エアバッグが作動可能（**ON** ポジション）。インストルメント パネルのワーニング ライトとルーフの LED は消灯。
2) 助手席エアバッグの機能停止（**OFF** ポジション）。インストルメント パネルのワーニング ライトが点灯します。

助手席 フロント エアバッグの機能が停止している間は、元の状態に戻すまで、インストルメント パネルのワーニング ライト は常時点灯し続けます。

警告：助手席フロント エアバッグの機能を停止しても、サイド エアバッグの機能は停止されません。

ドアを開けた状態では、スイッチがどの位置にあってもイグニッション キーの抜き差しが可能です。

助手席フロント エアバッグの機能を停止ししたままの走行は出来るかぎりお控え下さい。

サイド エアバッグ

サイド エアバッグは側面衝突の場合に搭乗者の保護機能を高めます。
ドアパネルには瞬時に膨らむエアバッグが取り付けられています。
側面からの衝撃を受けると、ECU は減速度センサーからの信号を演算処理し、必要に応じてバッグを膨らませます。

ドアパネルにある切れ目が開いてバッグが膨らみます。
エアバッグは搭乗者の体と車の側面との間で瞬時に展開し、搭乗者を保護します。その後バッグは直ちに収縮します。

警告：車が舗道、段差、突起、くぼみなどに乗り上げて車体下部に強い衝撃を受けると、フロントおよびサイド エアバッグが作動する可能性があります。

警告：エアバッグが膨らむと細かな塵が出ます。この塵は無害で火災の心配はありません。また、膨らんだバッグとインテリアの表面が細かな塵で覆われて、目や肌を刺激する場合があります。肌に触れた場合などは中性石鹸と水でよく洗い流して下さい。

走行中システムに不具合が発生するとワーニング ライト が点灯しますので、お近くのマセラティ正規サービス ネットワークで点検を受けて下さい。

警告：エアバッグ構成部品の有効期間は製造日より 10 年間ですが、有効期限が満了になる前にマセラティ正規サービス ネットワークで交換して下さい。

衝突などによりエアバッグが膨らんだ場合は、マセラティ正規サービス ネットワークで安全システム、ECU、シート ベルト、プリテンショナーを交換し、関連する配線類の点検を受けて下さい。

エアバッグ構成部品に関する全てのテストと修理および交換はマセラティ正規サービス ネットワークで実施して下さい。

ステアリング ホイールは絶対に取り外さないで下さい。取り外す場合は、必ずマセラティ正規サービス ネットワークで行って下さい。

警告：お車を廃棄処分する場合は、システムの機能を停止するため、マセラティ正規サービス ネットワークにお問い合わせ下さい。

警告: お車を転売する場合は、購入されるオーナーに対してお車の取り扱いや注意事項などを説明すると同時に、" オーナーズ マニュアル " をお渡し下さい。

ECU はプリテンショナー、フロント エアバッグ、サイド エアバッグを衝撃のタイプに応じて異なる基準で作動させます。そのため衝撃によっては作動しないものもありますが、これはシステムの故障ではありません。

基本的な警告

イグニッション キーを AVV の位置にするとワーニング ライト が点灯し、約 5 秒後に消灯します。点灯しなかったり、点灯し続けたり、走行中に点灯した場合はマセラティ正規サービス ネットワークで直ちに点検を受けて下さい。

助手席フロント エアバッグ機能停止スイッチが ON 位置の場合は、イグニッション キーを AVV の位置にすると、ワーニング ライト が 4 秒間点灯した後、4 秒間点滅し、ライトは消灯し、衝突時には助手席サイド エアバッグが作動することをドライバーに知らせます。

運転中は常に両手でステアリング ホイールをホールドして下さい。エアバッグが膨らんだ時に障害を少なくして大ケガの発生を防ぐことが可能です。走行中は体を前方に曲げず、背もたれを起こした状態で背中がぴったりとシートにつくようにして下さい。

ステッカーその他の物をステアリング ホイールや助手席エアバッグに貼り付けないで下さい。

走行中は膝の上や胸の前に物を置かないで下さい。特にパイプやペンなどを口に咥えないで下さい。エアバッグが作動した時に大ケガをする恐れがあります。フロント シートの背もたれを、布やカバーで覆わないで下さい。

停車中エンジンを停止した状態でも、イグニッション キーを AVV の位置にしておくと、他車が衝突してきた場合、エアバッグが膨らみますので注意して下さい。そのため、チャイルド シートを助手席に取り付けた場合は、駐車中でも助手席エアバッグの機能を停止した状態にしておき、チャイルド シートからお子様が移動しないようにして下さい。逆に、停車中にイグニッション キーが AVV 位置にないと、衝突された時にエアバッグは膨らみませんので注意して下さい。このような状態ではエアバッグが開きませんが、異常ではありません（日本仕様においては、助手席エアバッグの機能を停止できません。したがってチャイルド シートを助手席に設置しないで下さい）。

お車が盗難や盗難未遂、破壊、浸水などの被害にあわれた場合は、マセラティ正規サービス ネットワークでエアバッグ システムの点検を受けて下さい。

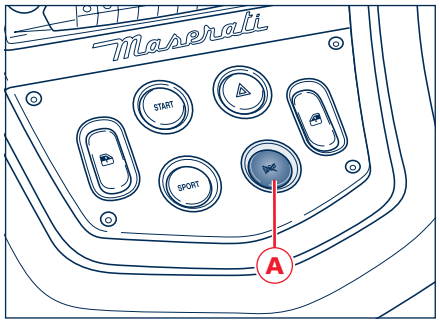
車の電装システムを誤った方法で修理した場合、エアバッグが誤作動して搭乗者がケガをすることがあります。

エアバッグはシート ベルトの代わりとなるものではなく、シート ベルトによる搭乗者の保護を補助するためのものです。また、低速走行中の前面または側面からの軽い衝撃、追突、横転などの場合には、搭乗者はシート ベルトによってのみ保護されます。走行中は必ずシート ベルトを着用して下さい。

ドアパネルを水や高圧スチームなどで洗浄しないで下さい。

MSP システム

お車には **MSP**（マセラティ スタビリティ プログラム）が備わっています。このシステムは全ての車体制御システム（ABS、EBD、ASR、MSR）を統合したものです。このシステムには車体の挙動を非常に正確に予測するユニットが採用されています。このシステムは、ドライバーが車体のコントロールを失いそうであるかどうかを検知することができます。ドライバーがコントロールを失いそうになると、このシステムは各輪のブレーキ キャリパーを個別に制御すると同時にエンジン制御を行い、十分なトルクを得ることでヨーイングを防止しようとします。



MSP システム

MSP システムの作動

MSP システムは、エンジンを始動させると自動的に起動します。この機能が作動するとマルチファンクション ディスプレイに緑色の MSP（マーク）が点灯します。このシステムを解除したい場合は、ボタン **A** を約 2 秒間押し続けて下さい。システムを解除するとディスプレイ上に ~~MSP~~ メッセージが表示され、ボタンの LED が点灯します。
もう一度ボタン **A** を押すと、システムは再び起動し、ディスプレイの ~~MSP~~ メッセージとボタンの LED が消灯します。

故障警告

故障が発生するとシステムは自動的に機能を停止します。この場合、起動させることはできません。この場合、走行中であればボタンの LED が消灯し、ディスプレイ上に ~~MSP~~ メッセージが表示されます。エンジン始動時であれば、システムに不具合がある場合はディスプレイ上に ~~MSP~~ メッセージが表示されます。

警告：**MSP** の機能が停止するような不具合が発生した場合は、お車は MSP システムが装備されていない状態と同じになります。できるだけ速やかに**マセラティ正規サービスネットワーク**で点検を受けて下さい。

警告：後輪のみ接地した状態で他車にけん引される場合は、必ずイグニッション キーが **STOP** になっていることを確認して下さい。**MSP** システムが ON になっていると、コントロール ユニットに故障がメモリーされ、インストルメント パネルとディスプレイのワーニング ライト ~~MSP~~ が点灯した状態になります。この場合、**マセラティ正規サービス ネットワーク**で修理を受け、システムを元の状態に戻す必要があります。

警告：滑りやすい路面（凍結路、雪道、砂地など）では、たとえ **MSP** が起動していても、" スポーツ " モード機能は使用**しないこと**をお勧めします。

ABS と EBD システム

車には ABS（アンチ ロック ブレーキ システム）と EBD（エレクトロニック ブレーキ フォース ディストリビューション）が装備され、ABS システムのセンサーと ECU によって制御されブレーキ性能を向上させます。
急ブレーキや路面の摩擦力が弱い状態（雪や凍結など）でブレーキをかけた時に、ABS は従来のブレーキ システムと連動して、ホイールのロックを防止しながら最大の制動力を発揮させ、車のコントロール性が確保されます。各ホイールに取り付けられた合計 4 個のセンサーからの信号を処理する ECU が、このシステムの中心となります。
タイヤがロックしかかると、センサーからの信号に基づいて ECU は油圧ユニットに指令を出し、ブレーキ キャリパーにかかる油圧を調節します。ドライバーはブレーキ ペダルに振動を感じますが、これは ABS システムが正常に作動しているためです。
システムに異常が発生して ABS が作動停止した場合でも、通常のブレーキ システムには影響ありません。
異常が発生すると、インストルメント パネルの ABS (ABS) の赤いワーニング ライトが点灯します。
この場合は、お近くの**マセラティ正規サービス ネットワーク**に連絡し、点検を受けて下さい。車に搭載されている自己診断システムを利用して、すぐに問題箇所を突き止めることができます。

お車のホイール リム、タイヤ、ブレーキ ライニングなどは、メーカーで認定されているお車専用のものを使用して下さい。

このシステムは車が安全に走行する補助になりますが、ドライバーの運転上のリスクを取り除くものではありません。路面が濡れていたり、雪や氷がある場合は十分注意をして運転して下さい。

車には EBD（エレクトロニック ブレーキ フォース ディストリビューション）が装備されています。走行中に EBD システムに異常が発生するとワーニング ライト (ABS) (!) が点灯した状態で急ブレーキをかけるとリヤ ホイールがロックしてスリップしやすくなります。周囲の交通状況に注意しながら運転して、できるだけ早くマセラティ正規サービス ネットワークで点検を受けて下さい。

走行中に ABS システムに異常が発生するとワーニング ライト (ABS) が点灯します。この場合、通常のブレーキ システムには影響がありませんが、ABS システムは機能しません。また EBD システムにも影響が出る場合があります。急ブレーキを避けて慎重に運転し、直ちにお近くのマセラティ正規サービス ネットワークで点検を受けて下さい。

走行中にブレーキ液のワーニング ライト ((!)) が点灯した時は、すぐに車を止めてブレーキ液量を点検して下さい。オイル量がミニマム ラインより少なくなっていた場合はブレーキ液をマキシマム ラインまで補充して、すぐにマセラティ正規サービス ネットワークでブレーキ システムの点検を受けて下さい。ブレーキ液が漏れていると、ABS と通常のブレーキ システムの両方が機能しなくなります。

システムの性能はドライバーの運転上のリスクを取り除くものではありません。常に天候、視界、交通状況に適応した運転を心がけて下さい。

制動力は、タイヤと路面間のグリップによって左右されます。路面に雪や氷があるとグリップ力は大幅に減少し、ABS システムが機能しても制動距離は大幅に長くなります。

ASR システム（電子式アンチ スリップ装置）

ASR システムは、リヤ ブレーキとエンジン ECU（点火時期を遅角してスロットル開度を絞り、燃料の噴射をカットします）により、加速時の駆動輪のホイール スピンを防止するものです。
ASR システムは、特に次のような場合に車の安定性を高め、アクティブ セーフティを向上させます。

- コーナリング中に強い負荷がかかったり、急加速によって内側のタイヤがスリップした時
- 道路状況によりタイヤに過度のパワーが加わった時
- 雪や水などにより滑りやすい道路での加速時
- 濡れた路面でタイヤのグリップ力がない時（ハイドロプレーニング現象）

ASR システムは電子制御サスペンションと連動しています。通常の " ノーマル " モード（" スポーツ " モード OFF）では、低～中程度のグリップ状態における安定性が優先され、" スポーツ " モードにするとトラクションが向上して走行性能が最適化されます。

MSR ファンクション（エンジン ブレーキ トルク調整）

MSR システムは、滑りやすい路面（凍結路、雪道、砂地など）でアクセル ペダルを放した場合に生じるエンジン ブレーキをコントロールします。こうした路面では、エンジン ブレーキが強いと車体の安定性が失われる恐れがあるからです。
このシステムは ABS システムと同一のセンサーを使用し、アクセル ペダルを放した場合の駆動輪の片方または両方のホイール スピンを検出すると、電動スロットルを開くことでエンジン ブレーキを抑え、駆動輪のグリップ力を最大限回復させます。

警告：しかしながら、エンジン ブレーキによる減速の度合いは、路面のグリップ力に大きく左右されます。雪や氷の路面では確実にグリップ力は低下します。

パーキング センサー（オプション）

パーキング センサーは駐車のため後進をする時に、車両後方の障害物までの距離をドライバーに知らせます。
障害物の存在と障害物までの距離は、ビープ音によってドライバーに知らされます。
このシステムは、ドライバーが衝突を防止するために目視によって距離や障害物の確認を行う際の補助として、ビープ音を発生させます。

走行や駐車をする際に発生する危険な状況においては、常にドライバーに責任があることを忘れないで下さい。このシステムは、駐車をする際にドライバーには見えない車外の障害物を検知することで、あくまで補助的な役割を果たすことを目的として設計されています。

パーキング システムのセンサーは、車のリヤバンパーに装着され、イグニッション キーを AVV 位置にしてリバース ギヤを選択すると、自動的に作動し始めます。
リバース ギヤを選択すると、ビープ音を発し、ドライバーにシステム作動中を知らせます。
障害物が検知されるとシステムはビープ音を発し始め、障害物に近づくにつれて音の間隔が短くなります。障害までの距離が 30 cm 以内になると連続音になります。

障害物までの距離が増加すると、その時点でビープ音は停止します。中央のセンサーが測定する距離が一定の場合は、当然一定の間隔でビープ音が鳴り続けますが、サイド センサーが測定する距離が一定の場合には、壁などに沿って後進した場合に音が鳴り続けるのを防ぐため、約 3 秒後にビープ音は停止します。

センサー

障害物までの距離を検知するため、リヤ バンパーには 4 個のセンサーが取り付けられています。

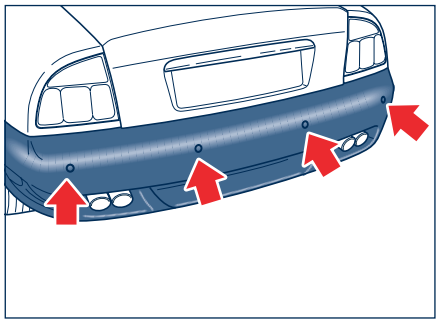
システムが正しく機能するように、バンパーのセンサーは常に清潔に保つようにして下さい（泥、汚れ、雪や氷などは取り除いて下さい）。

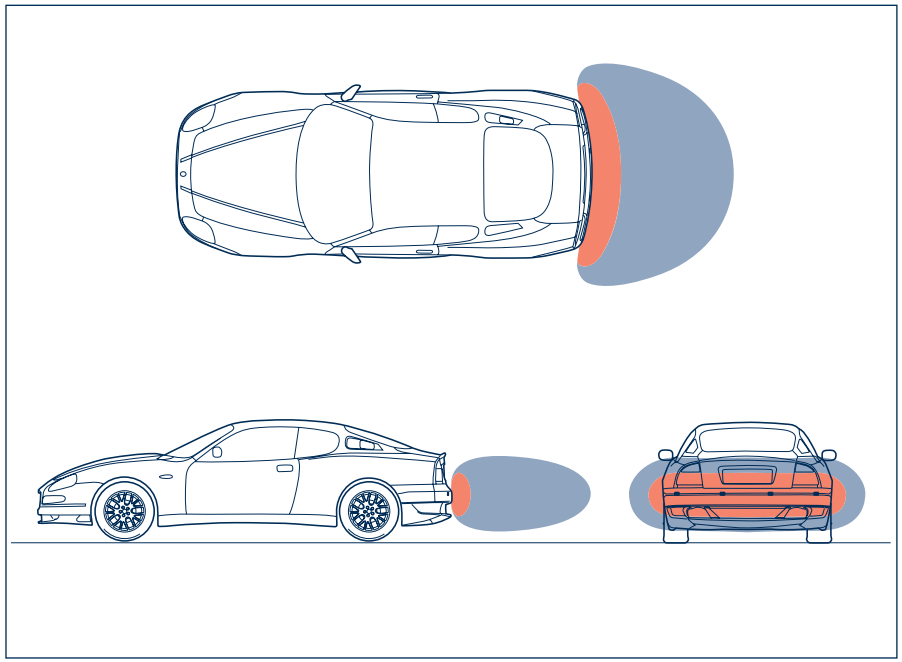
警告：センサーを掃除する時に、乾いた厚手の硬い布を使用してキズをつけたりしないよう十分注意して下さい。センサーはきれいな水とカー シャンプーで掃除して下さい。高圧のスチーム ジェットや洗車機などを使用する場合はセンサーとノズルは 10 cm 以上はなして下さい。

センサーの作動範囲

センサーは車の後方をモニターします。車の後部中央付近と側面方向を検知することが可能です。

中央部分の障害物は車から 1.5 m 未満の距離になると検知されます。
側面部分の障害物は車から 0.6 m 未満の距離になると検知されます。





パーキング センサー（オプション）

故障警告

バックギヤが選択されるたびに ECU はシステムの全てのコンポーネントを点検します。パーキング センサー システムに故障があった場合、バックギヤを選択すると継続的なビープ音が発生します。
その場合､車を停止してイグニッション キーを **STOP** 位置にして下さい。センサーを掃除し超音波の発生源(トラックのエア ブレーキやエア ハンマーなど）が近くにある場合は移動させ､イグニッション キーを **AVV** 位置にして下さい。不具合が解消されるとシステムは自動的に正常に戻りビープ音は停止します。
不具合が解消されない場合は**マセラティ正規サービス ネットワーク**で点検を受けて下さい。

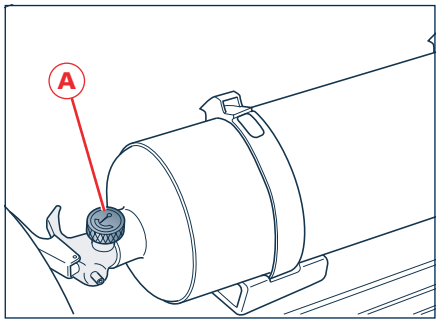
警告：後進による駐車を行う時はセンサーの作動範囲以外に障害物がある可能性がありますので十分注意して下さい。その場合、車の後方にある障害物を検知することができませんので、車や障害物を損傷する可能性があります。

警告：センサーからの信号はセンサーの故障やよごれ、雪や氷の付着または超音波の発生源（トラックのエア ブレーキやエア ハンマーなど）により正しく機能しない場合があります。

駐車を行う時やその他の危険な状況において常に ドライバーに責任があります。移動する時は人（特に子供など）や動物が車の付近にいないことを確認して下さい。パーキング センサーはあくまで補助機能ですので危険な状況を考慮して低速においても注意を怠らないようにして下さい。

消火器（オプション：日本仕様はオプション未設定）

緊急用としてポータブル消火器が助手席側の床に装着されています。消火器は専用のブラケットで取り付けられています。
クロロフロムカーボンを含まない 2 kg のパウダーが充填されています。（噴射時間 8 秒間）。
定期的にプレッシャー ゲージ **A** の充填圧力を点検して下さい。



消火器は必ず専用のブラケットに取り付けて下さい。使用しない場合はブラケットと共に助手席側の床から取り外すことをお薦めします。

警告：消火器を使用する時は本体の使用方法をよくお読み下さい。

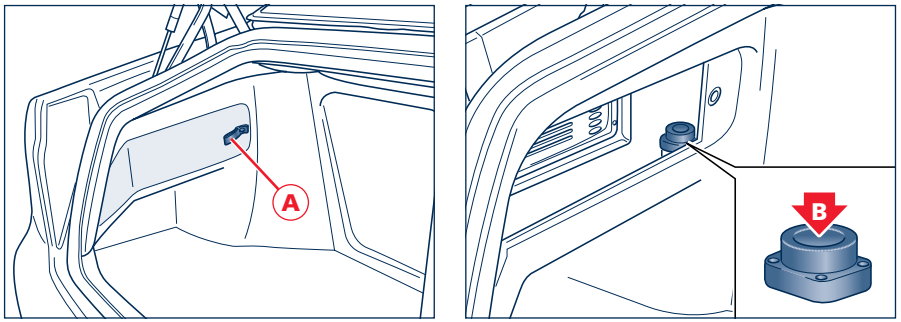
衝撃式燃料カット スイッチ

車には、衝撃を受けた時に燃料の供給を遮断し、エンジンを停止させるセーフティ スイッチが装備されています。事故により燃料ラインが損傷した場合に、燃料が漏れるのを防止します。
セーフティ スイッチが作動すると、インストルメント パネルのワーニング ライト が点灯します。
スイッチはトランク左側パネルの内側に設置されています。
スイッチを操作するにはストラップ **A** を引いてカバーを開いて下さい。

衝撃を受けた後、ガソリンの臭いがしたり燃料漏れを発見した場合は、火災を防ぐためにスイッチをリセットしないで下さい。

スイッチのリセット

イグニッション キーを **STOP** 位置にします。
燃料系統に漏れがないことを確認して下さい。
漏れがないことを確認後、燃料の供給を止めているセーフティ スイッチのボタン **B** を押してリセットして下さい。
イグニッション キーを **AVV** 位置にし、数秒間置いてから **ACC** 位置にして下さい。
インストルメント パネルのワーニング ライト が消灯していることを確認して下さい。
燃料漏れがないことを再度確認して下さい。



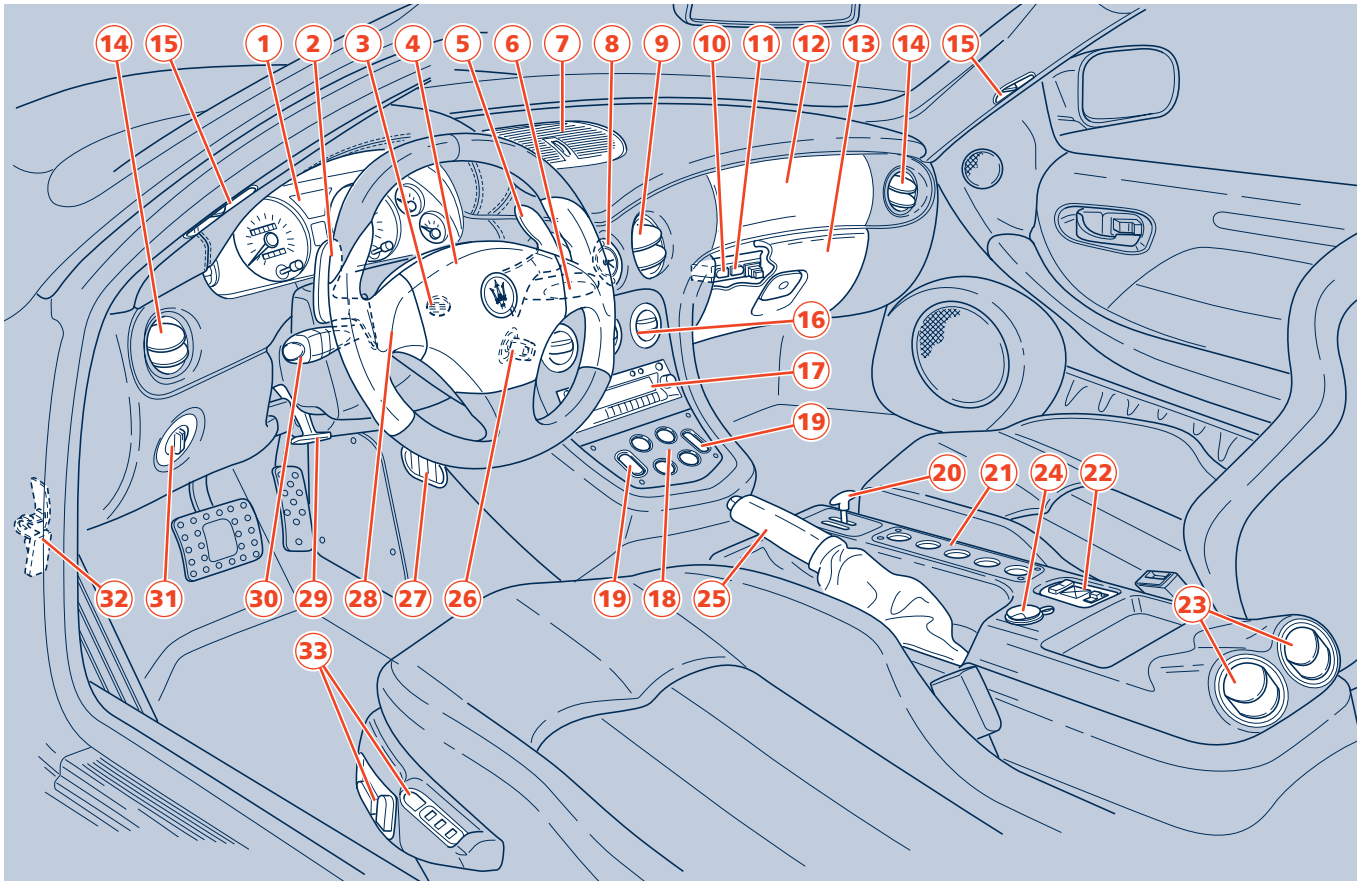
衝撃式燃料カット スイッチ

M138_jap_UM.book 45 ページ ２００４年１１月８日　月曜日　午前１１時５５分

インストルメントおよびコントロール

ダッシュボード（"Cambiocorsa" ギヤボックス） 46
インストルメント パネル 48
インジケーターおよびワーニング ライト 50
インストルメントおよびインジケーター 53
トリップメーター リセットボタン 57
インストルメント パネル照度調節スイッチ 57
室内の装備と操作 58

ダッシュボード ("Cambiocorsa" ギヤボックス)

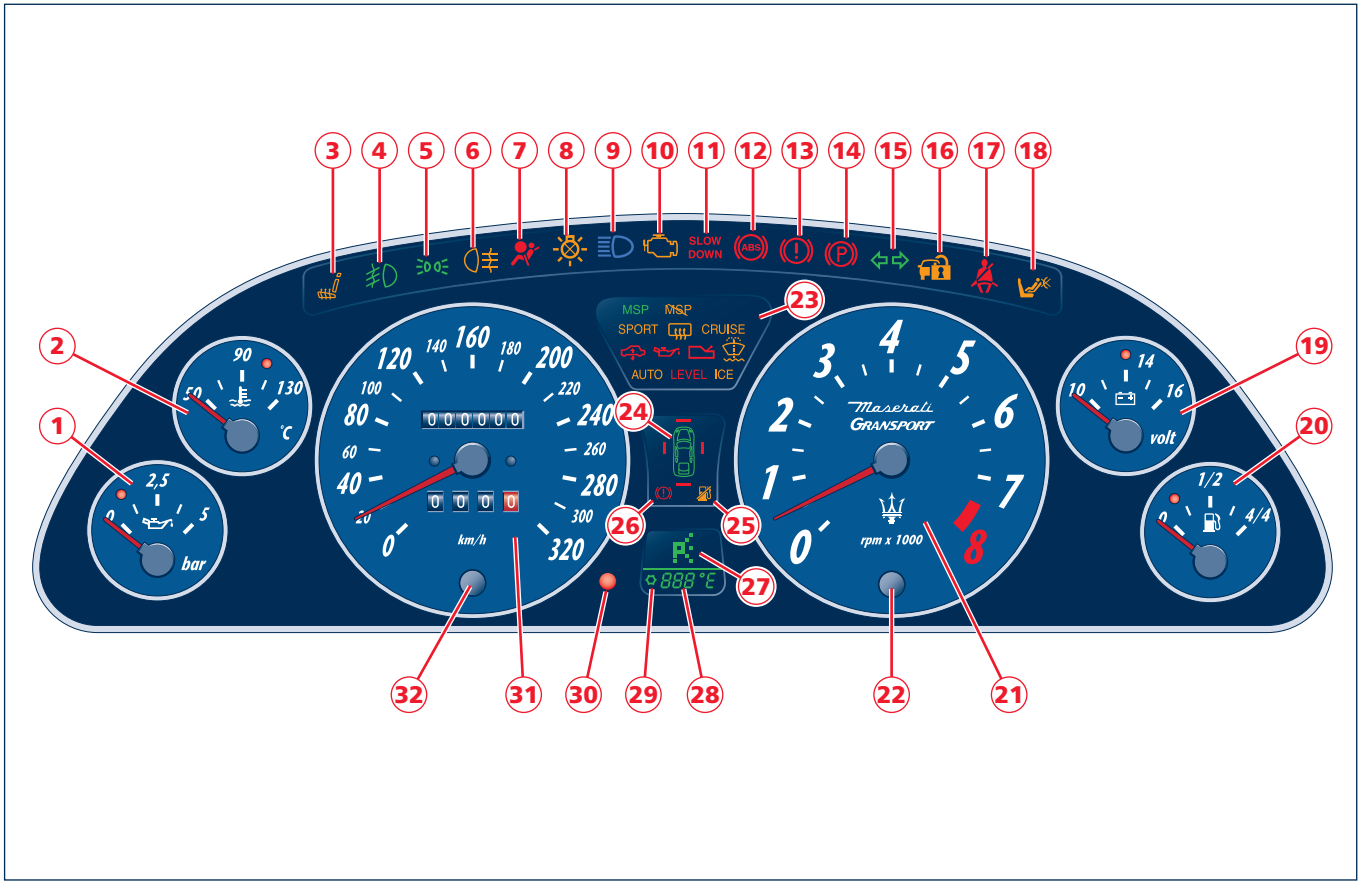


ダッシュボード（"Cambiocorsa" ギヤボックス）

M138_jap_UM.book 47 ページ ２００４年１１月８日　月曜日　午前１１時５５分

1) インストルメント パネル
2) シフト ダウン レバー
3) 車内温度センサー
4) 運転席エアバッグ
5) シフト アップ レバー
6) ウィンドシールド／ヘッドライト ワイパー／ウォッシャー（オプション）レバー
7) ダッシュボード上部吹き出し口
8) 時計
9) エア コンディショナーおよびヒーター中央吹き出し口
10) 燃料タンク フラップ オープナー スイッチ（グローブ ボックス内）
11) トランク リッド オープナー（グローブ ボックス内）
12) 助手席エアバッグ
13) グローブ ボックス
14) エア コンディショナーおよびヒーター サイド吹き出し口
15) サイド ウィンドウ吹き出し口
16) エア コンディショナー操作パネル
17) ステレオ
18) ダッシュボード スイッチ類
19) パワー ウィンドウ スイッチ
20) 1 速およびリバース ギヤ用シフト レバー
21) センターコンソール スイッチ類
22) ドアミラー調節スイッチ
23) エア コンディショナーおよびヒーター リヤ吹き出し口
24) 12 V ソケット
25) パーキング ブレーキ レバー
26) イグニッション／ステアリング ロック スイッチ
27) エア コンディショナーおよびヒーター ロア吹き出し口
28) ホーン
29) ステアリング ホイール調節レバー
30) クルーズ コントロール（オプション）、方向指示器、ロー／ハイビーム操作レバー
31) ライト スイッチ
32) ボンネット オープニング レバー
33) シート調節スイッチ

インストルメント パネル



インストルメント パネル

M138_jap_UM.book 49 ページ ２００４年１１月８日　月曜日　午前１１時５５分

1) エンジン油圧計およびロー プレッシャー ワーニング ライト

2) エンジン水温計およびオーバーヒート ワーニング ライト

3) フロント シート ヒーター ワーニング ライト

4) フロント フォグ ワーニング ライト

5) パーキング ライト／ロービーム ワーニング ライト

6) リヤ フォグ ワーニング ライト

7) エアバッグ／プリテンショナー故障 ワーニング ライト

8) ライト故障ワーニング ライト

9) ハイ ビーム ワーニング ライト

10) エンジン コントロール システム EBD 故障ワーニング ライト

11) 触媒高温ワーニング ライト

12) ABS システム故障ワーニング ライト

13) フロント ブレーキ パッド摩耗および ブレーキ液残量ワーニング ライト

14) パーキング ブレーキ ワーニング ライト

15) 方向指示灯ワーニング ライト

16) マセラティ コード ワーニング ライト

17) シート ベルト非着用ワーニング ライト

18) 助手席エアバッグの機能停止ワーニング ライト

19) 電圧計およびオルタネーター ワーニング ライト

20) 燃料計および残量ワーニング ライト

21) エンジン回転計

22) インストルメント パネル照度調節 スイッチ

23) マルチファンクション ディスプレイ

24) ドア、ボンネット／トランク オープン ワーニング ライト

25) 燃料カット スイッチ作動ワーニング ライト

26) フロント ブレーキ パッド摩耗および ブレーキ液残量ワーニング ライト

27) "Cambiocorsa" シフト インジケーター／パーキング ライト

28) 外気温度計

29) 外気温度 LED：外気温度が 2 °C 以下になると点灯します（路面の凍結警告）

30) 電子アラームシステム LED

31) スピードメーター（オドメーター／トリップメーター付き）

32) トリップ リセット ボタン

インジケーターおよびワーニング ライト

シート ヒーター（オプション）

左右いずれかのシート ヒーターが作動している時に点灯します。

フロント フォグ ライト

フロント フォグ ライトが点灯している時に点灯します。

パーキング ライト／ロー ビーム

パーキング ライトまたはヘッドライトがロー ビームで点灯している時に点灯します。

リヤ フォグ ライト

リヤ フォグ ライトが点灯している時に点灯します。

エアバッグ／プリテンショナーの故障

エアバッグまたはプリテンショナーが故障した場合に点灯します。

イグニッション キーを AVV 位置にすると一時的に点灯しますが、数秒後にエンジンが始動すると消灯します。

ワーニング ライトが点灯したままの時や、AVV 位置にしても点灯しない場合、または走行中に点灯した場合は、直ちにマセラティ正規サービス ネットワークで点検を受けて下さい。

ライトの故障

ライト系統に異常が発生した時、またはポジション ライト、方向指示器、リヤ フォグ ライトのバルブが切れた時に点灯します。

ハイ ビーム

ヘッドライトがハイ ビームの時、またはパッシング時に点灯します。

エンジン コントロール

システムの故障（EOBD）正常であれば、イグニッション キーを **AVV** 位置にすると点灯し、エンジンが始動するとすぐに消灯します。これによりワーニング ライトが正しく作動することを確認できます。

ワーニング ライトが点灯したままの場合や、走行中に点灯した場合は、燃料供給／イグニッションおよび排出ガス浄化装置に異常が発生しています。この異常により、排気ガス濃度の上昇、走行性能や操縦性の低下、燃料消費量の増加を招く恐れがあります。

こうした状況では、エンジンに高負荷をかけないようにして低速で走行して下さい。ワーニング ライトが点灯したまま走行を続けると、損傷を与える可能性があります。直ちに**マセラティ正規サービス ネットワーク**で点検を受けて下さい。システムの異常がなくなるとワーニング ライトは消灯しますが、エラーはメモリーに記録されます。

警告：イグニッション キーを AVV 位置にしてもワーニング ライト が点灯しない場合や、走行中に点灯した場合は、直ちにマセラティ正規サービス ネットワークで点検を受けて下さい。

触媒高温ワーニング ライト

SLOW DOWN

イグニッション キーを AVV 位置にすると自己診断のため点灯しますが、エンジンを始動すると消灯します。このワーニング ライトは、エンジンの異常により排気系統が高温になると、点滅または点灯し続けます。

ワーニング ライトが点滅している場合は、触媒温度が非常に高温となっています。直ちに減速してワーニング ライトが消灯するのを待ち、その後は走行速度を抑えながら慎重に運転し、マセラティ正規サービス ネットワークで点検を受けて下さい。

減速後もワーニング ライトが点滅または点灯し続けている場合は、触媒温度が危険域に達して触媒が損傷している可能性があります。周囲の交通状況に注意してできるだけ速やかに車を止め、レッカー車などによりけん引し、マセラティ正規サービス ネットワークへ回送して修理を受けて下さい。

上記の警告に従わなかった場合による損害については、マセラティ社は責任を負いかねます。

ABS システムの故障（ABS）

ABS システムに異常が発生すると点灯します。通常のブレーキ システムは作動しますが、できるだけ速やかにマセラティ正規サービス ネットワークで点検を受けて下さい。

ブレーキ パッドの摩耗／ブレーキ液残量

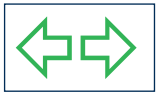
フロント ブレーキ パッドが摩耗限界に達した時もしくはブレーキ液量がミニマム レベルを下回ると点灯します。ワーニング ライトの作動は、エンジン ルームのブレーキ リザーバー タンク上のボタンを押すことでチェックできます。

警告：フロント ブレーキ パッドを交換する時には必ずリヤ パッドの磨耗も点検して下さい。

走行中にブレーキ ワーニング ライトが点灯した時は、直ちに車を止めてブレーキ液量を点検して下さい。ブレーキ液の量が MIN 以下の時はオイル漏れの可能性がありますので、走行せずにマセラティ正規サービス ネットワークで点検を受けて下さい。

パーキング ブレーキの作動

パーキング ブレーキがかかっている時に点滅します。



方向指示灯

方向指示器を作動させた時、またはハザード ライト作動時に点灯します。

マセラティ コード

イグニッション キーを **AVV** 位置にした時、次の 3 通りの点灯パターンがあります。

- 1 回点滅する場合：キー コードが認識されました。エンジンは始動可能です。
- 点灯し続ける場合：キー コードが認識されません。他のキーを試しても認識されなかった場合は、" 非常時には " の章を参照してエンジンのエマージェンシー スタートを行って下さい。
- 点滅する場合：お車はマセラティ コードによる保護がなされていません。エンジンは始動できますが、お車は盗難から保護されていない状態ですので、できるだけ早く**マセラティ正規サービス ネットワーク**で点検を受けて下さい。

シート ベルト非着用 ワーニング ライト

運転席のシート ベルトが着用されていないか、正しく着用されていない時に点灯します。ワーニング ライトの点灯と同時にブザーも 8 秒間鳴ります。

助手席エアバッグの機能停止 ワーニング ライト

助手席エアバッグの機能が停止している時に点灯します。

衝撃式燃料カット スイッチ

衝突などにより車が衝撃を受け、燃料の供給が遮断した時に点灯します。

衝撃を受けた後、ガソリンの臭いがしたり、燃料漏れを発見した場合は、火災を防ぐためスイッチをリセットしないで下さい。

インストルメントおよびインジケーター

1 – エンジン油圧計

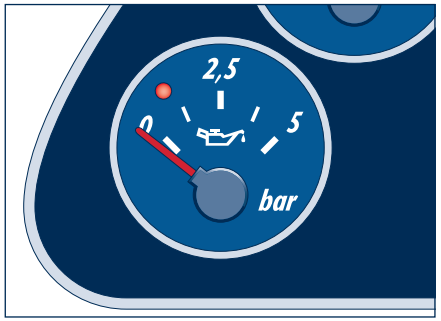
エンジンの油圧を表示します。通常走行時、針は 2.5 ～ 5 の間を指します。もし、"0" に近づいて、同時にワーニング ライトが点灯した場合には、直ちにエンジンを停止し点検をして下さい。ワーニング ライトはキーを **AVV** 位置に回すと点灯しますが、エンジンを始動するとすぐに消えます。エンジンをアイドリングにしたままの場合、ワーニング ライトは消えるのが若干遅れることがあります。エンジンを最高回転で運転した後にアイドリング状態になるとワーニング ライトが点滅することがありますが、アクセル ペダルを軽く踏むとワーニング ライトは消えます。

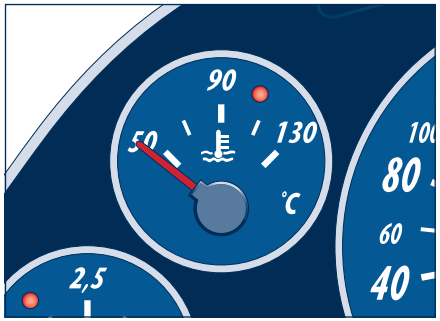
2 – エンジン水温計

エンジン クーラントの温度を表示します。針が高温を指し、同時にワーニング ライトが点灯した場合には、できるだけ速やかにエンジンを止めて**マセラティ正規サービスネットワーク**で冷却システムの点検を受けて下さい。

21 – エンジン回転計

エンジンの回転数を表示します。オーバーレブの防止と、エンジンの性能を最大限に引き出すために使用して下さい。





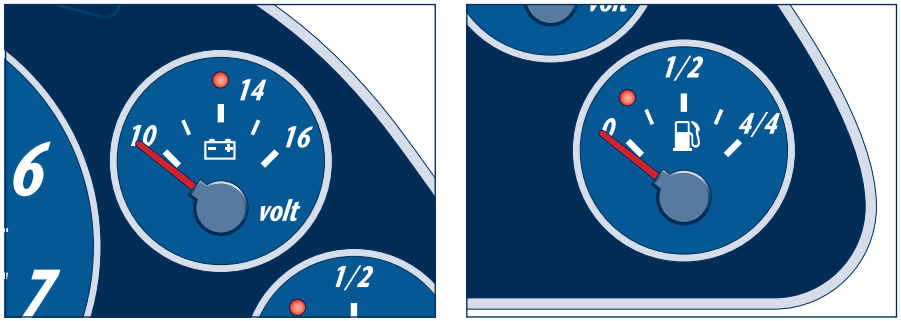
インストルメントおよびインジケーター

19 – バッテリー電圧計

バッテリー電圧と充電の状態を表示します。バッテリーの状態が良好な時は、エンジンをかけずキーが **AVV** 位置で 10 V ～ 13 V を指します。
エンジンがかかっている時には 13 V 以上になります。ワーニング ライトが点灯した時は充電系統の異常を示します。
イグニッション キーを **AVV** 位置にするとワーニング ライトは点灯しますが、エンジンを始動すると消えます。エンジンを始動してそのままアイドリングをした時はワーニング ライトが消えるのが若干遅れることがありますが、故障ではありません。

20 – 燃料計

タンク内の燃料量を表示します。残量が 18 リットル以下になるとワーニング ライトが点灯します。



インストルメントおよびインジケーター

23 – マルチファンクション ディスプレイ

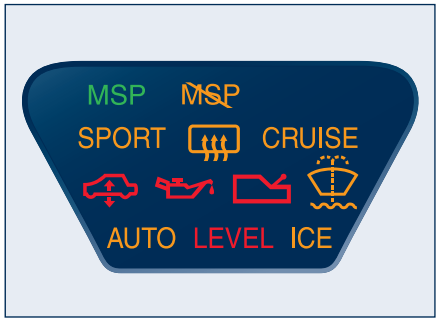
MSP MSP システムが実際に作動した時に点灯します。

MSP MSP システムが故障している時、または MSP システムが解除されている時に点灯します。

SPORT お車の設定を "SPORT" モードにすると点灯します。

リヤ ウィンドウとドアミラーの熱線が作動している時に点灯します。

CRUISE 走行速度を自動的に一定に保つクルーズ コントロールが作動している時に点灯します。



走行中、サスペンション システムに故障が生じている場合に点灯します。

エンジンの油圧が低下すると点灯します。

"Cambiocorsa" ギヤボックスに不具合が発生すると点灯します。

ウィンドシールド／ヘッドライト ウォッシャー液の残量が少ない時に点灯します。

AUTO "Cambiocorsa" ギヤボックスを "AUTO" モードに設定すると点灯します。

LEVEL "Cambiocorsa" ギヤボックスのオイルレベルが低下すると点灯します。

ICE "Cambiocorsa" ギヤボックスを " ロー グリップ " モードに設定すると点灯します。

24 – ドア、ボンネット／トランク 半ドア ディスプレイ

ドア、ボンネット／トランクのいずれかが開いている時もしくは半ドアの時に点灯します。

27 – "Cambiocorsa" シフト インジケーター／パーキング ライト

イグニッション キーを **AVV** 位置にすると "Cambiocorsa" ギヤボックスのギヤ ポジションが表示されます。

– **N**（ニュートラル）
– **R**（リバース）
– **1**（1 速）
– **2**（2 速）
– **3**（3 速）
– **4**（4 速）
– **5**（5 速）
– **6**（6 速）

パーキング ライトを点灯したままキーを抜くと、パーキング ライトのワーニング ライト が点灯します。

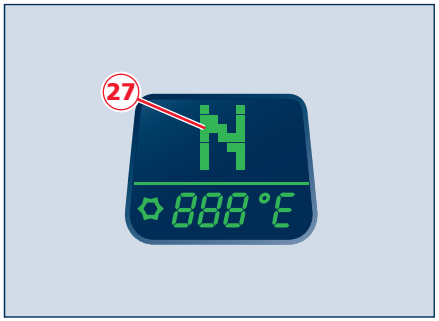
28 – 外気温度計

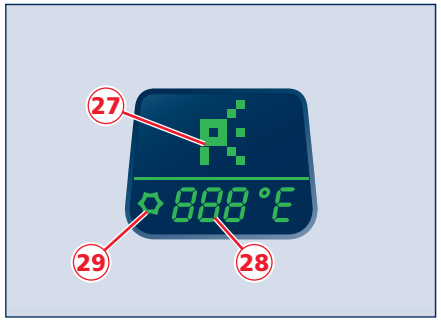
外気温度を表示します。仕様により °C と °F の表示になります。

警告："E" マークが数秒間点灯した場合は（エンジンを始動して外気温度が表示されるまでの間）、エア コンディショナー システムに不具合が発生しています。できるだけ速やかにマセラティ正規サービス ネットワークでシステムの点検を受けて下さい。

29 – 外気温度 LED

外気温度が 2 °C 以下になると点灯し、路面の凍結を警告します。





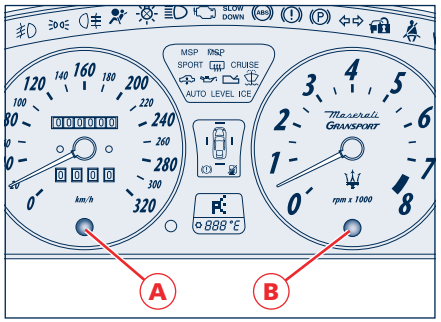
インストルメントおよびインジケーター

トリップメーター リセット ボタン

ボタン **A** を押すとトリップメーターがリセットされ **"0"** に戻ります。

インストルメント パネル 照度調節スイッチ

ヘッドライトが点灯している時にボタン **B** を回すと、インストルメント パネルの照度を調節できます。



室内の装備と操作

ハザード ワーニング ライト

ボタン **A** を押すとハザード ワーニング ライトが点灯します。この機能は、イグニッション キーの位置にかかわらず使用することができます。再度ボタンを押すと消灯します。ハザード ライトが点灯すると、方向指示灯、インストルメント パネルのワーニング ライトおよびボタンが点滅します。

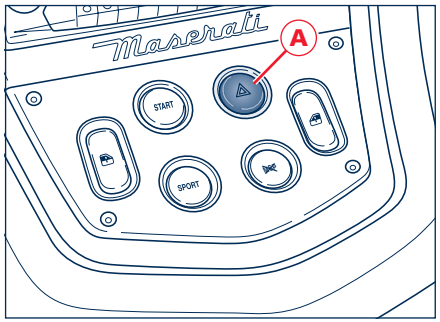
警告：ハザード ライトが点灯している時には、方向指示灯は操作できません。

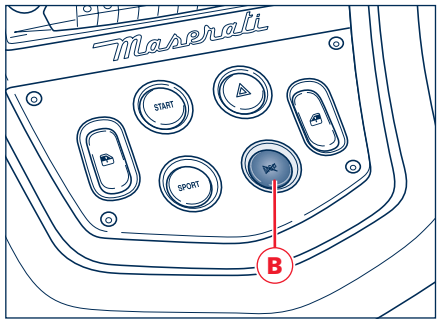
MSP システム

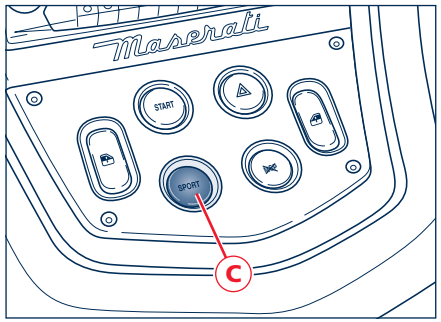
MSP システムは、エンジンを始動させると自動的に作動状態になります。
走行中、ボタン **B** を押すことで、このシステムの機能を停止したり、再び作動状態にすることができます。
誤ってこのシステムの機能を停止させてしまうことがないように、このボタンは約 2 秒間押し続けないと MSP システムを OFF にはできないようになっています。**MSP** が作動するとマルチファンクション ディスプレイの "MSP" が点灯します。
システムの機能を停止すると、マルチファンクション ディスプレイに ~~MSP~~ マークが表示され、ボタンの LED が点灯します。

SPORT セッティング モード

ボタン **C** を押すと **SPORT** モードになります。このモードでは、スポーティなドライビング スタイルに最適となるように、サスペンション システムやトラクション コントロール、"Cambiocorsa" を設定します。
SPORT モードを選択すると、乗り心地はかなり硬くなります。特に市街地や悪路では顕著に感じられます。



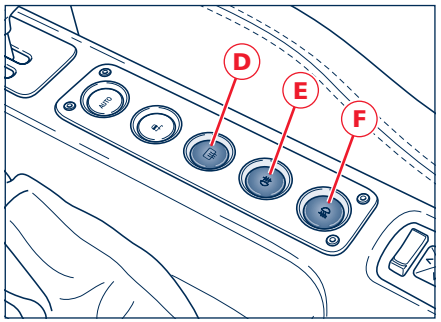




リヤ フォグ ライト

ボタン **E** を押すとリヤ フォグ ライトが点灯します。リヤ フォグ ライトは、フロント フォグ ライトまたはロー ビームが点灯中でないと作動しません。ライトが点灯すると、ボタンの LED も点灯します。

後続車の迷惑となりますので、視界が良好な時にはリヤ フォグ ライトは使用しないで下さい。



フロント フォグ ライト

ボタン **F** を押すとフロント フォグ ライトが点灯します。フロント フォグ ライトは、パーキング ライトまたはロー ビームが点灯中でないと作動しません。ライトが点灯すると、ボタンの LED も点灯します。

熱線サイド ウィンドウとドア ミラー ヒーター

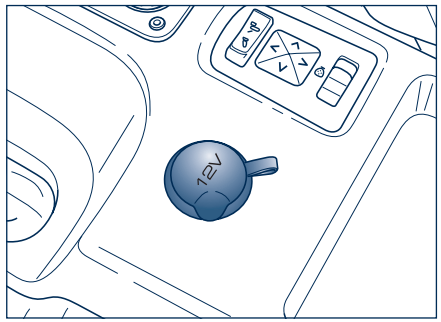
イグニッション キーが **AVV** の位置で、ボタン **D** を押すと、熱線サイド ウィンドウとドアミラー ヒーターが作動します。熱線サイド ウィンドウはタイマーにより一定時間が経過すると停止されますが、バッテリーの消耗を防ぐためにガラスのくもりや氷結がとれた場合は、スイッチを OFF にして下さい。熱線サイド ウィンドウが作動すると、ボタンの LED も点灯します。

警告：バッテリーの消耗を防ぐために、熱線サイド ウィンドウはエンジン始動中のみ操作して下さい。

12 V ソケット

警告：イグニッション キーが **AVV** の位置でのみ機器を接続し、消費電力は最大で 15 A（180 W）を超えないようにして下さい。大電流を消費する機器はソケットに接続しないで下さい。長時間電力を消費するとバッテリーが放電し、エンジンの始動不良となります。

ソケットを使用する際はカバーを開きます。



トランク リッド オープナー

グローブ ボックス内にあるボタン **G** を押すとトランク リッドが開きます。
イグニッション キーを抜いた状態、またはキーが **STOP** 位置か **ACC** 位置にある場合にのみ操作可能です。

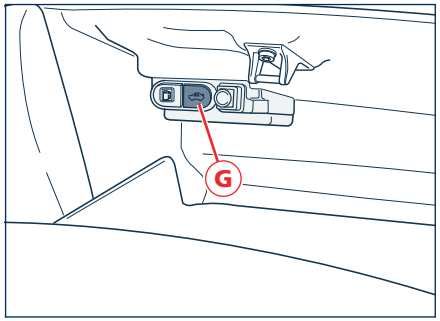
燃料タンク フラップ オープナー

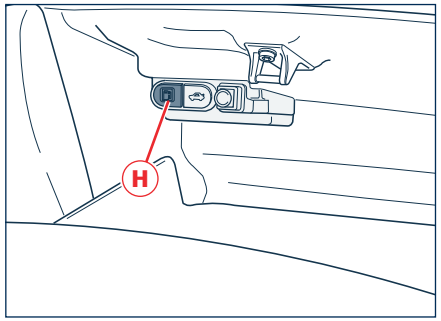
グローブ ボックス内にあるボタン **H** を押すと、右後方にある燃料タンクのフラップが開きます。
イグニッション キーを抜いた状態、またはキーが **STOP** 位置にある場合にのみ操作可能です。

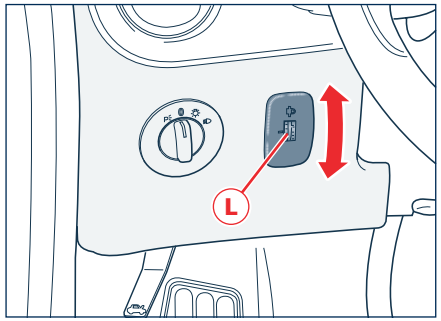
ヘッドライトの光軸調整（キセノン ヘッドライト装着車を除く。但し日本仕様車はキセノン ヘッドライト装着車輌）

キーが **AVV** 位置の時のみに作動します。
車高に応じて調整ダイヤル **L** を上下方向に回して調整します。

警告：キセノン ヘッドライト装着車は車高の変化に応じて自動的に光軸が調節されます。







時計

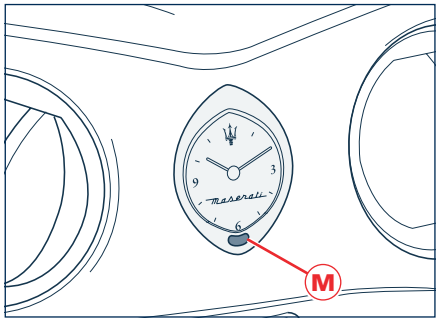
ボタン **M** を押すと調整できます。
軽く押す＝微調整
押し続ける＝高速調整
ヘッドライト点灯中は、時計のライトも点灯します。

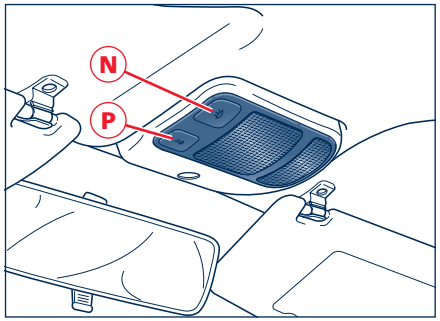
フロント ルーム ライト

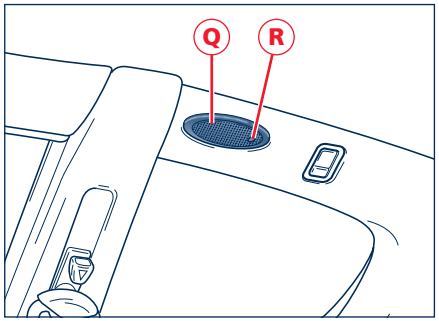
ルーム ライトには、センター ライトが 1 個、リーディング ライトが 1 個付いています。センター ライトは、いずれかのドアを開けると自動的に点灯し、閉めてしばらくすると消灯します（遅延消灯機能）。ボタン **N** を押すと手動で点灯させることができます。
リーディング ライトはボタン **P** で操作します。

リヤ ルーム ライト

リヤ ルーム ライト **Q** は、いずれかのドアを開けると自動的に点灯し、閉めてしばらくすると消灯します（遅延消灯機能）。ボタン **R** を押すと手動で点灯させることができます。







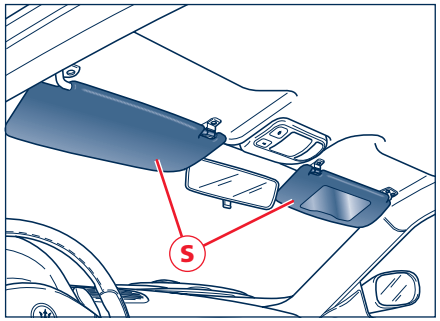
サン バイザー

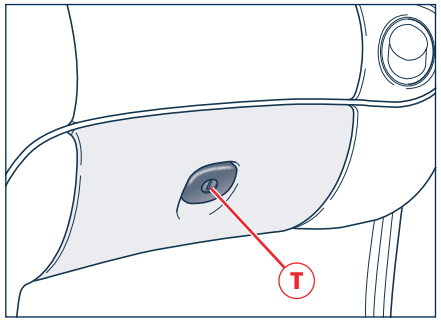
前方または横に倒すことができます。横にする場合は一旦下に下げ、リテイナー **S** から外して下さい。
助手席のサン バイザーを下げると、ライト付きのバニティ（化粧）ミラーを使用することができます。このミラーのライトは、イグニッション キーが **AVV** にある場合、ミラー カバーを開けると自動的に点灯します。サン バイザーを元通り上に上げる前に、ミラー カバーは閉めて下さい。

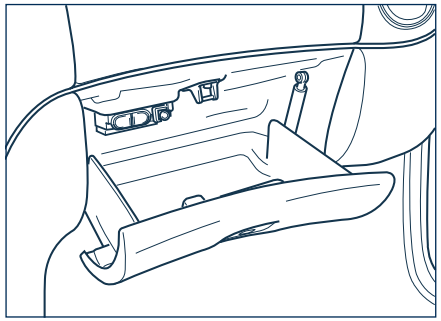
グローブ ボックス

助手席側のダッシュボード下部にあり、ボタン **T** 押すと開くことができます。グローブ ボックスを開けると、内部のライトが点灯します。

安全のため、走行中はグローブ ボックスは常に閉めておいて下さい。







シート ポケット

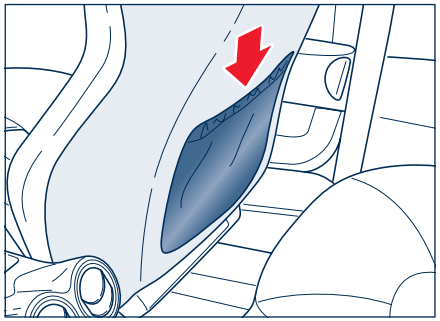
フロント シートの背もたれの背後にはマップ ポケットが付いています。

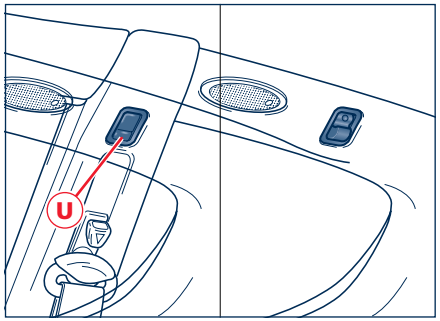
警告：重いものや尖ったものはシート ポケットに収納しないで下さい。

コート フック

コート フックは室内後方にあります。フックのボタン **U** を押すとフックを引き出せます。元に戻すには上向きに押して下さい。

フックを使わない時は閉じておいて下さい。





M138_jap_UM.book 64 ページ ２００４年１１月８日　月曜日　午前１１時５５分

M138_jap_UM.book 65 ページ ２００４年１１月８日　月曜日　午前１１時５５分

運転する前に

ドア 66
ボンネット 68
トランク リッド 69
燃料タンク フラップ 70
キー 71
イグニッション スイッチ 74
電子アラーム システム（オプション） 75
フロント シート 79
リヤ シート 82
バック ミラー 83
ステアリング ホイール 85
ライトおよび方向指示器 86
ウィンドシールド ワイパーおよびヘッドライト ウォッシャー（日本仕様は標準装備） 88
ステレオ システム　※日本仕様は一部の機能が使用できません。 90
エア コンディショナーおよびヒーター 92
専用ラゲッジセット（オプション） 98

ドア

外側からの開閉

リモート コントロールを使ってアラームと集中ドア ロックを解除します（" 電子アラーム システム " のセクション、p. 75 を参照）。集中ドア ロックが解除したら、ドア ハンドルを引き上げてドアを開きます。リモート コントロールで集中 ドア ロックが解除できない場合は、左右いずれかのドアにキーを差し込んで回し、ドアを開きます。

ドア下側に装着されているエアロパーツに足をかけないで下さい。荷重を加えると破損してケガをする可能性があります。

内側から開けるときは

左右いすれかの ドア ハンドルにあるロック解除ボタン **A** を押すと集中ドア ロックが解除されます。
またはドア ハンドルを引いて解除することもできます。

警告：いずれかの ドアが半ドアのときやシステムに異常が発生した場合には、集中ドア ロックは作動しません。数回作動後にシステムは数分間遮断されますが、この間は電子操作を使用しなくても手動でロック／解除ができます。一定時間が経過後、不具合が解消された場合は、通常の作動にリセットされます。不具合が解消されない場合、この作動が繰り返し行われます。

半ドア ワーニング ライト

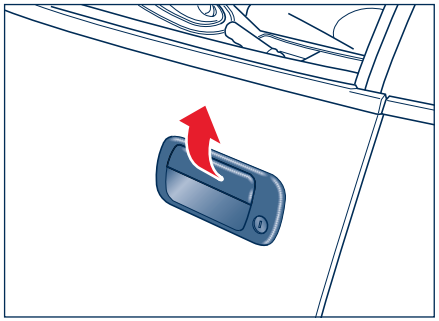
ドアやボンネット、トランク リッドが半ドアになっていると、インストルメント パネルのワーニング ライトが点灯します。

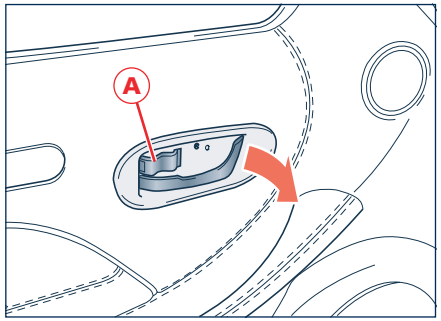
パワー ウィンドウ

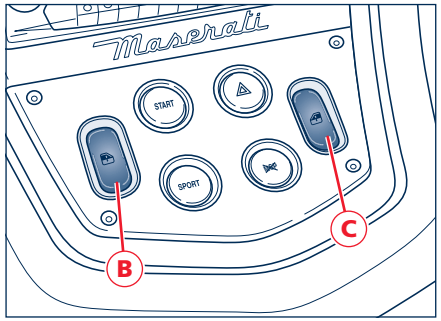
イグニッション キーが **AVV** 位置にないと作動しません。
パワー ウィンドウ操作スイッチはギヤシフト レバー前方のセンター コンソールに付いています。

B - 左フロント ウィンドウの開閉スイッチ

C - 右フロント ウィンドウの開閉スイッチ







ドア

イグニッション キーが **AVV** 位置のとき、運転席側ウィンドウのスイッチ **B** を押すと、ウィンドウはオート モードで自動的に規定位置まで作動します。もしくはボタンを押すと停止します。

警告：ドアが開いている状態でパワー ウィンドウを操作すると、ウィンドウは最上部に到達する前に停止し、ドアを閉じる時にシールが挟まれるのを防ぎます。

ドアを開くと、ウィンドウは自動的に少しだけ開き、ドアを完全に閉めるとウィンドウは完全に閉まります。ドアの開閉をするときは、ウィンドウのそばに人（特にお子様）がいないことを確かめて下さい。

パワー ウィンドウの操作を誤ると危険です。ウィンドウを閉めるときには人が近くにいないこ とを確認してから操作して下さい。車からはなれるとき（特に車内に人を残すとき）にはパワー ウィンドウの誤操作を防ぐためイグニッション キーを抜き取って下さい。

絶対に車内にお子様を残して車からはなれないで下さい。イグニッション キーが STOP 位置にあっても、またキーを抜き取っていても、ドアが開き半ドアになると、パワー ウィンドウは作動可能になり非常に危険です。

ウィンドウを閉めたまま車内にお子様を残して車からはなれないで下さい。車内が非常に高温になり非常に危険です。

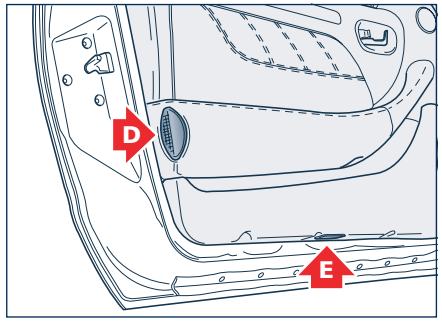
警告：バッテリーを外す前に 4 ～ 5 cm 以上ウィンドウを下げ、ドアの開閉時にシールが損傷しないようにして下さい。バッテリーを接続してドアを開閉すると自動的にウィンドウが上昇します。そのためバッテリーを接続するまでウィンドウは下げたままにして下さい。
ウィンドウが上がったままバッテリーが放電した時は、必要な場合のみ十分注意してドアを開けて下さい。ウィンドウが下がっていない状態でドアは閉めないようにして下さい。

ドア開放インジケーター

各ドアには反射器 **D** が付いています。

ドア足元ライト

各ドアの下部には足元を照らす照明灯 **E** が付いています。



ドア

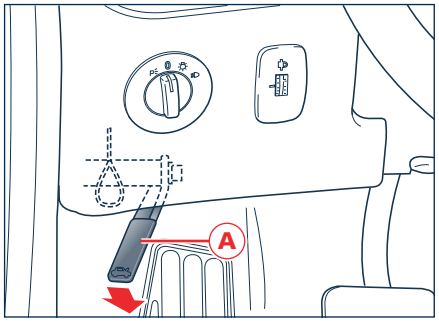
ボンネット

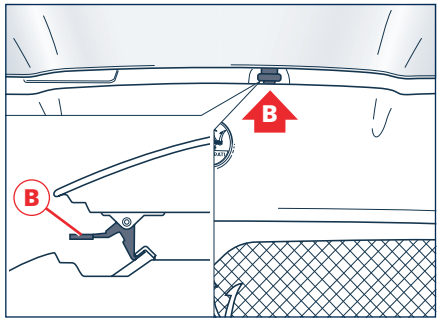
ボンネットを開けるには、ダッシュボードの左横下部にあるレバー **A** を引いて下さい。

注意：非常時にはレバー近くの緊急ケーブルを引いて開けることもできます。

ラジエター グリルの中央にあるボタン **B** を押し上げると、安全装置が外れてボンネットを引き上げることができます。
ボンネットは 2 本のダンパーで軽く持ち上げられるようになっています。
ボンネットは自動的にいっぱいまで開きます。ステーなどで支える必要はありません。
ボンネットを閉めるには、エンジン ルームから 20 cm 程度の高さまで降ろし、そのまま手を放して下さい。ボンネットは自動的に閉まります。

走行中にボンネットが開かないよう、ボンネットが確実に閉まっていることを必ず確認して下さい。





ボンネット

トランク リッド

トランク リッドは車内からも車外からも開くことが可能です。車内からトランク リッドを開ける場合は、グローブ ボックス内にあるボタン **A** を使用します。トランク リッドを開けることができるのは、イグニッション キーを抜いている場合、またはキーが **STOP** 位置か **ACC** 位置になっている場合だけです。

車外からトランク リッドを開ける場合は、イグニッション キーを使用します。

トランク リッドはガス ストラットによって支えられます。

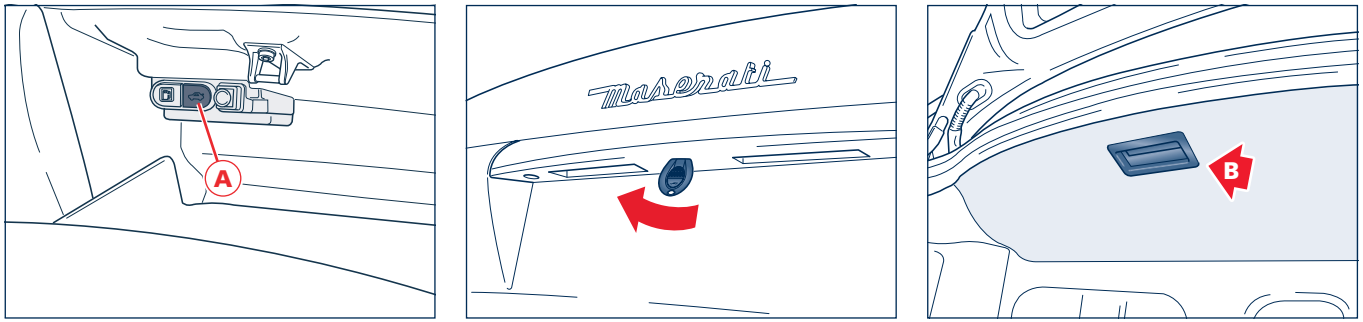
警告：ストラットは製造元が定めた規定重量を支える場合に正しい動作ができるよう設計されています。規定以外の物（スポイラーやトランク ラックなど）を装着した場合、トランク リッドが正しく作動せず、安全に使用できなくなることがあります。

トランク内には最大積載量（" 容量および技術仕様 " の章を参照）を超える荷物は積まないで下さい。また、荷物がトランク内で動かないよう注意して下さい。

警告：トランク内に重い荷物を積んだ状態での夜間走行時には、ヘッドライトのロー ビームを調整することをお薦めします（キセノン ヘッドライト装着車は除く）。" ヘッドライトのロー ビーム調整 " を参照して下さい。

トランクが開くと自動的にトランク内のライト **B** が点灯し、一定時間を経過すると自動的に消灯します。

トランク リッドを開いたままにするとライトは数分後に消灯します。ふたたび点灯させたいときは一旦トランクを閉めてからもう一度開いて下さい。



トランク リッド

燃料タンク フラップ

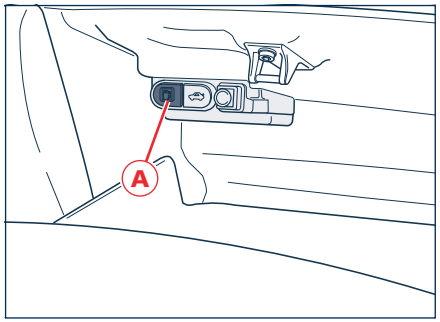
燃料タンク フラップは車の右後方にあります。フラップを開くには、グローブ ボックス内側にあるボタン **A** を押して下さい。
イグニッション キーを抜いた状態か、またはキーが **STOP** 位置にないと操作できません。
キャップを閉めると密閉状態となるため、走行中に燃料タンク内の圧力はわずかに上昇します。
キャップを緩めた時に圧力が抜けてシューという音がすることがありますが、異常ではありません。

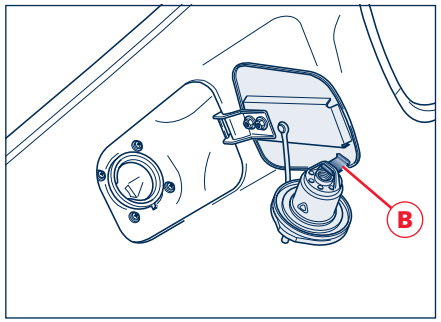
給油の際、キャップはフック **B** を使ってフラップにぶら下げておいて下さい。
キャップは、ストラップを介して燃料補給口につながっています。これはキャップが紛失するのを防止するためです。
フラップは手で閉めて下さい。
フラップを閉める前に、必ずキャップがしっかり閉まっていることを確認して下さい。

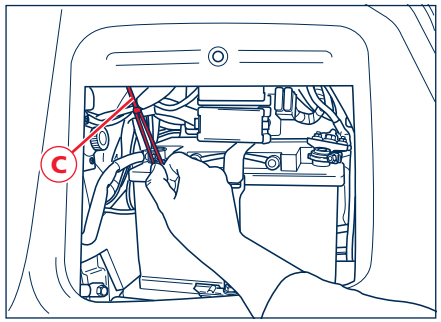
火災の危険がありますので、燃料補給口に火気や火のついた煙草を近づけないで下さい。また、顔を近づけて有毒ガスを吸い込むことのないよう注意して下さい。

燃料タンク フラップの非常開放

非常時にはトランク ルームの右側にあるケーブル **C** を引くと、燃料タンク フラップを開けることができます。





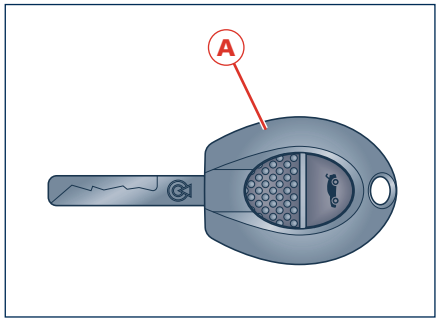


燃料タンク フラップ

キー

マセラティ CODE システム

盗難防止効果をさらに高めるために、お車にはイグニッション キーを抜き取ると自動的に起動してエンジンを始動できなくする電子イモビライザー システム(Maserati CODE)が取り付けられています。
各イグニッション キーには送信機が組み込まれており、特有のコード信号を発しています。キーを差し込んだ時に、車側のマセラティ コード ECU が正規キーの信号を認識した場合にのみ、エンジンが始動するようになっています。
車には 2 本のイグニッション キー **A** が付属しています。



このキーには次の機能があります。

- エンジン始動
- ドアのロックおよびロック解除（集中ドア ロック）
- グローブ ボックスのロックおよびロック解除
- 助手席エアバッグの機能停止および停止解除（日本仕様は作動しません）
- トランク リッドのロックおよびロック解除（電動および手動）
- アラーム システムの作動／解除

作動

キーを **STOP** 位置の状態から抜き取ると、保護システムが働いてイモビライザー システムが作動します。
エンジンを始動させるため、キーを **AVV** 位置に回した時：

1) キーのコードが認識されると、インストルメント パネルのワーニング ライト **CODE** が 1 秒以内に消灯し、さらに自己診断が終了するとワーニング ライト **EOBD** が約 4 秒後に消灯します。これは、保護システムがキーのコードを認識し、イモビライザー システムを解除したことを意味しています。キーを AVV 位置に回し、START ボタンを押すとエンジンが始動します。

2) ワーニング ライト **CODE** が点灯したままで、ワーニング ライト **EOBD** が 4 秒後に一旦消灯してからすぐに再び点灯した場合は、キーのコードが認識されていません。この場合は、キーを一度 **STOP** 位置に戻してから、再度 **AVV** 位置に回して下さい。イモビライザーを解除できない場合は、他のキーで試してみて下さい。それでもエンジンを始動できない場合は、エマージェンシー スタートの方法（" 非常時のエンジン スタート " の章を参照）で始動し、**マセラティ正規サービス ネットワーク**で点検を受けて下さい。

イグニッション キーが **AVV** 位置の走行時：

1) ワーニング ライト **CODE** が点灯した場合は、コード システムが自己診断を実行中であることを示しています。車を停車させると、システムの点検を行うことができます。イグニッション キーを **STOP** 位置にしてエンジンを停止させ、再び **AVV** 位置に回して下さい。ワーニング ライト **CODE** が点灯しますが、正常であれば約 1 秒以内に消灯します。消灯しない場合は、キーを **STOP** 位置に戻して 30 秒以上そのまま待ち、再度 AVV 位置に回して下さい。不具合が直らない場合は、**マセラティ正規サービス ネットワーク**で点検を受けて下さい。

2) ワーニング ライト **CODE** が点滅している場合は、イモビライザー装置によって車が保護されていないことを示しています。すぐに**マセラティ正規サービス ネットワーク**で点検を受け、全てのキーのコードを記憶させて下さい。

警告：キーの中に組み込まれている発信装置は、強い衝撃を与えると壊れることがあります。

警告：各キーはそれぞれ固有のコードを持っており、それらのコードはシステムの ECU に記憶されている必要があります。

スペア キーの作製

スペア キーの作製時、キー（最大 7 本まで）にコードを記憶させる作業は、お手持ちのキーを含めて全てのキーが揃っていないと行うことができません。お近くの**マセラティ正規サービス ネットワーク**に、お手持ちの全てのキー、マセラティ コード システムのコード カード、電子アラーム システムのコード カード、および身分証明書と車の所有を証明する書類をお持ち下さい。キーに新しいコードを記憶させると、以前のコードは消去されますので、紛失したキーや盗難にあったキーを使用してエンジンを始動することはできなくなります。

非常時のエンジン スタート

コード システムの故障によってイモビライザーを解除できない場合は、ワーニング ライト **CODE** が点灯したままとなり、ワーニング ライト **EOBD** が 4 秒後に消えた後またすぐ点灯して、エンジンは始動できなくなります。このような場合はエマージェンシー スタートでエンジンを始動して下さい。

警告：非常時のエンジン スタートを行う時には、まず最初に操作方法をよくお読みいただき、内容を理解してから行って下さい。

途中で間違えた場合は、キーを **STOP** 位置に戻し、最初のステップ **1** からやり直して下さい。

1) コード カードに記載されている 5 桁の電子コードを手元に用意して下さい。

2) キーを **AVV** 位置に回して下さい。この時、ワーニング ライト **CODE** と **EOBD** が点灯します。

3) アクセル ペダルをいっぱいに踏み込んだままにします。約 8 秒後にワーニング ライト **EOBD** が消えたら、アクセル ペダルを放します。その後、**EOBD** が点滅しますので、注意して点滅回数を数えて下さい。

4) コード カードの 1 桁目の数字と同じ数だけ点滅した時点で、すぐにアクセル ペダルを踏み込み、**EOBD** が約 4 秒間点灯後に消灯するまで踏み続けて下さい。EOBD が消えたらアクセル ペダルを放して下さい。

5) **EOBD** が再び点滅し始めますので、コード カードの 2 桁目の数字と同じ数だけ点滅したら、アクセル ペダルを踏み込みそのままにします。

6) コード カードの残りの桁についても、同様の作業を繰り返して下さい。

7) 最後の桁においても、同じようにアクセル ペダルを踏み込んだままにし、**EOBD** が 4 秒間点灯して消えたら、アクセル ペダルを放して下さい。

8) **EOBD** が早いテンポで点滅（約 4 秒間）したら、作業は正常に終了したことになります。

9) START ボタンを押してエンジンを始動させて下さい。

ワーニング ライト **EOBD** が点灯したまま消えない場合は、一旦キーを **STOP** 位置に戻して、ステップ **1** の手順からやり直して下さい。以上の手順は、何度でも繰り返し行うことができます。

警告：エマージェンシー スタートを行った後は、なるべく早く**マセラティ正規サービスネットワーク**で点検を受けて下さい。一度エマージェンシー スタートを実行すると、エンジンを始動させるたびに以上の手順を行わなければならなくなります。

イグニッション スイッチ

イグニッション スイッチには、以下の 3 つのポジションがあります。

STOP

エンジン停止状態。キーを抜くことができます。
キーを少しでも引き抜くとすぐにステアリング ホイールがロックします。
ステアリング ホイールのロックを解除するには、ステアリング ホイールを左右に少し回しながら行います。

ACC

シガ ライターが使用できます。この位置ではキーを抜くことができません。

AVV（イグニッション）

キーをこの位置に回すと車両の各システムを点検し、異常がなければエンジンの始動が可能です。

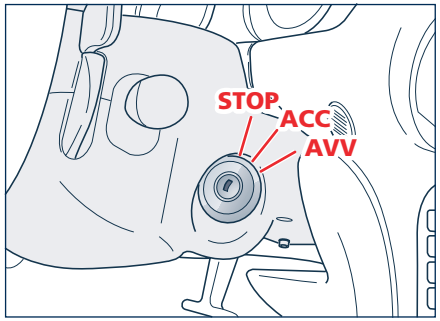
START ボタン

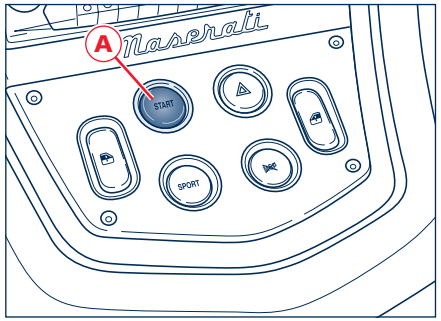
ボタン **A** を押すとエンジンのスターターモーターが作動します。
エンジンが始動したらすぐに START ボタンを放して下さい。
START ボタンを長時間押さないで下さい。始動については " エンジンの始動 " を参照して下さい。

イグニッション スイッチが（盗難などのため）加工されている恐れがある場合には、エンジンを始動させる前にマセラティ正規サービス ネットワークで点検を受けて下さい。誤作動防止のため、キーを差したままで車から離れないで下さい。

常にパーキング ブレーキをかけるようにし、上り坂ではギヤを 1 速に、下り坂ではリバース ギヤに入れるようにして下さい。

絶対に車内にお子様を残して車から離れないで下さい。





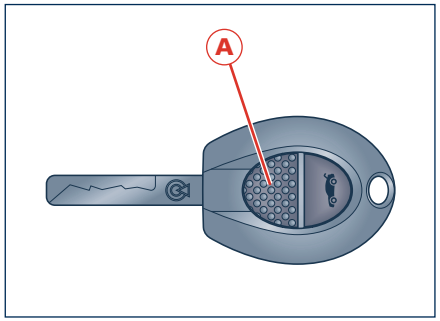
イグニッション スイッチ

電子アラーム システム（オプション）

電子式のアラーム システムには以下のような機能があります。

– リモート コントロールによる集中ドア ロック／ロック解除。
– 車外を監視し、ドア、ボンネットまたはトランク リッドが開くと検知して警報を出します。
– 車内への侵入を検知して警報を出します。
– 車が動くと警報を出します。

警告：エンジン イモビライザー機能は、マセラティ コード システムに基づく機能で、キーをイグニッション スイッチから抜くと自動的に作動するように設定されています。



作動

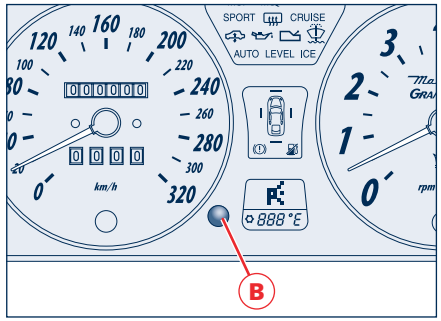
電子アラーム システムを作動させるには、キーのボタン **A** を押して下さい。

– 方向指示灯が 2 回点滅します。
– インストルメント パネルの赤い LED **B** が点滅します。
– 集中ドア ロックが作動し、ドアがロックされます。

警告：操作可能範囲外の場所でキーのボタンを 16 回以上押してしまった場合は、ボタンを 2 回続けて押し電子アラーム装置をリセットして下さい。

約 25 秒後にアラーム システムは機能を開始し、以下のことを検知すると警報が鳴るようになります。

– ドアが開けられた時
– トランクが開けられた時
– ボンネットが開けられた時
– 窓から車内に侵入しようとした時
– 車の電源が切られた時
– サイレンの配線が切られた時
– 車が動かされた時



電子アラーム システム（オプション）

アラーム システムをセットした時に方向指示灯が 8 回点滅した場合は、いずれかのドア、トランク リッドまたはボンネットが完全に閉まっていないために、監視による保護が行われていないことを示しています。ドア、トランク、ボンネットがきちんと閉まっているか確認して下さい。その際、アラーム システムを解除しないまま、開いていたところを閉め直して下さい。方向指示灯が 1 回だけ点滅して、システムが正常に作動し、監視状態に入ったことを示します。

警告：ドア、トランク、ボンネットが完全に閉まっているにもかかわらず、方向指示灯が 8 回点滅する場合は、自己診断機能がシステムの故障を検知したことを示していますので、マセラティ正規サービス ネットワークで点検を受けて下さい。

電子アラーム システムの解除

電子アラーム システムを解除するには、キーのボタン **A** を再度押します。

– 方向指示灯が 1 回点滅します。
– インストルメント パネルの赤い LED **B** が消灯します。
– 集中ドア ロックが作動してドアのロックが解除されます。

アラーム システムが解除され、車に乗り込みエンジンを始動できるようになります。

車内監視機能の解除（超音波システム）

ウィンドウを下げたり、車内にペットなどを残して車からはなれる時には、車内の監視機能だけを解除することができます。
車内監視機能を解除するには、アラーム装置をセットする時に、キーのボタンを 3 秒間押したままにします。

– 方向指示灯が 1 回点滅します。
– インストルメント パネルの赤い LED ライトが約 25 秒間点灯します。

25 秒後にアラーム装置が作動状態になりますが、ウィンドウを操作したり、車内にいるペットなどが動いても警報は鳴りません。

アラーム メモリー

エンジンを始動した時に、インストルメント パネルのワーニング ライト **B** が点滅した場合は、お車から離れていた間に不法な侵入が試みられたことを示しています。

6 秒間に 1 回の点滅 ＝ 室内侵入を検知した警報

6 秒間に 2 回の点滅 ＝ ドアが開いたことを検知した警報

6 秒間に 4 回の点滅 ＝ ボンネットまたはトランクが開いたことを検知した警報

6 秒間に 16 回の点滅 ＝車のバッテリー電源が一時切れたことを検知した警報

アラーム システムのメモリーは、イグニッション キーを回すとリセットされます。

法定基準

この電子アラーム システムは、各国の現行の電波基準に適合しています。
ホモロゲーション番号は、本マニュアル巻末の「目次」の前に記載されています。
送信機や受信器の表示が必要な市場向けに、該当するコンポーネントには認定マークが記載されています。

リモート コントロールの追加注文

リモート コントロールを注文する時には、必ず**マセラティ正規サービス ネットワーク**に以下のものを提示して注文して下さい。

- お手持ちの全てのリモート コントロール
- マセラティ コード システムのコード カード
- 電子アラーム システムのコード カード
- 身分証明書
- 車の所有を証明する書類

警告：盗難または紛失したリモート コントロールによる悪用を防ぐため、新しいコードを記憶していないリモート コントロールは、自動的に機能しなくなります。

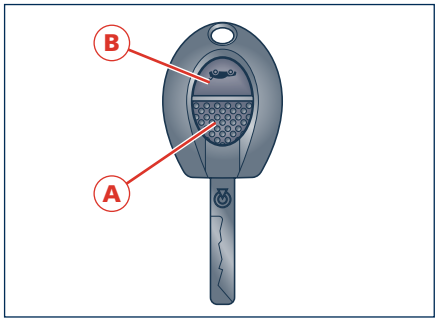
リモート コントロールの電池交換

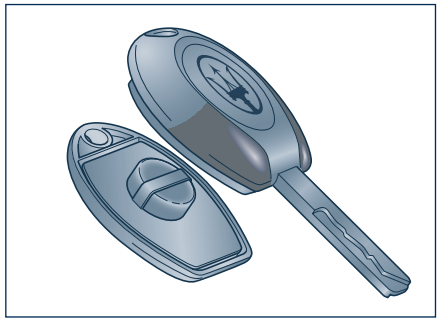
リモート コントロールのボタン **A** と **B** を押しても、アラーム装置のオン／オフやトランクが開かない場合は電池を交換して下さい。他のリモート コントロールで正常に動く場合は、リモート コントロールの電池を交換して下さい。

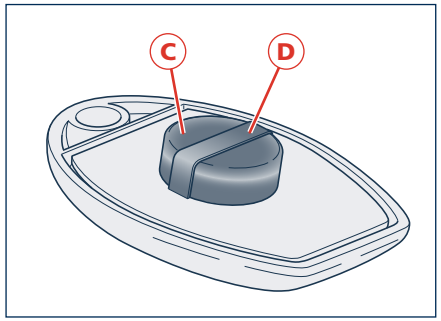
電池の交換方法

- 細いドライバーを使ってキー ケースを開きます。
- 電池 **C** をリング **D** から取り外します。
- 表示されている極性に注意して新しい電池をリングに取り付けます。
- キー ケースを閉じます。

警告：キー ケースの開閉には尖った道具を使用しないで下さい。また、キー ケースを傷めないようていねいに取り扱って下さい。





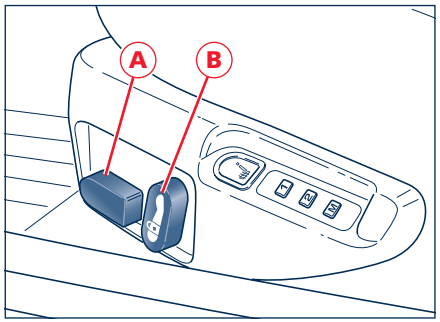


電子アラーム システム（オプション）

フロント シート

シートの調節は必ず車が停止している時に行って下さい。走行中にシートの調節を行うと運転を誤る可能性があります。シートを移動させる間に運転から注意がそれたり、誤ってペダルを踏む原因になります。運転席シートの調節は、必ず車が停止している時に行って下さい。

シートの調節は、イグニッション キーが **AVV** 位置にある時のみ可能です。
ただし、ドアが閉まった状態では、イグニッション キーを **STOP** 位置に回した後も約 15 秒以内であれば調節を開始できます。そして最後の操作を行った後、さらに 15 秒間、調節可能な時間が延長されます。



前後の調節

シート横のレバー **A** を前後に動かすと、シートが前後に動きます。

警告：消火器（オプション：日本仕様は未設定）を装着している車は、消火器があるため助手席側の移動が制限されます。

高さの調節

レバー **A** を中央部で持ち、上下に動かして調節します。

シート角度の調節

- シート前部の角度は、レバー **A** の前端部を上下に動かして調節します。
- シート後部の角度は、レバー **A** の後端部を上下に動かして調節します。

背もたれの角度の調節

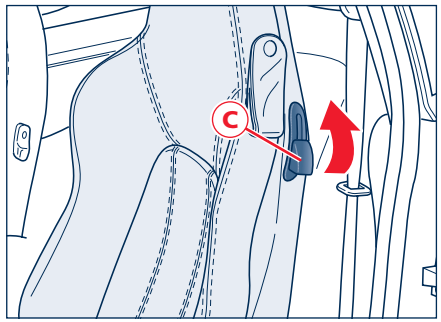
レバー **B** を前後に動かして背もたれの角度を調節します。

ランバー サポートの調節

レバー **B** を上下に動かして快適な位置に調整して下さい。

背もたれのチルト

フロント シートの背もたれを倒すにはレバー **C** を持ち上げて、背もたれを前方に倒します。
リヤ シートへの容易なアクセスや降車しやすいように、フロントシートには "イージー エントリー機能 " が装着されています（ドアが開いている時のみ作動します）。
シートは自動的に前及び下方へ移動し、背もたれを起こすとシートも元の位置まで戻ります。



フロント シート

警告：システムには（シート メモリーを除く）、安全装置があり、背もたれが後部座席の搭乗者にぶつかるとシートは作動を停止し、少し前方へ移動します。シート移動中にスイッチ **A** を操作するとシートの前後移動は停止します。

フロント シート背もたれを倒したり、まっすぐに立てる時は、フロント シートを使用しないようにして下さい。フロント シートが停止している時のみリヤ シートに出入りができます。動作中はリヤ シートの搭乗者（特にお子様）がフロント シートに触れないように注意して下さい。

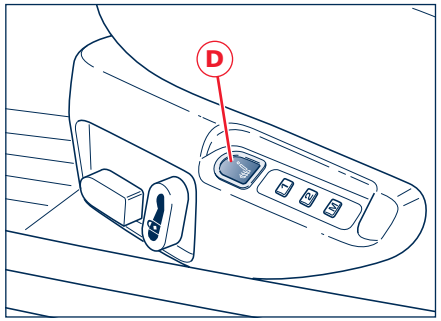
シート ヒーター（日本仕様は標準装備）

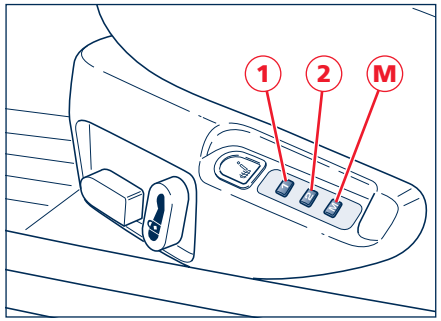
左右シートのスイッチ **D** を押すと、ヒーターを作動させることができます。シート ヒーターは左右別々もしくは同時に作動させることが出来ます。
シート ヒーターを作動させると、該当するワーニング ライトがディスプレイに表示されます。

警告：バッテリーの消耗を防ぐために、シート ヒーターは必要なときのみ操作して下さい。

運転席シートとドア ミラーの位置のメモリー（日本仕様は標準装備）

このシステムにより、運転席シートとドア ミラーの数種類の位置を記憶させ、呼び出すことが可能です。
記憶させる作業は、イグニッション キーが **AVV** 位置にないと行うことはできません。
シート、ヘッドレスト、ドア ミラー、ステアリング ホイールの位置を調節してからギヤをリバースに入れ、後進時でも見やすいようにもう一度ドア ミラーを調節します。
その後、ギヤを戻します。次に **M** ボタンを押した後 1 もしくは 2 のボタンを確認音が鳴るまで押し続けます。





ランバー サポートの位置は記憶させることはできません。
どちらかボタンに新しくシート位置を記憶させると、それまで記憶されていたメモリーは消去されます。
ドアを開けた状態の場合、記憶されていた位置を呼び出すには、ボタン **1** か **2** のいずれかを約 3 秒間押します。
ドアを閉めた状態の場合、記憶されていた位置を呼び出すには、該当するボタンを音が鳴るまで押し続けます（シートの動きが止まると音が鳴ります）。

警告：シートの動きを止めるには、**M**、**1**、**2** のいずれかのボタンを押すか、またはシート調節レバーのいずれかを操作して下さい。

警告：シート コントロール ユニットに不具合が発生すると、イグニッション キーを **STOP** 位置にした時に 5 回ブザーが鳴りますので、**マセラティ正規サービス ネットワーク**で点検を受けて下さい。

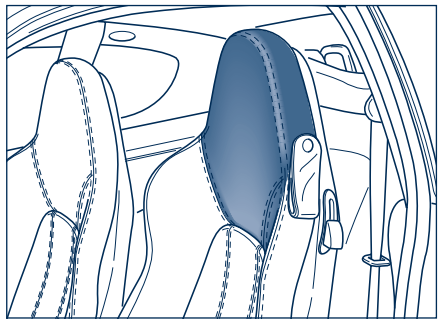
システムの初期化

バッテリーを遮断した場合は（バッテリー マスター スイッチをオフ、ヒューズ切れ、バッテリー上がりなど）、接続後にシートが正しく作動するか確認して下さい。
正常に作動しない時はキーを **STOP** 位置に回して、調節するシート側のドアを一旦閉めてからドアを開いて 5 秒以内に操作を開始し、10 秒以内に全ての操作を終了して下さい。

1) 前に動かして止める。
2) 後ろに動かして止める。
3) 前に動かして止める。
4) 後ろに動かして止める。
5) 背もたれをいっぱいに倒して、シートが前後の動作を完了するまで待ちます。
6) 背もたれを元の位置に戻します。

ヘッドレスト

ヘッドレストはシートと一体です。



フロント シート

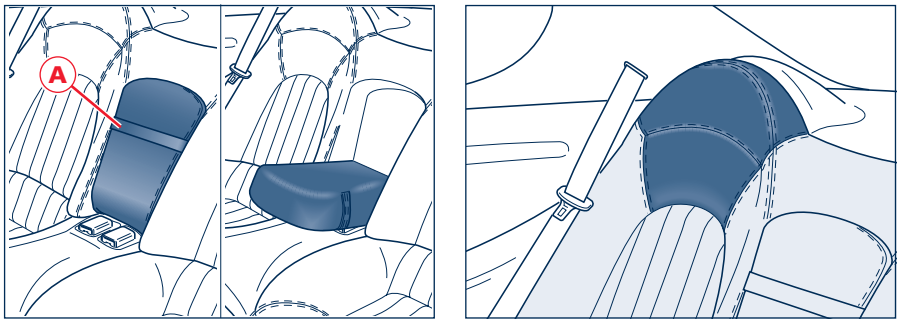
リヤ シート

アームレスト

リヤ アームレストは座席に格納することができます。使用する時は、ストラップ **A** を引いて下さい。

ヘッドレスト

リヤ ヘッドレストは背もたれと一体です。



リヤ シート

バック ミラー

ドア ミラー

ドア ミラーは電動式で（イグニッション キーが **AVV** 位置の時に作動）、熱線ヒーターが内蔵されています。

– まず、左右どちらかのミラーを選択します。セレクター スイッチ **A** を、調節したいミラーの側（右／左）に動かします。誤ってミラー位置を動かしてしまうことのないように、セレクター スイッチを中央位置に戻しておいて下さい。

– 次に、ミラーを調節します。スイッチ **B** を使って上下左右に調節して下さい。

– ミラーの格納：セレクター スイッチ **C** を押すと、両側のミラーが格納され、狭い場所で駐車するときなどに便利です。ミラーを元の位置に戻したいときはセレクター スイッチをもう一度押して下さい。

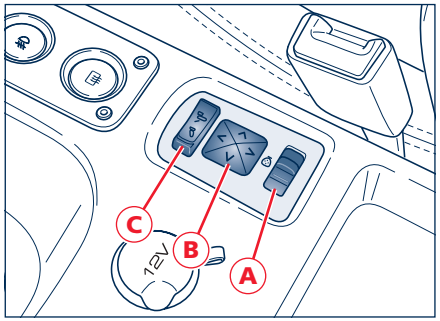
ミラーは衝突時などには両側どちらにも曲がるようになっています。

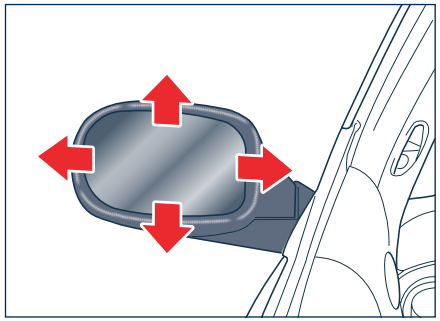
シート位置メモリー機能を装備している場合は、シート位置と同時に、ドア ミラーの位置も自動的に記憶されます（前進と後進用）。

新しいドア ミラーの位置を記憶させるには、イグニッション キーを **AVV** にした状態でドア ミラーを調節し、ギヤをリバースに入れて、後進時でも見やすいようにもう一度ドア ミラーを調節します。その後、ギヤを元に戻します。最後に、シート横のボタン **M** を押した後 **1** か **2** のいずれかを、手順終了を示す音が鳴るまで押し続けます（各ボタンに違った位置を記憶させることができます）。これで、シート位置とともに、新しいドア ミラーの位置が自動的に記憶されます。ミラーの位置は、前進と後進用に調節することも可能です。

警告：ミラーの電動部の損傷を避けるため、手動で格納したり展開したりすることは絶対にお止め下さい。

走行中は必ずミラーは展開した状態にしておいて下さい。



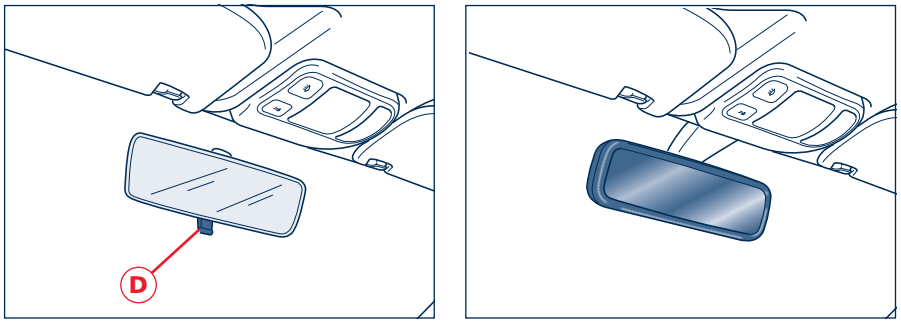


ルーム ミラー

調節式で防眩機構がついています。
ミラー下部のレバー **D** で調節して下さい（日中や夜間など）。
安全のため、ミラーは強い衝撃が加わると外れるようになっています。

自動防眩ドア ミラー（オプション）

夜間に後続車のライトがミラーに眩しく映ると、自動的に防眩機能が働きます。
後進時には、最大限の視界が確保されるように、この機能は自動的に解除されます。



バック ミラー

M138_jap_UM.book 85 ページ ２００４年１１月８日　月曜日　午前１１時５５分

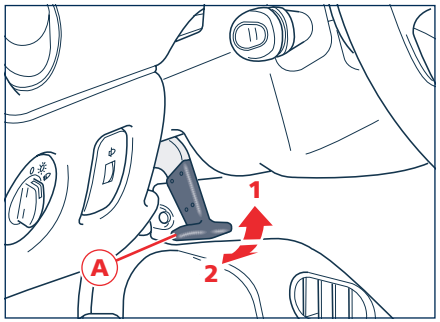
ステアリング ホイール

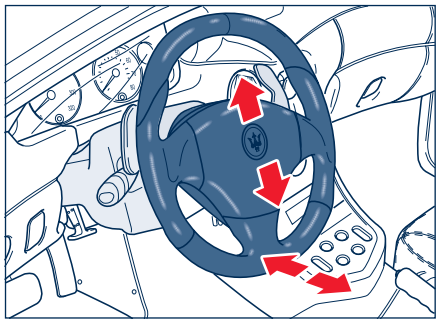
ステアリング ホイールの位置は、上下と前後に調節することができます。

– レバー **A** を **1** の位置に動かします。
– ステアリング ホイールを上下前後に動かして調整します。
– レバー **A** を **2** の位置に戻してロックします。

走行中は、ステアリング ホイールの調節は行わないで下さい。

ステアリング ホイールを外す場合は、必ずマセラティ正規サービスネットワークで実施して下さい。





ライトおよび方向指示器

パーキング ライトは常に点灯が可能ですが、他のライトはイグニッション キーが **AVV** 位置の場合にのみ点灯します。

ライト スイッチ

スイッチ **A** は、以下の **4** つの位置に回すことができます。

0 – ライトの消灯

– ポジション ライトとナンバー プレート ライトの点灯

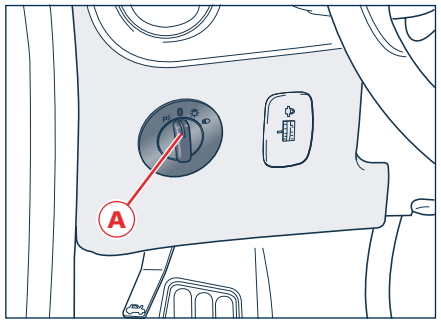
– ロー ビームの点灯

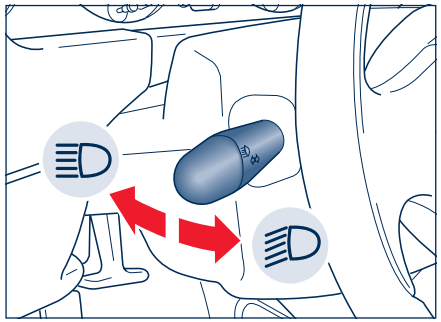
– パーキング ライトの点灯

ハイ ビーム

ライト スイッチが の時に、左側レバーをダッシュ ボード方向に押すとハイ ビームが点灯します。
レバーをステアリング ホイール側に戻すと、ハイ ビームからロー ビームに切り替わります。

警告：ハイ ビームの使用に際しては、各国の法律に従って下さい。





ヘッドライトのパッシング

左側レバーをステアリング ホイール側へ引くと、ヘッドライトがパッシングします。
イグニッション キーが **AVV** 位置で、ライトを消灯していてもパッシングすることができます。

警告：パッシングは、ハイ ビームの瞬間的な点滅です。罰則を受けないよう現行法規を守ってご使用下さい。

パーキング ライト

パーキング ライトは、イグニッション キーが **STOP** または **ACC** 位置にあるか、もしくはキーを抜き取った状態の時のみ点灯します。
ライト スイッチを P≤ 位置に回すと点灯します。
パーキング ライトが点灯すると、インストルメント パネルのワーニング ライト P≤ が点灯します。
パーキング ライト点灯中、左側レバーを下げると左側のポジション ライトのみが点灯し、レバーを上げると右側のポジションライトのみが点灯します。

方向指示灯

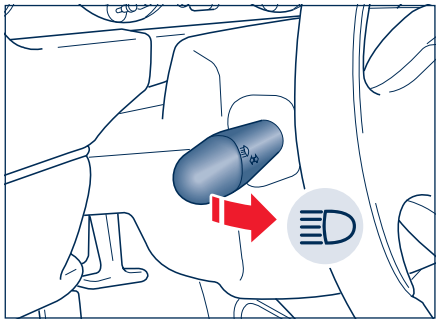
レバーには 3 つの位置があります。

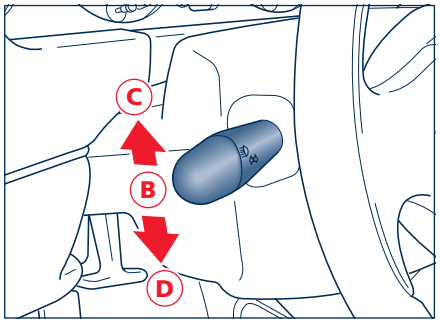
B - OFF

C - レバーを上げた状態。
右側の方向指示灯が点滅します。

D - レバーを下げた状態。
左側の方向指示灯が点滅します。

警告：車線変更などで方向指示灯を一時的に作動させたい場合は、レバーがカチッと固定される所まで押しきらずに軽く押す程度にします。手をはなすとレバーは自動的に元に戻ります。





ライトおよび方向指示器

ウィンドシールド ワイパーおよびヘッドライト ウォッシャー（日本仕様は標準装備）

ウィンドシールド ワイパーとウォッシャーは、イグニッション キーが **AVV** 位置の時にのみ作動します。

ウィンドシールド ワイパー

レバーには 5 つの位置があります。

A - OFF

B - 間欠作動（レバー 1 段目）。

C - 低速連続作動（レバー 2 段目）。

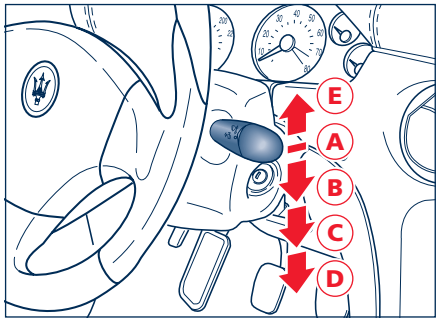
D - 高速連続作動（レバー 3 段目）。

E - ウォッシャー作動および
高速タイマー作動
（レバーは固定されません）。

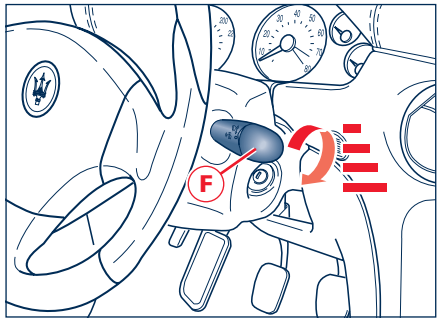
レバー **E** をステアリング ホイールの方向に引くと、ウィンドシールド ウォッシャーとワイパーが作動します（レバーは固定されません）。
ウィンドシールド ウォッシャーが作動すると、ウィンドシールド ワイパーも自動的に作動します。レバーを放すと **A** の位置に戻りウォシャー液の噴射は止まりますが、ワイパーは数回作動してから止まります。

間欠作動の間隔調節

レバーが **B** 位置の時にレバー頭部の **F** 部分を回すと調節できます。
右へ回していくと間隔は短くなっていきます。



ウィンドシールド ワイパーおよびヘッドライト ウォッシャー（日本仕様は標準装備）



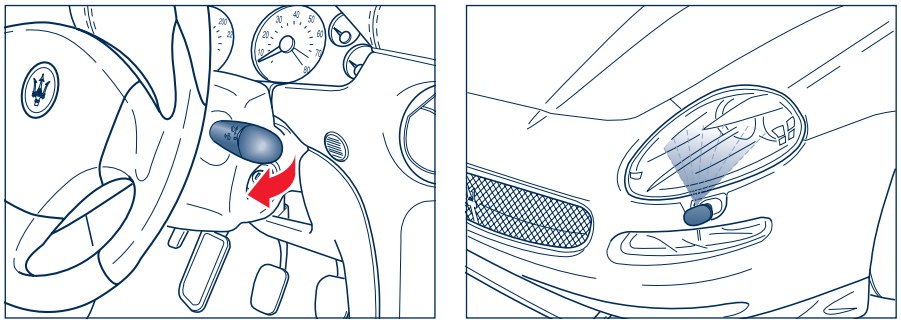
ウィンドシールド ウォッシャー

レバーをステアリング ホイールの方向に引くと、ウィンドシールド ウォッシャーとワイパーが作動します（レバーは固定されません）。
ウィンドシールド ウォッシャーが作動すると、ウィンドシールド ワイパーも自動的に作動します。レバーを放すとウォシャー液の噴射は止まりますが、ワイパーは数回作動してから止まります。

警告：寒い季節には、ウィンドシールドが暖まるまではウィンドシールド ウォッシャーは使用しないで下さい。ウォッシャー液がガラス表面で凍結し、視界を妨げる恐れがあります。

ヘッドライト ウォッシャー（オプション）

ヘッドライトが点灯中にウィンドシールド ウォッシャーを作動させると、ヘッドライト ウォッシャーも自動的に作動します。
ヘッドライト ウォッシャー液はウィンドシールド ウォッシャー液と共用のタンクを使っており、ウォッシャー液の低下を示すインストルメント パネルのワーニング ライトも共用です。



ウィンドシールド ワイパーおよびヘッドライト ウォッシャー （日本仕様は標準装備）

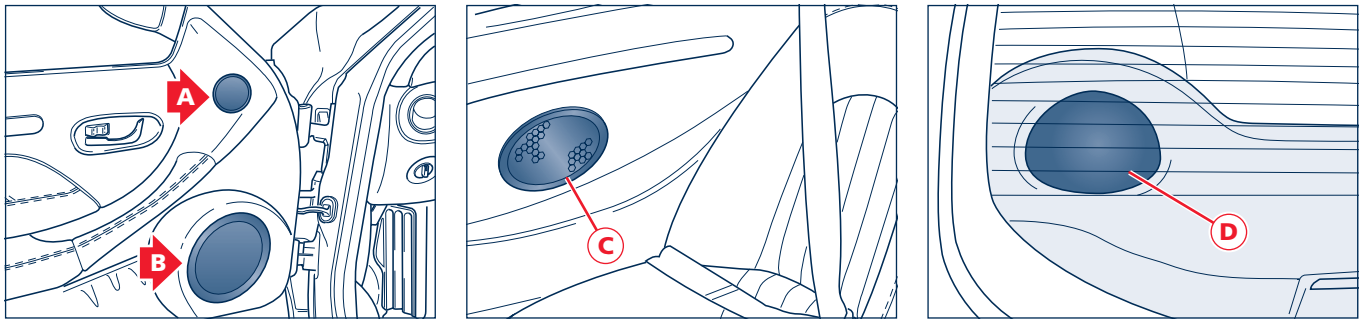
ステレオ システム
※日本仕様は一部の機能が使用できません。

ステレオ システムは Becker Mono Sinto "on line pro" で CD プレーヤーは CD-R に記録した MP3 ファイル再生機能とメモリーカードの使用が可能です。
サウンド システムは GPS ナビゲーション システムが内蔵され、また 3 バンドの（900-1800-1900MHz）電話を接続することが出来ます。

警告：ナビゲーションシステムは地域マップと GSM ネットワークに対応しているマーケットのみ使用可能です。

サウンドシステムは以下のように構成されています。

– 各ドア パネルにツイーター スピーカー **A** と ウーハー **B**。
– バランス パネルに 2 つのミッドレンジ スピーカー **C**。
– バック シェルフに 2 つのサブウーハー スピーカー **D**。



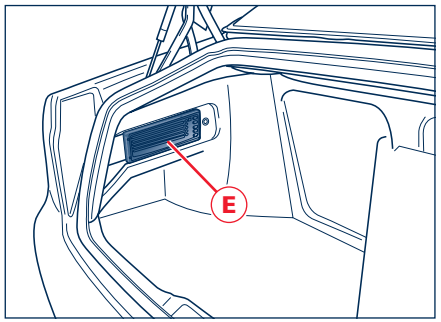
ステレオ システム　※日本仕様は一部の機能が使用できません。

– リヤ ウィンドウ内蔵アンテナ
– フロント ウィンドウ内蔵アンテナ
– CD チェンジャー **E**（オプション）は トランクの左側にあります。

警告：CD チェンジャー用の接続ケーブルは CD チェンジャー未装着車にはありません。

ダイバーシティ システム

2 つのアンテナを交互に使用することで良好な電波を受信します。



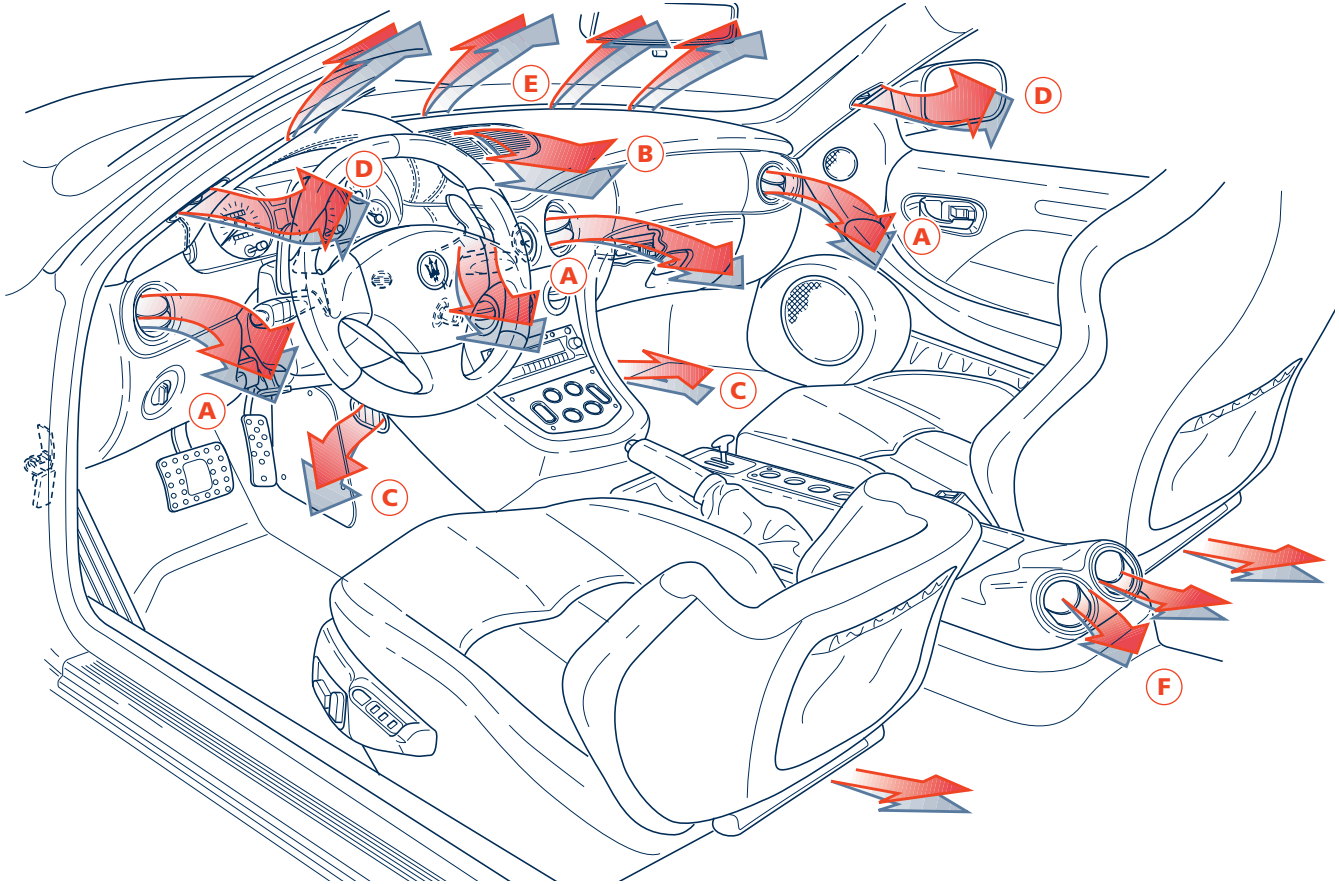
高出力 HI-FI システム（オプション）

高出力 HI-FI システムは以下のように構成されています。

– 4 チャンネル アンプ
– 高出力スピーカー

平均出力は約 200 W でピーク時が 400 W です。
アンプはトランクの左側に装着され、保護ヒューズが内蔵されています。
ヒューズの交換は**マセラティ正規サービスネットワーク**にお問い合わせ下さい。

エア コンディショナー およびヒーター



A - ダッシュボード中央および
サイド吹き出し口

B - ダッシュボード上部吹き出し口

C - ダッシュボード下部吹き出し口

D - サイド ウィンドウ吹き出し口

E - ウィンドシールド吹き出し口

F - リヤ吹き出し口

ダッシュボード上部吹き出し口

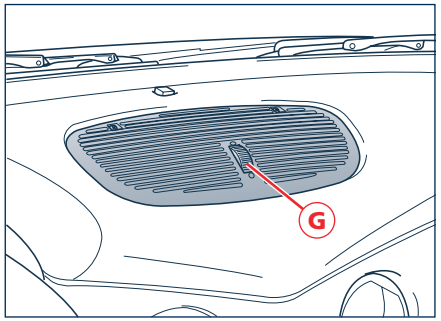
ダイヤル **G** を回して吹き出し口を開閉します。

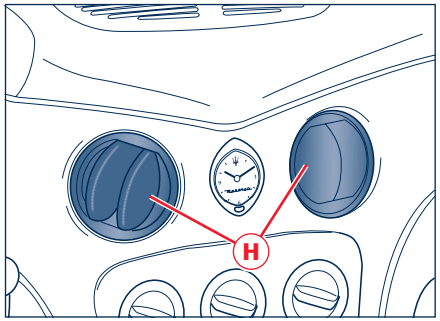
ダッシュボード中央および サイド吹き出し口

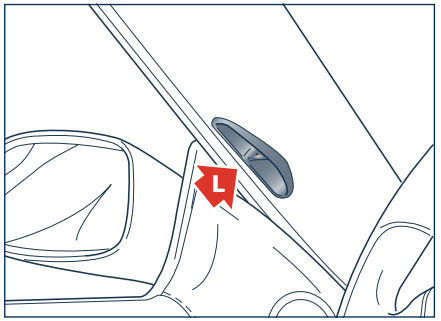
H のフィンを開閉し、中央およびサイドの吹き出し口を開閉します。
フラップを開閉して風量を、また回転して向きを調節することができます。

フロント ウィンドシールド ピラー 吹き出し口

ウィンドシールド ピラーにある吹き出し口 **L** は固定式で、サイド ウィンドウのくもりや霜を取り除きます。





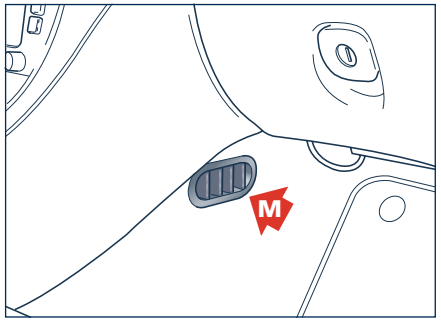


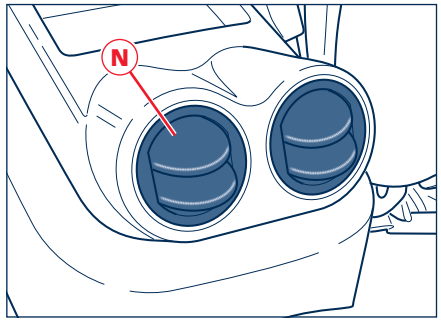
ダッシュボード下部吹き出し口

吹き出し口 **M** はダッシュボード側面下部にあり調節は出来ません。

リヤ吹き出し口

リヤ シートの吹き出し口はセンター コンソールの後部にあります。
N のフィンで開閉し、風向きは吹き出し口を回して調整します。





エア コンディショナーおよびヒーター

オートマチック エア コンディショナーおよびヒーターの操作

1) " 快適 " 温度設定ダイヤル

2) メイン スイッチおよび風量調節ダイヤル

3) ポジション切り替えダイヤル

4) 内気循環切り替えボタン

5) コンプレッサー停止ボタン

設定温度

車内の温度と湿度を自動または手動で設定することができます。この温度を " 設定温度 " と呼び、車内と外気温度を元に快適な車内を作り出す基準となります。

操作方法

1) " 設定温度 " の設定

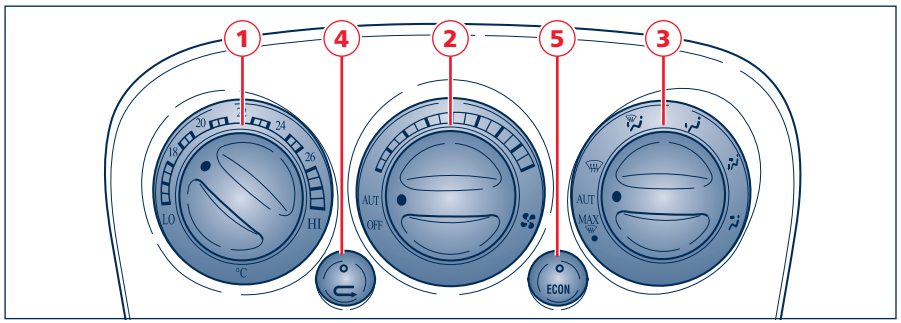
希望の車内温度を設定します。ダイヤルの両端がそれぞれ "LO" と "HI" です（最低温度と最高温度）。

2) システムの停止と風量調節

スイッチを右に回すと風量が強くなり、左に回すと弱くなります。車内に流れ込む風量は変化しますが、設定温度は維持します。

AUT - システムは風量を自動的に調節します。

OFF - エア コンディショナーは停止します。



3) 風向きの切り替え

各ポジションは以下のように制御されます。

AUT - 吹き出し口はシステムによって自動的に選択されます。またリヤ ウィンドウ ヒーターとサイド ミラー デフロスター（LED ボタンとインストルメント パネルのワーニング ライトが点灯）がプリセットした時間だけ自動的に作動します。

MAX くもり止めと霜取りを効果的に行うよう、吹き出し口をウィンドシールドとサイドウィンドウに切り替えます。

吹き出し口をウィンドシールドとフロント サイド ウィンドウに切り替えます。

吹き出し口をウィンドシールド、フロント サイド ウィンドウおよび足元に切り替えます。

吹き出し口を足元とウィンドシールドおよびフロント サイド ウィンドウに切り替えます。

吹き出し口をダッシュボードの上部センター、中央、サイド、リヤおよび足元に切り替えます。

吹き出し口をダッシュボードの上部センター、中央、サイドおよびリヤに切り替えます。

4) 内外気循環切り替えボタン

ボタンを押すと内気循環となり、車内の空気のみが循環するようになります。ボタンの LED が点灯します。もう一度ボタンを押すとボタンの LED が消え、外気導入になります。手動設定をしない限り、システムは状況に応じて自動的に内気循環を行います。

警告：システムの設定状況（ヒーター／エアコンディショナー）によって、内外気循環機能を使用すると、室内をすばやく好みの状態にすることができます。しかし湿度が高い日や寒い日は窓がくもりますのでご注意下さい。この機能は渋滞時や特にトンネルの中など、汚染された空気を取り込まないようにする時に使用することをお薦めします。しかし搭乗者が多い時に長時間使用することは避けて下さい。

5) コンプレッサー停止ボタン

ECON ボタンを押すとコンプレッサーが停止します。コンプレッサーが停止するとボタンの LED が点灯します。
ECON 機能を解除するには再度ボタンを押して LED が消えるのを確認して下さい。
車内の空気は設定温度に応じて冷房・除湿されます。

警告：コンプレッサーが停止している時は、外気温度より低い空気を導入することはできません。気候状況によってはウィンドウがすぐにくもってしまうことがあります。

作動の説明

オートマチック モードの時、システムは次のような機能をコントロールします。

- 車内に取り込む空気の温度
- 風量（無段階調節）
- 吹き出し口の切り替え
- 内外気循環
- コンプレッサーの作動

次の機能は手動でも調整することができます。

- 風量
- 吹き出し口切り替え
- 内外気循環機能
- コンプレッサーの作動

手動で調整した機能はオートマチック モードよりも優先され、再びオートマチック モードが選択されるまで記憶し続けます。

手動で作動させた場合でもコンプレッサーを停止させない限り、温度調節は引き続き自動的に行われます。コンプレッサーを停止させると外気温より低い空気は導入されません。

このシステムは以下のいずれかの状況で作動します。

- 風量と吹き出し口切り替えは自動に設定されます。
- ユーザーにより風量もしくは吹き出し口切り替えのどちらか 1 つを設定します
- ユーザーにより風量と吹き出し口切り替えを手動で行います。

ECON ボタンを押すとコンプレッサーは停止します。コンプレッサーが停止している時には、室内の空気は冷やされず除湿もされません。また内外気循環機能はウィンドウのくもりを防ぐため自動的に停止します。再度 **ECON** ボタンを押すとコンプレッサーが作動します。
ノブ **2** を **OFF** に回すとエア コンディショナーとヒーターは停止し、車内に外気は導入されません。

警告：エア コンディショニングを OFF（ノブ 2 が OFF の時）にすると、車内に外気は導入されません。そのため気候状況やドライバー以外に搭乗者がいるとすぐに窓がくもってしまうことがあります。

ノブ **3** で吹き出し口切り替えを手動で選択すると、オートマチック　モードでシステムは風量と、設定された " 快適な " 温度に調節しますが、吹き出し口は手動で調節して下さい。

ボタン **4** を押すと内気循環機能が作動し、コンプレッサーを手動で停止していた場合、ウィンドウのくもりを防止するためコンプレッサーが自動的に作動します。

オートマチック モードの時、システムは車内の冷暖房、ウィンドウ、サイド ウィンドウのくもり止め、霜取りなどを行うため、自動的に内気循環機能の作動や、コンプレッサーの停止を行います。

警告：エンジンを始動すると、システムはスイッチを切る前に手動で設定した状態で作動します。

ホコリ／花粉エア クリーナー

エア コンディショナーおよびヒーター システムは、車内に導入する空気のホコリや花粉を取り除いて浄化するために、静電気効果を備えた機械式エア フィルター機能のあるエア クリーナーが装備されています。

フィルター機能は外気導入の時（内気循環機能が OFF）と内気循環中（内外気循環機能が ON）の時にも作動します。

エア クリーナーは少なくとも年に 1 回は**マセラティ正規サービス ネットワーク**で交換して下さい。（夏季前に）

ホコリっぽい場所や汚染がひどい場所で車を使用する時は、早めに交換をして下さい。

警告：エア クリーナーを交換しないと、エア コンディショニング システムの能力を著しく低下させることになりますのでご注意下さい。

専用ラゲッジセット（オプション）

車のトランクに収納される専用のラゲッジセットです。

M138_jap_UM.book 99 ページ ２００４年１１月８日　月曜日　午前１１時５５分

車の取り扱い

エンジンの始動 100
"Cambiocorsa" ギヤボックス 102
ブレーキの使用 109
エンジンの使用 110
クルーズ コントロール（オプション） 112
電子サスペンション（日本仕様は標準装備） 115
ヘッドライト 118
運転条件 120
排出ガス浄化装置 124
駐車 126
タイヤ 127
推奨装備品 128

エンジンの始動

エンジンを始動する時は、ブレーキペダルを踏んだままにして下さい。

密閉された場所でのエンジン始動は、酸素を消費し、二酸化炭素や一酸化炭素などの有害物質を放出しますので大変に危険です。

警告：エンジンを始動する前に、リモート コントロールのボタンを押してアラーム システムを解除し、電力消費量の大きい装置（エア コンディショナー、熱線リヤ ウィンドウ、ヘッドライトなど）を OFF にして下さい。

警告：タンク内の燃料が少ない場合は、エンジンを始動させないで下さい。

警告：エンジンを始動させると、毎回 "Cambiocorsa" の設定が初期化されます。

1) パーキング ブレーキがかかっており、ドアが閉まっていることを確認して下さい。
2) エンジンを始動する時は、ブレーキ ペダルを踏んだままにして下さい。
3) アクセル ペダルは踏まないで下さい。
4) ニュートラル ポジションであることを確認するため、**UP** レバーと **DOWN** レバーを同時にステアリング ホイール側に引き上げます。ギヤ インジケーターが **N** になり、点滅していないことを確認して下さい。
5) イグニッション キーを **AVV** 位置に回します。
6) **START** ボタンを押し、エンジンが始動したらすぐに **START** ボタンを放して下さい。

START ボタンを長い間押したままにしないで下さい。

エンジン がかからない 時は、キーを一 度 **STOP** 位置に戻し、ギヤ インジケーターが消灯するまで待ってから、再び始動を試みて下さい。

ギヤが入った状態でもエンジンを始動させることができます。ブレーキ ペダルを踏んだ状態でイグニッション キーを **AVV** 位置に回し **START** ボタンを押すと、システムはクラッチを切り、ギヤをニュートラルにします。

その上で、スターター モーターに作動を許可します。この間に要する時間は、約 1 秒間です。ただし、外気温が低い時は、多少時間が長くかかることもあります。
これに対して、ギヤが最初から **N** ポジションになっている場合は、エンジンはすぐに始動します。
エンジンがかからない場合は、キーを一度 **STOP** 位置に戻し、ギヤ インジケーターが消灯するまで待ってから、再び始動を試みて下さい。

エンジン冷間時の暖機運転

ゆっくりと発進し、急な加速は行わず、エンジン回転数を低中速域に保ちながら走行して下さい。エンジン水温が 50 ～ 60 °C に達するまでは、エンジンに大きな負荷をかけるような走行は避けて下さい。

予備バッテリーを接続しての非常スタート

バッテリー上がりの場合は、容量が同じか少し大きいバッテリーを接続すればエンジンを始動することができます。
作業手順は以下の通りです。

1) 両方のバッテリーのプラス端子(+)をブースター ケーブルでつなぎます。
2) 両方のバッテリーのマイナス端子（–）をブースター ケーブルでつなぎます。
3) エンジンをかけます。
4) エンジンがかかったら、逆の順番にブースター ケーブルを外します。

上記の手順を行ってもエンジンがかからない場合は、作業を中止して**マセラティ正規サービス ネットワーク**にご相談下さい。

予備バッテリーによるエンジン始動の経験のない方は行わないで下さい。接続を誤ると高電圧の放電が起こり、バッテリーが爆発する場合があります。

バッテリーに火のついた煙草などの火気を近づけたり、火花を散らしたりしないで下さい。爆発や火災の危険があります。

警告：バッテリー チャージャーを接続しての非常スタートは絶対に行わないで下さい。電装系統（特にイグニッションや燃料供給を制御するコントロール ユニット）が損傷する恐れがあります。

押しがけによる始動

警告：お車には触媒が装着されていますので、押しがけや牽引または坂道を利用した始動は緊急時以外はおやめ下さい。ガソリンが触媒の中に入り込み、修理不能な損傷を与える恐れがあります。

エンジンが停止している時は、ブレーキ サーボとパワー ステアリングが作動しませんので、ステアリング ホイールの操作やブレーキ踏力が重くなります。

エンジンを止める

エンジンのアイドリング中に、イグニッション キーを **STOP** 位置に回すとエンジンは停止します。
エンジンを止める前に意味もなくアクセルを吹かすと、燃料の無駄になりますのでご注意下さい。

"Cambiocorsa" ギヤボックス

"Cambiocorsa" ギヤボックスは、ステアリング ホイールのレバーでギヤシフトを行い、センター コンソールにあるレバーでリバースを選択し、またプッシュボタンによって " オートマチック " モードと " ロー グリップ " モードを選択します。
"Cambiocorsa" ギヤボックスの操作レバー／スイッチ類は以下の通りです。

A - シフト ダウン用のレバー - **DOWN**

B - シフト アップ用のレバー - **UP**

C - 1 速（**1**）またはリバース（**R**）に入れるためのレバー

D - " オートマチック " モード解除／作動 ボタン

E - " ロー グリップ " モード ボタン

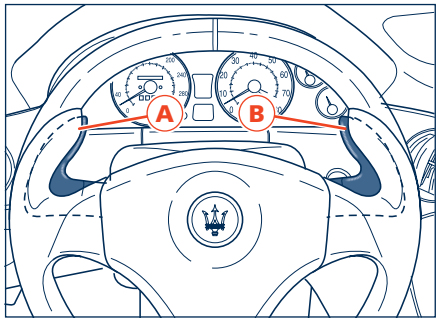
インストルメント パネルのディスプレイ **F** には、現在選択されているギヤが表示されます。システムに不具合が発生すると、マルチファンクション ディスプレイにワーニング ライト が点灯します。" オートマチック " モードおよび " ロー グリップ " モードを選択すると、それぞれマルチファンクション ディスプレイにメッセージ **AUTO** および **ICE** が点灯します。
ギヤボックスのオイル レベルが少ない時は、マルチファンクション ディスプレイにワーニング ライト **LEVEL** が点灯します。

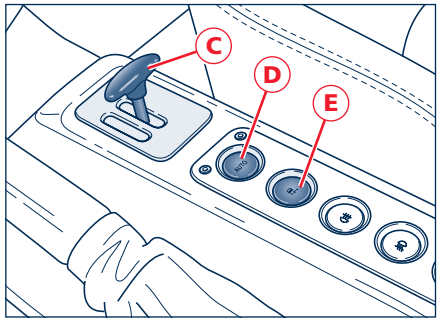
システムの作動

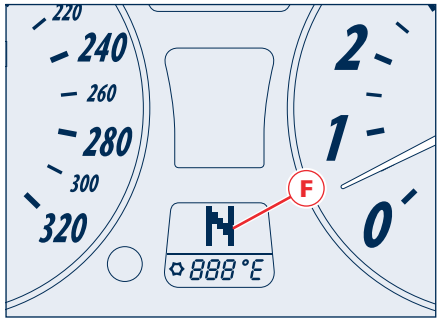
イグニッション キーを **AVV** 位置に回すと、ギヤ インジケーター **F** が点灯してギヤが表示されます。同時にワーニング ライト がマルチファンクション ディスプレイに点灯しますが、不具合がなければ数秒後に消灯します。
ディスプレイには現在選択されているギヤが表示されたままとなります。

警告：運転席側の ドアを開けると、ギヤボックスから作動音が聞こえるかもしれませんが、これは " 作動の準備 " 段階であるためです。故障ワーニング ライト が約 10 秒間点滅した後、消灯します。これによりシステムは " 作動の準備 " 段階を完了し、以後は正しく作動することになります。この段階の間はシステムを操作しないで下さい。

ワーニング ライト が点灯したまま消えない場合は、一旦イグニッション キーを STOP 位置に戻してからもう一度キーを AVV 位置に回して下さい。不具合が続く場合はマセラティ正規サービス ネットワークで点検を受けて下さい。







"Cambiocorsa" ギヤボックス

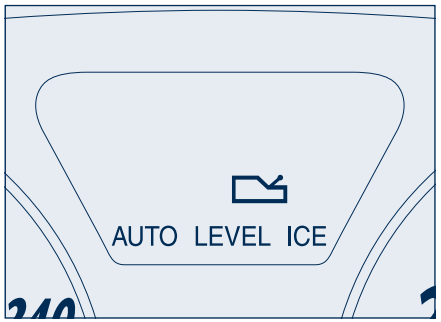
ワーニング ライト が点灯したままの場合は、システムに不具合が発生しています。この状態でキーを **AVV** 位置に回すとビープ音が鳴ります。

警告：マセラティ正規サービス ネットワークで点検を受け、不具合の修理を行って下さい。

エンジン停止中の操作

" システムの始動 " 段階が完了すると、ディスプレイには現在選択されているギヤが表示されます。

- **N**（ニュートラル）
- **R**（リバース）
- **1**（1 速）
- **2**（2 速）、以下同様



表示されたギヤが点滅している場合は、ギヤが正しく噛み合っていないか、完全に抜け切っていません（表示は **N** の場合もあります）。一旦ニュートラル（**N**）に戻してから、もう一度ギヤを選択して下さい。

ディスプレイに --（ダッシュ）マークが表示された場合は、システムに不具合が発生しています。

エンジン停止中は、ニュートラル（**N**）を含め、リバース（**R**）および 1 速を選択することができます。ギヤを選択する時はブレーキペダルを踏んだまま、下記の操作を行って下さい。

- **N**（ニュートラル）：ステアリング ホイール両側のレバーを同時に手前に引きます。
- **R**（リバース）：レバー **C** を引き上げ、後方に動かします。
- 1 速：レバー **C** を前方に動かします。
- シフト アップ：**UP** レバーをステアリング ホイールの方向に引き上げます。
- シフト ダウン：**DOWN** レバーをステアリング ホイールの方向に引き上げます。

リバース ギヤを選択するには、レバー C を引き上げ、ディスプレイに R マークが表示されるまで、後方に引いたままホールドして下さい。

1 速を選択するには、レバー C を前方に押し出し、ディスプレイに数字の "1" が表示されるまで、そのままホールドして下さい。

警告：**UP**、**DOWN**、**R** レバーは、ギヤが選択されたらレバーからすぐに手を放して下さい。ホールドしたままにしておくとワーニング ライト が点灯し、警報音が鳴ります。バッテリーを非常に消耗します。また、ポンプが過熱しないよう、エンジン停止中は不要なシフトは行わないで下さい。

車の運転

車が停止状態でブレーキ ペダルを踏んだままエンジンが始動したら、ブレーキ ペダルを放してアクセル ペダルを踏むと車が動き始めます。
車が停止しており、エンジンが回転中である場合は、1 速または 2 速からレバー **C** を使って直接 **R**（リバース）に入れることができます。または逆にリバースを選択中に、レバー **C** を前に押し出すか、**UP** レバーをステアリング ホイールの側に引くと、1 速に入れることができます。

警告：リバース ギヤに入れると、安全のためビープ音が鳴り始め、リバースに入っている間じゅう間欠的に鳴り続けます。

リバース ギヤから 1 速ギヤにシフトした時に、ギヤの噛み合いが正しく行われていないと自動的に 2 速ギヤが選択されることがあります。これは不具合ではありません。同様に 1 速ギヤからリバース ギヤにシフトした時に、うまくギヤが噛み合わないと自動的にニュートラル（**N**）になることがあります。
エンジン回転中に長時間停車する場合は、ギヤをニュートラル（**N**）にして下さい。

警告：下り坂などで一旦ニュートラル（**N**）を選択した後で **UP** レバーを引くと、車速に応じたギヤが自動的に選択されます。

エンジン回転中で、ギヤが入ったまま車を停止している時には、以下の場合には安全のためビープ音が発せられて自動的にギヤがニュートラル（**N**）になります。

- ブレーキ ペダルまたはアクセル ペダルを 1 分以上踏んでいない場合
- ブレーキ ペダルを 10 分以上踏んでいる場合
- ブレーキ ペダルまたはアクセル ペダルを踏んでいない状態でドアを開けた場合
- ボンネットを開けた場合

警告：ワーニング ブザーは発進時にクラッチのオーバーヒート警告として鳴ることがあります。半クラッチ状態で長時間停車しないで下さい。

ヒル ホルダー システム

ヒル ホルダー システムは、坂道発進時のドライバーの操作を支援するシステムです。このシステムは、車を停止させた後にブレーキ ペダルを放すと作動し、ドライバーがブレーキ ペダルからアクセル ペダルに足を移せるよう、車を一瞬の間だけ停止状態に保ちます。
システムの作動時間は坂道の傾斜に応じて変化します。作動時間は下り坂では最短（0.06 秒）、上り坂では最長（1.2 秒）となります。下り坂ではドライバーはブレーキがかかっていることを感じないはずです。
路面の傾斜を計算する機能は車速 8 km/h 以上でのみ働くため、これ以下の速度で走行した場合には傾斜の変化は検知されません。例えば、上り坂を走行中、リバースに入れたとします。システムは傾斜の変化を検知せず、作動時間は最大の 1.2 秒のままとなります。

重要

- ギヤが入ったまま車を停止している時は、発進するまでブレーキ ペダルを踏んだままにして下さい。
- リバース ギヤは車が完全に停止してから、ブレーキ ペダルを踏みながら選択して下さい。
- MSP システムを解除すると、アンチ スキッド システムも作動しなくなります。

"UP" シフト アップ

アクセル ペダルを戻さずに、右側の **UP** レバーでシフト アップします。
シフト アップするとエンジン回転数が低くなりすぎる場合や、オーバーレブを避けるためにすでにシフト アップが行われている最中である場合は、シフト アップを要求しても受け付けられません。
アクセル ペダルを床までいっぱいに踏み込んでおり、エンジン回転数が 5,500 rpm 以上である時は、通常よりも短い時間でシフト アップが完了します。
いずれの場合でも、以下のような基本操作を行って下さい。

- アクセル ペダルを踏み込んでいる時にギヤ シフトを行う場合は、そのままアクセルを戻さずにギヤ シフトして下さい。
- シフト アップが完了する前にさらにシフト アップの要求を行うと、複数の要求が重なって作動しない場合がありますのでおやめ下さい。

オーバーレブ回避のための自動シフト アップ

アクセル ペダルを踏み込んでエンジン回転数がレッド ゾーンに届きそうになると、システムは自動的にシフト アップを行います。
ただし SPORT モード中には、この機能は作動しません。

"DOWN" シフト ダウン

アクセル ペダルを戻さずに、左側の **DOWN** レバーでシフト ダウンします。
シフト ダウンするとレッド ゾーンに入ってしまう場合や、エンジン回転数が低すぎるためにすでにシフト ダウンが行われている最中である場合は、シフト ダウンを要求しても受け付けられません。
いずれの場合でも、以下のような基本操作を行って下さい。

- アクセル ペダルを踏み込んでいる時にギヤ シフトを行う場合は、そのままアクセルを戻さずにギヤ シフトして下さい。
- 追い越しなどで急な加速が必要な時は、シフト ダウンを行う直前にアクセル ペダルを踏み込んで下さい。
- シフト ダウンが完了する前にさらにシフト ダウンの要求を行うと、複数の要求が重なって作動しない場合がありますのでおやめ下さい。

エンジン回転数が低すぎる場合の自動シフト ダウン

エンジン回転数が 1,300 rpm 未満になると、システムは自動的にシフト ダウンを行います。
エンジン回転数が低すぎるためにすでにシフト ダウンが行われている最中である場合は、**DOWN** レバーを操作しても無視されます。

ニュートラル（N）

必要に応じて、走行中いつでもニュートラル（**N**）にすることができます。
その後で **UP** レバーを引くと、車速に最適なギヤが自動的に選択されます。

車の停止

車を停止すると、システムは自動的に 1 速ギヤを選択します(**N** を選択していた場合は除く)。
車を停止させている時は、走行を開始するまでブレーキ ペダルを踏み続けて下さい。

エンジンとシステムの停止

エンジンを停止させることができるのは、ギヤが **1** 速またはリバース（**R**）に入っている場合だけです。
キーを **AVV** 位置から **STOP** 位置に戻すとエンジンが停止し、ディスプレイにはその後も数秒間、選択されているギヤが表示されます。ニュートラル（**N**）を選択していた場合はブザーが鳴ります。

安全のため、車が不意に急に動き出さないように、以下のことに気をつけて下さい。

絶対にギヤをニュートラル（N）に入れたまま車から離れないで下さい。1 速かリバース ギヤを選択し、ディスプレイが点滅していないことを確認して、必ずパーキング ブレーキをしっかり掛けて下さい。エンジンをかけたまま車から離れないで下さい。

車が動いている時はイグニッション キーを抜かないで下さい！
車が動いている間はシステム（およびディスプレイ）は作動し続けますが、正常には作動しなくなります。さらに、ステアリング ホイールを回すと、その瞬間にステアリングが自動的にロックします。

この場合、ワーニング ライト が点灯します。再び車を発進させる前に、必ずシステムを停止してから（ディスプレイ消灯）、" システムの始動 " 段階を繰り返して下さい。
いずれの場合でも、以下のような基本操作を行って下さい。

- ブレーキ ペダルを踏んだままの状態で、エンジンおよびシステムを停止して下さい。
- システム停止中にギヤ シフトの操作はしないで下さい。

その他のシステム機能

" ロー グリップ " モード

このモードは、特に滑りやすい路面（雪道、凍結路）を走行する時に使用します。スイッチ **E** を押すと作動／解除することができます。ディスプレイに **ICE** の文字が点灯します。
" ロー グリップ " モードにすると、システムは 1 速の代わりに 2 速で発進します。そのため、エンジン回転中、車が停止した状態で、ギヤがニュートラルまたはリバースに入っている時に **UP** レバーを引くと、自動的に 2 速ギヤが選択されます。また、車が停止した場合も自動的に 2 速ギヤが選択されます。2 速ギヤの時に **DOWN** レバーを引いても、シフト ダウンされません。
走行中、エンジン回転数が一定以上（3,200 rpm 以上）に達すると、システムは自動的にシフト アップを行います。
" ロー グリップ " モードは他の機能（" オートマチック " モードや "SPORT" モード）よりも優先されます。また、MSP システムと連動して機能します。

6 速ギヤから 5 速ギヤへのシフトダウン操作は、5 速ギヤにした時のエンジン回転数が 3,200 rpm 以下になる場合にのみ行うことができます。"ローグリップ " モードはいつでも作動が可能で、各ギヤ（6 速ギヤを除く）のエンジン回転数は 3,200 rpm までに制限されるため、操作しないでも自動的にシフト アップが行われる場合があります。

" ロー グリップ " モードにする場合は、その前に他の作動モード("オートマチック " モードや "SPORT" モード）を OFF にするように心掛けて下さい。

"オートマチック " モード

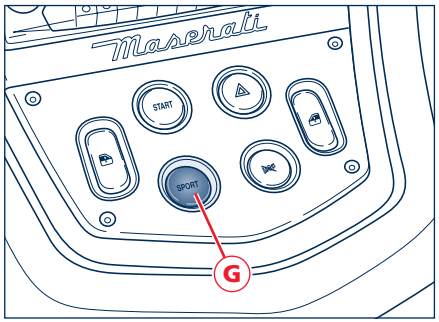
このモードは、ボタン **D** を押すことで解除したり、再び作動させることができます。このモードの時には、メッセージ **AUTO** がディスプレイに点灯し、システムは車速、エンジン回転数、およびアクセル ペダルの開度に応じて自動的にシフト アップとシフト ダウンを行います。

警告: " オートマチック " モードは "SPORT" モードよりも優先されます。そのため、"SPORT" モード選択中に **AUTO** モード ボタン（**D**）を押すと、たとえ "SPORT" の表示が点灯したままであったとしても、**AUTO** の表示が点灯し、システムは " オートマチック " モードで作動することになります。ただし、サスペンションは "SPORTS" モードのままとなります。

シフト レバーによるギヤ シフト操作を行うか、または **AUTO** の表示が消えるまでボタン **D** を押し続けると、いつでも " ノーマル " モード（または "SPORT" モードだった場合は "SPORT" モード）に復帰することができます。
車が停止中は、**N**、**1** 速または **R** ギヤにしても " オートマチック " モードのままで、" ノーマル " モードには切り替わりません。
" オートマチック " モードにする場合は、その前になるべく他の作動モードを解除するように心掛けて下さい。

"SPORT" モード

ボタン **G** を押すとこのモードになり、インストルメント パネルに **SPORT** の表示が点灯します。
再び同じボタンを押すと、"SPORT" モードから " ノーマル " モードに復帰します。
"SPORT" モードは " ロー グリップ " モードや " オートマチック " モードよりも優先順位が低く設定されているため、他のモードになっている時に "SPORT" モードを選択しても（たとえワーニング ライトが点灯したとしても）作動モードは切り替わりません。



"Cambiocorsa" ギヤボックス

"SPORT" モードでは、" ノーマル " モードと比べてサスペンションが硬めのセッティングになり、また素早いギヤ シフトが行われるようになります。

アクセル ペダルをいっぱいに踏み込み、エンジン回転数が 7,000 rpm 以上の時にシフト レバーを操作すると、ギヤ シフトはさらに瞬時に行われます。こうした場合、たとえドライ路面であっても駆動輪がスリップを起こし始めることがあります（特に低いギヤの時）。アクセル ペダルを放してシフト ダウンを行うとエンジン ブレーキが強力にかかり、舗装されたドライ路面でも駆動輪がスリップの限界に達することがあり、危険です。
スポーツ走行でエンジン回転数が高い時にシフト アップを行うと、自動的にダブル クラッチ操作が行われます。

低中程度のグリップ路面（凍結路、雪道、雨天時など）では、シフト チェンジの時に駆動輪がスリップを起こす恐れがありますので、"SPORT" モードは使用しないで下さい。"SPORT" モードは、サーキット走行でのみ行うようにして下さい。

"SPORT" モードにする場合は、その前に他の作動モード（" ロー グリップ " モードや " オートマチック " モード）を OFF にするように心掛けて下さい。

警告：シフト レバーに不具合が発生して、ブザーとともにディスプレイのワーニング ライト が点灯した場合は、システムは " オートマチック " モードに切り替わり、一切のギヤ シフト操作（N と R も含めて）はできなくなります。

警告：不具合が直らない場合は、速やかにマセラティ正規サービス ネットワークで点検を受けて下さい。

押しがけによる始動

スターター システムに不具合が発生した場合は、下記の手順で押しがけによるエンジンの始動が可能です。

– " システムの始動 " を実施します。
– ギヤを N に入れた状態で車を押し、車の速度が増してきたら UP レバーを引きます。

警告：この手順は緊急時のみ行って下さい！

M138_jap_UM.book 109 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分

ブレーキの使用

警告：ブレーキ パッドとディスクの慣らしを行うため、300 km 走行するまでは急ブレーキをかけないようにして下さい。

ブレーキ システムを構成する ABS は、基本的に 2 つの機能を持っています。

– グリップの低い路面で急ブレーキをかけてもホイールがロックするのを防ぎ、スリップを防止します。
– ブレーキをかけながらステアリング ホイールを操作し、障害物を回避したり車体のコントロールを保つことが可能になります。また、タイヤのグリップを最大限引き出します。

ABS の性能を最大限活用するためには：

– 急ブレーキを行ったり グリップの低い路面でブレーキをかけると、ブレーキ ペダルに軽い振動を感じます。これは ABS システムが正常に作動している証拠です。ブレーキ ペダルから足を放さず、そのまま踏み続けて下さい。
– ABS はホイールのロックを防止しますが、タイヤと路面間の物理的な摩擦力を高めるわけではありません。ABS システムを装備していても、前車との車間距離を適切に保ち、カーブではスピードを落として走行して下さい。

エンジンの使用

慣らし運転

お車は最新の製造工程により製造されているため、各部の構造と組立ては高い精度を誇っています。しかし可動部品を馴染ませるために、慣らし運転をお勧めします。

エンジンとトランスミッション

走行距離が 1,000 km になるまでは、エンジン回転数が 5,000 rpm を超えないようにして運転して下さい。
始動後、エンジンが十分に暖機されるまでは（水温 65 ～ 70 °C）、エンジン回転数が 4,000 rpm を超えないようにして運転して下さい。
長時間にわたる高速走行は避けるようにして下さい。

運転中

絶対にエンジン回転計の針がレッド ゾーンに入らないようにして運転して下さい（特に下り坂では注意して下さい）。
エンジン回転計の針がレッド ゾーンに近づいたら、エンジン回転数に注意して運転して下さい。

警告：正常な状態では、インストルメント パネルとマルチファンクション ディスプレイの赤いワーニング ライトは点灯しません。点灯した場合は、該当するシステムに不具合が発生していることを示しています。

各システムが正しく機能しているか、インストルメント パネルで確認して下さい。

警告：赤いワーニング ライトが点灯したまま走行を続けると、走行に支障が生じると同時に、車が深刻な損傷を受ける恐れがあります。

エンジンを停止したまま坂道を走行しないで下さい。パワー ブレーキが機能せず、ブレーキがきかなくなります。

エンジン コントロール システム（EOBD）

お車に搭載されている **EOBD** システム（欧州標準オンボード診断機能）は、98/69/EC（EURO 3）および 1999/102/EC の各 EU 指令に適合しています。
このシステムは、排出ガス浄化装置を常時モニタリングして、該当するコンポーネントに不具合が発生するとインストルメント パネルのワーニング ライト を点灯させます。これは以下のことを目的としています。

- エンジン システムを正しく機能させる。
- 排出ガスの濃度が基準を上回った場合に警告を表示する。
- 交換が必要な構成部品を表示する。

システムには専用テスターを接続するための診断ソケットが装着されています。これにより、コントロール ユニット内にメモリーされたエラー コードや、エンジン機能診断サイクル用の各種パラメーターを読み出すことができます。

警告：イグニッション キーを **AVV** 位置にしてもワーニング ライト が点灯しない場合や、走行中に点灯した場合は、速やかに**マセラティ正規サービス ネットワーク**で点検を受けて下さい。

警告：**マセラティ正規サービス ネットワーク**では、不具合の修正を行った後、テスト ベンチを使用してテストを行い、システムを完全に点検します。さらに必要に応じて長距離に及ぶ走行テストを実施することもあります。

クルーズ コントロール（オプション）

概要

クルーズ コントロールにより、ドライバーはアクセル ペダルを踏まずに走行速度を一定に保つことが可能になります。設定速度が自動的に保たれるため、特に長距離走行を行う場合のドライバーの疲労を軽減することが可能です。

警告：このシステムは、走行速度が 30 km/h 以上にならないと作動しません。また、ブレーキ ペダルを踏むと自動的に解除されます。

クルーズ コントロールは、速度を一定に保ったままある程度長い距離を走行しても安全な交通および道路条件下でのみ、使用して下さい。

操作スイッチ

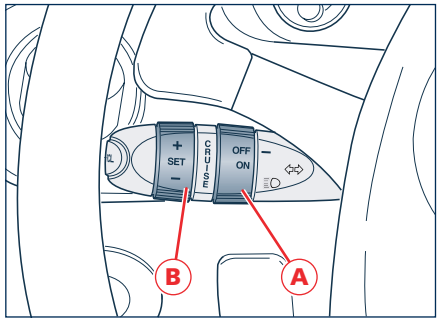
クルーズ コントロールは、スイッチ **A**、ダイヤル **B**、ボタン **C**（**RCL**）によって操作します。スイッチ **A** には 2 つの位置があります。

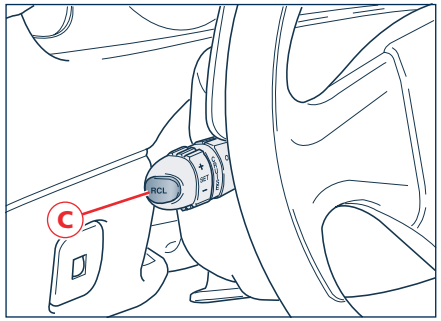
- **OFF**
  この位置に回すと、システムは解除されます。
- **ON**
  この位置に回すと、システムが作動します。システムが作動すると、ディスプレイにメッセージ **"Cruise"** が表示されます。

ダイヤル **B** は走行速度をメモリーさせる（さらにその速度に維持させる）ため、およびメモリーされている設定速度を増減するために使用します。

ダイヤル **B** を（+）位置に回すと、現在の走行速度をメモリーさせることができます。また、メモリーされている設定速度を上げることができます。
ダイヤル **B** を（–）位置に回すと、メモリーされている設定速度を下げることができます。
ダイヤル **B** をどちらかの位置に回すたびに、設定速度は約 1 km/h ずつ増減します。ダイヤルを回したままにすると、設定速度は連続して変化します。そして車が設定された速度に達すると、自動的にその速度に保たれます。
ボタン **C**（**RCL**）は、メモリーされている設定速度に復帰する時に使用します。

警告：イグニッション キーを **STOP** 位置に回したり、スイッチ **A** を **OFF** 位置にすると、システムは停止し、記憶されていたメモリーは消去されます。





速度の設定

スイッチ **A** を **ON** 位置に回し、通常通り走行しながら、設定したい速度になるように加速または減速します。ダイヤル **B** を（+）に回し、3 秒以上その位置に保った後、手を放します。これで速度がメモリーされますので、アクセル ペダルから足を放すことが可能です。
ブレーキ ペダルを踏むまで、車はメモリーされた設定速度を維持します。
追い越しなどの時は、必要に応じてアクセル ペダルを踏んで下さい。アクセル ペダルを放すと、メモリーされている設定速度に戻ります。

設定速度への復帰

ブレーキ ペダルを踏んだことによってシステムが解除された場合は、以下の手順で、メモリーされていた設定速度に復帰することができます。

– メモリーされていた設定速度付近にまで徐々に加速します。
– メモリーした時と同じギヤ（4 速／5 速／6 速）を選択します。
– ボタン **C**（**RCL**）を押します。

設定速度を上げる

メモリーされている設定速度を上げるには、以下の 2 通りの方法があります。

– アクセル ペダルを踏んで速度を上昇させてから、新たに速度をメモリーします（ダイヤル **B** を 3 秒以上回したままにします）。

または

– ダイヤル **B** を（+）位置に回します。ダイヤルを短く 1 回この位置に回すたびに、設定速度は約 1 km/h 上昇します。回したままにすると、連続して設定速度が上昇します。ダイヤル **B** を放すと新しい設定速度が自動的にメモリーされます。

設定速度を下げる

メモリーされている設定速度を下げるには、以下の 2 通りの方法があります。

– ブレーキ ペダルを踏んでシステムを解除した後、新たに設定速度をメモリーします（ダイヤル **B** を（+）位置に 3 秒以上回したままにします）。

または

– ダイヤル **B** を、新しく設定したい速度になるまで（–）位置に回し続けます。すると、新しい設定速度が自動的にメモリーされます。

メモリーされている設定速度を消去する

メモリーされている設定速度は、以下の場合に自動的にゼロにリセットされます。

– エンジンを停止した場合。

または

– スイッチ **A** を **OFF** 位置に戻した場合。

クルーズ コントロール作動中は、ギヤをニュートラルにしないで下さい。クルーズ コントロールは、作動させても安全な交通および道路条件下でのみ、作動させるようにして下さい（直線のドライ路面、高速道路などの平らなアスファルト路面、交通の流れがスムーズな場合など）。市街地走行や渋滞中には使用しないで下さい。

クルーズ コントロールは、走行速度が 30 km/h 以上の場合のみ作動させることができます。

クルーズ コントロールは、車速に応じてギヤが 4 速、5 速、6 速の場合のみ作動させることができます。

下り坂ではエンジンの負荷が減少するため、実際の車速は設定速度よりも多少上昇することがあります。

システムが正しく作動しなかったり不具合が発生した場合は、スイッチ A を OFF 位置に戻し、該当するヒューズを点検してから、マセラティ正規サービス ネットワークで点検を受けて下さい。

スイッチ A を常に ON 位置のままにしておいても、システムが損傷することはありません。しかし、使用しない時は、クルーズ コントロールを解除しておくことをお勧めします。スイッチ A を OFF に戻しておくことで、誤って設定速度をメモリーしてしまうことを防ぐことができます。

電子サスペンション（日本仕様は標準装備）

電子サスペンションは、高性能な車載センサーを通じて車のサスペンションをコントロールし、車の性能を最大限に引き出すことを目的としています。
システムは、各ショック アブソーバーに取り付けてあるアクチュエーターによって、サスペンションの減衰力を常時モニタリングします。これにより、路面状況や車の姿勢変化に応じてショック アブソーバーのセッティングが最適化され、乗り心地の快適性とロードホールディングが向上します。
ボタン **A** を押すと、ドライバーの運転スタイルに合わせて、サスペンションを通常走行用のセッティングにするか、スポーツ走行用のセッティングにするか選択することができます。" ノーマル " モードではショック アブソーバーは柔らかめのセッティングになり、"SPORT" を選択すると硬めのセッティングになります。

このシステムを制御する ECU は、センサーからの信号に基づき、各ショック アブソーバーに設置されたソレノイド バルブをコントロールすることで、サスペンションの減衰力とセッティングを調節します。
ECU が車速、上下加速度、横加速度、瞬間ブレーキ圧を計算することでサスペンションの減衰力を制御できるよう、以下の各種のセンサーが装着されています。

- 横加速度センサー
- 左フロント垂直方向センサー
- 右フロント垂直方向センサー
- リヤ垂直方向センサー
- 左フロント ホイール加速度センサー
- 右フロント ホイール加速度センサー
- 車速センサー
- ブレーキ ペダル スイッチ

システムは、車体の上下方向の振動（ロールとピッチング）を最小限に抑えることを目指して、サスペンションの減衰力を制御しています。

"SPORT" モードを選択すると、サスペンションがスポーツ走行に最適なものになるだけでなく、ASR システムと "Cambiocorsa" もスポーツ走行に適したセッティングになります。

自己診断

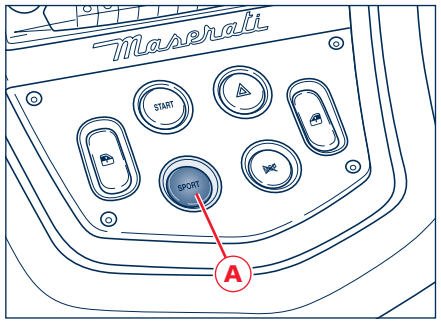
エンジン始動のたびにシステムは自己診断サイクルを実施し、自己診断中はディスプレイのワーニング ライト が点灯します。

セッティングの選択

ドライバーは路面状況、走行速度、運転スタイル、快適性などを考慮して、通常走行用とスポーツ走行用の 2 種類のセッティングから選ぶことができます。
SPORT モードを解除すると通常走行用のセッティングになり、快適な乗り心地が確保され、また比較的滑りやすい路面でも高い安定性が発揮されます。
SPORT モードを作動させると、スポーツ走行に適したセッティングとなり、走行性能が優先されて、最適なロード ホールディングによるレーシング スタイルでの走行が可能になります。
エンジンを始動させると、エンジンを停止する前に最後に選択していたセッティングになります。
"SPORT" セッティングにすることができるのは、イグニッション キーが **AVV** 位置にある場合だけです。ボタン **A** を押すことによって（たとえ走行中でも）このセッティングにすることが可能です。SPORT モードにすると、マルチファンクション ディスプレイに **SPORT** の表示が現われ、同時にボタンの LED が点灯します。

警告：SPORT セッティングは、路面が安定した状態ではない場合や、滑りやすい場合にはお勧めできません。

再びボタン **A** を押すと、走行中であっても " ノーマル " モードに戻ります。この通常走行用のセッティングを選択すると、マルチファンクション ディスプレイのワーニング ライト **SPORT** とボタンの LED は消灯します。



電子サスペンション調整システムは **MSP**（ヨーイングを防止するためのシステム）と連動しています。" ノーマル " サスペンションを選択すると比較的滑りやすい路面でも走行安定性が高められ、**SPORT** モードにすると **MSP** システムによってスポーツ走行用に最適化されます。

警告：十分なグリップが得られない路面（凍結路、雪道、砂地など）では、たとえ **MSP** が作動可能である場合でも、**SPORT** モード機能は使用しないことをお勧めします。

電子サスペンション（日本仕様は標準装備）

故障のサイン

走行中にシステムの電気系統のコンポーネントが 1 つでも故障すると、ECU はワーニングライトを ディスプレイに表示します。さらに、ECU はショック アブソーバーをプリセットされた値に調節し、安全性を確保します。1 本のショック アブソーバーのみが故障した場合は、故障したショック アブソーバーは ECU による制御を受けなくなり、故障発生時のポジションのままになります。したがって、4 本のうち 1 本のショック アブソーバーのみは、他のショック アブソーバーとは違いセッティングが固定されることになります。
いずれの場合でも、低速走行をすれば、安全走行には支障ありません。

警告：サスペンションを制御する電子システムに不具合が発生した場合は、走行中にディスプレイのワーニング ライト が点灯します。この場合は減速して慎重に運転を行い、速やかに**マセラティ正規サービス ネットワーク**で点検を受けて下さい。

走行中に不具合が発生して、ディスプレイのワーニング ライト が点灯した場合は、なるべくすぐに車を止め、イグニッション キーを **STOP** 位置に戻してエンジンを始動し直して下さい。

不具合が修正され、ディスプレイのワーニング ライト が再び点灯しないようであれば、今後は電子サスペンション システムは正常に作動します。
不具合が解消されていない場合は、再びマルチファンクション ディスプレイのワーニング ライト が点灯します。
どちらのケースでも、**マセラティ正規サービス ネットワーク**でシステムの点検を受ける必要があります。
不具合が検出されると、その内容は ECU にメモリーされますので、たとえ自然に不具合が解消された場合でも**マセラティ正規サービス ネットワーク**で診断が可能です。

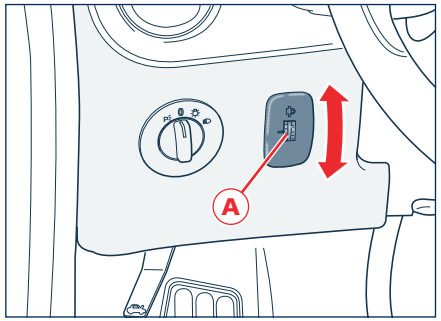
ヘッドライト

ヘッドライトの光軸調節（キセノン ヘッドライト装着車を除く。但し日本仕様車はキセノン ヘッドライト装着車輌）

ヘッドライトの光軸調節はドライバーの快適で安全な走行以外に、周囲の交通のためにも非常に重要です。ヘッドライトの光軸調節は交通法規により定められています。
ライトを点灯しての走行はドライバーと周囲の交通が適切な視界を得るために重要です。そのため正しい光軸調節を行って下さい。
必要に応じてマセラティ正規サービス ネットワークで点検して下さい。

角度の調節

車に荷物などを載せた場合、車の後部が下がり、ヘッドライトの光軸が上がります。
その時はステアリングホイールの左側にある電動調整機能を使って調節して下さい。
スイッチ **A** はイグニッションキーが **AVV** 位置の時のみ作動します。**4** 段階の調節が可能で、タンク内の燃料と搭乗者数により調節して下さい。



下向き **0** - フロント シートに 1 名または 2 名乗車

下向き **1** - 1 名乗車（ドライバー）+ トランク内に均等に荷物が搭載された状態

下向き **2** - 4 名乗車

下向き **3** - 4 名乗車 + トランク内に均等に荷物が搭載された状態

警告：車の搭乗者数や荷物が変動した場合は、その都度調節をして下さい。

キセノン ヘッドライト

キセノン（ディスチャージ）ヘッドライトは、白熱フィラメントの代わりにキセノン ガスを充填し、アーク放電を行うことで点灯します。
このライトは、従来のバルブを用いたヘッドライトと比べ、品質（輝度）および照射する範囲において優れた特性を持っています。
このライトによる照射の明るさのメリットは、とりわけ濃霧のような悪天候時や、道路標識が見えにくい時に実感することができ、従来であれば暗闇に埋もれていた道路脇も、その幅広い照射範囲によって照らし出すことができます（そのためドライバーの眼精疲労も軽減され、道路がよく見えるために安全運転が可能となります）。
道路脇を幅広く照らし出すため、道路の端にいる人（歩行者、自転車、オートバイなど）の視認性が向上し、安全性が大幅に高められます。
アーク放電は最初に高電圧を必要としますが、その後は低電圧で済むようになります。
ヘッドライトは、点灯後、約 0.5 秒で最大輝度に達します。
このタイプのヘッドライトは強い光を発するため、対向車が眩しくならないように、ブレーキ時や加速時、また積載時にも光軸を一定に保つための自動調節機能を備えています。
電動自動調節機能が装着されているため、ヘッドライトの光軸調整は不要です。
キセノン ヘッドライトは耐久性に優れています。

バルブの交換が必要な場合は、必ずマセラティ正規サービス ネットワークにお任せ下さい。感電する危険があります！

運転条件

運転を開始する前に

下記の項目は、定期的に点検すると同時に、長距離走行を行う前にも必ず点検して下さい。

- タイヤ空気圧およびタイヤの状態
- 各種オイル レベル
- ウィンドシールド ワイパー ブレードの状態
- 各種ワーニング ライトの作動と灯火類の点灯確認

警告：上記の点検は、少なくとも 800 km ごとの実施をお勧めします。それと同時に、定期点検プランに沿った点検を必ず実施して下さい。

また、下記の作業もお勧めします。

- ガラスおよびライトのレンズの清掃
- ミラー、ステアリング ホイール、シートおよびシート ベルトの調節

オイル類

警告：無鉛ガソリンのみ使用して下さい。有鉛ガソリンや質の悪いガソリンを使用すると触媒が損傷します。

各種オイルの仕様と容量については、" 容量および技術仕様 " の記載に従って下さい。

安全運転のために

お車には各種のアクティブおよびパッシブ セーフティ機能が装備されていますが、ドライバー自身が交通状況に応じた安全運転を行うことが最も重要になります。
以下には、安全運転のための基本的なルールが記載されています。これらのことはすでにご承知のことと思いますが、安全のために重要な事柄ばかりですので、今一度熟読されますようお願い致します。

運転する前に

- ヘッドライトその他のライトが正しく点灯するか確認して下さい。
- シート、ステアリング ホイール、バック ミラーの位置を調節し、最適な運転姿勢を整えて下さい。
- 各ペダルの動きを妨げるものが何もないこと（マットがめくれたりしていないこと）を確認して下さい。
- トランク内にある物を整理し、急ブレーキの際に前方に移動しないようにして下さい。
- 運転前に多量の食事をとることは避けて下さい。軽食の方が反射神経が鋭くなります。アルコール類は絶対に飲まないで下さい。
- 前述の " 運転を開始する前に " のセクションに記載されている点検事項を必ずチェックして下さい。

トランク内やボンネットの上に乗って走行することは、現行法規で禁止されているばかりでなく、非常に危険な行為です。事故時に大ケガを負う可能性が極めて高くなります。走行する時は必ず車のシートに座り、シートベルトを装着して下さい。ドライバーは、ご自身および搭乗者が正しくシート ベルトを装着しているか必ず確認して下さい。

走行にあたり

- 安全運転で最も大事なのは、注意を怠らないことです。注意を怠らなければ、他のドライバーによる危険な運転や不注意な運転を予測することもできます。
- 前車との車間距離を十分に取り、走行速度や交通状況に応じて車間距離を調節して下さい。
- 各国の交通法規を遵守し、常に制限速度を守って運転して下さい。
- 長距離走行は、体調が万全な状態で行って下さい。

飲酒運転や薬を服用しての運転は、ドライバー自身だけでなく他の人々にとっても非常に危険です。

チャイルド シートのベルトも含め、シート ベルトは必ず装着して下さい。シート ベルトを装着しないで運転すると、衝突時に大ケガや死亡する危険が増大します。

- 長時間、連続して運転することは避けて下さい。休憩はまめに取るようにし、足のストレッチを行ったり気分転換をするようにして下さい。
- 車内の空気を定期的に入れ替えて下さい。
- エンジンを停止させたまま、惰力で下り坂を走行することは絶対にしないで下さい。エンジン ブレーキとパワー ブレーキを作動させることができないため、ブレーキ操作をする時にペダルが非常に重くなります。

夜間の運転

夜間に運転する時は、特に以下の点に注意して下さい。

- いつも以上に慎重に運転して下さい。昼間よりもさらに注意力が必要となります。
- スピードを落として下さい。特に照明のない道ではスピードを抑えて運転して下さい。
- 眠気を感じたら無理をせず車を止めて下さい。そのまま続けて運転すると、ドライバー自身だけでなく他の人々にとっても危険です。十分に休息を取ってから運転を再開して下さい。
- 前車との車間距離を昼間よりも多めに取って下さい。ライトしか見えない状況では、他の車の走行速度を判断することが難しくなります。
- ヘッドライトの光軸が適正であるか確認して下さい。ライトが照らし出す方向が低すぎると視界が狭くなって目が疲れやすくなります。逆に、高すぎると他のドライバーの迷惑になります。
- ハイ ビームは明るい市街地では使用せず、他のドライバーに迷惑がかからないことを確認してからご使用下さい。
- ハイ ビーム点灯中に他の車が近づいてきたら、すぐにロー ビームに切り替えて下さい。
- ヘッドライトその他のライトは常に清潔にしておいて下さい。
- 郊外では、道路を横切る動物に注意して下さい。

雨の日の運転

雨の日や、濡れた路面の走行は危険が伴います。濡れた路面ではタイヤとアスファルトの摩擦力が著しく低下するため、あらゆる面で車の操作が困難さを増します。制動距離が大幅に長くなり、ロード ホールディングも低下します。

雨の日に走行する時は、以下のような点に注意して下さい。

- スピードを落とし、前車との車間距離を通常よりも広く取って下さい。高速ではコントロールを失う可能性があり、またハイドロプレーニング現象の原因ともなります。
- 大雨では視界も著しく低下します。このような時には昼間でもロー ビームを点灯し、自分の車の存在を他の車に知らせるようにして下さい。
- 視界が曇る場合は、エア コンディショナーのデフロスター機能を使用して下さい。
- ウィンドシールド ワイパー ブレードは定期的に点検して下さい。

霧の中での運転

濃霧の場合は、できるだけ運転は避けて下さい。

多かれ少なかれ霧や霧雨が発生している場合は、以下の点に注意して下さい。

- スピードを抑えて下さい。
- 昼間でもロー ビーム、フロントおよびリヤ フォグ ライトを点灯して下さい。ただしハイ ビームにはしないで下さい。
- 霧はアスファルトを湿らせますので、あらゆる面で車の操作が難しくなり、また制動距離も長くなることを念頭に入れて運転して下さい。
- 前車との車間距離を十分に取って下さい。
- なるべく走行速度を一定に保ち、急加速、急減速は避けて下さい。
- 追い越しは可能な限り行わないで下さい。
- 停車せざるを得ない場合（故障時や、視界が悪く運転の続行が困難な場合）は、まず走行レーン以外の場所に車を止めて下さい。次にハザード ライトを点灯し、可能であればロー ビームも点灯して下さい。
- 他の車が近づいてくるのが聞こえたらホーンを鳴らして注意を促して下さい。

山道での運転

下り坂では低いギヤに入れてエンジン ブレーキを使用し、ブレーキが過熱しないようにして下さい。

– エンジンを停止したりギヤをニュートラルに入れた状態で惰性で下り坂を走行することは絶対にしないで下さい。また、走行中は絶対にイグニッション キーを抜かないで下さい。
– スピードを抑えて運転して下さい。コーナーをショートカットして走行することはおやめ下さい。
– 上り坂で追い越しをする場合は、平坦な道路でのような加速は行うことはできず、追い越しのために必要となる距離も長くなりますのでご注意下さい。追い越しをされる場合は、他の車が追い越しやすいように減速して下さい。

雪道や凍結路での運転

こうした路面状況では、以下の点に注意して運転して下さい。

– 非常にゆっくりしたスピードで運転するようにして下さい。
– 雪道ではタイヤ チェーンやウィンター タイヤを装着して下さい（" タイヤ チェーン " および " ウィンター タイヤ " のセクションを参照して下さい）。
– 主にエンジン ブレーキを使用するようにし、急ブレーキは避けて下さい。
– 急加速や急ハンドルは避けて下さい。
– 冬季は、道路が乾いているように見えても、所々で凍結している場合があります。橋や陸橋、または樹木や岩の陰になって日の当たらない場所を走行する時には、十分注意して下さい。路面が凍結している場合があります。
– 前車との車間距離は十分に取って下さい。

排出ガス浄化装置

お車には排出ガス浄化装置が装着されていますが、私たち一人一人が環境保護に取り組む必要があります。
いくつかの基本的なルールを守るだけで、環境にダメージを与えることを防ぐことができ、同時に燃料の消費も抑えることができます。
以下には、この点に関する有益な情報が記載されていますので、よくお読み下さい。
排出ガス浄化装置が正しく機能することは、環境保護と燃費向上の両方に役立ちます。
ですから、この装置を正しい作動状態に維持することが、環境と燃費に配慮した運転を行う上で最も重要になります。
定期点検プランを正しく守ることを、まず第一に心掛けて下さい。
必ず無鉛ガソリンをご使用下さい。

エンジン始動がうまく行かない場合は、何度も始動（クランキング）を試みないで下さい。押しがけやけん引、坂道を利用してのエンジン始動は緊急時以外は行わないで下さい。触媒の損傷の原因となります。
エンジン始動の非常手段としては、予備バッテリーのみを使用することができます。
走行中、エンジンの調子が悪くなった場合は、極力エンジンに負荷を掛けないようにして走行し、できるだけ早く**マセラティ正規サービス ネットワーク**で点検を受けて下さい。
1 つ以上のスパーク プラグの接続を外してエンジンを始動させることは（たとえテストのためであっても）おやめ下さい。
停車したままアイドリングによってエンジンを暖機させないで下さい。外気温が非常に低い場合は暖機させても構いませんが、その場合でも 30 秒以内にして下さい。

正常に作動している場合でも、触媒は非常に高温になります。そのため、燃えやすいもの（芝生、枯れ葉、松葉など）の近くに駐車すると、火災の危険があります。

触媒や排気マニホールドにヒート シールドを取り付けたり、もともと装着されていたヒート シールドを取り外したりしないで下さい。
触媒、O_2 センサー、排気マニホールドには塗装スプレーなどを吹き掛けないで下さい。

これらの注意を守らないと火災が発生する危険があります。

M138_jap_UM.book 125 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分

その他の注意事項

– 停車したままでエンジンを暖機しないで下さい。停車した状態では、暖機に時間がかかり、燃料の消費と有害物質の排出を増加させてしまいます。暖機する場合は、エンジンの高回転を避けながらゆっくりと走行して下さい。
– 燃費は高いギヤで走行すると向上します。交通量や道路状況から安全が確認できたら高いギヤで走行して下さい。
– 信号待ちをしている時や、エンジンを止める前にアクセルを吹かさないで下さい。
– なるべくむらのない一定した速度で走行して下さい。不必要なブレーキや加速を行うと、燃料を浪費するだけでなく、排出ガスを大幅に増加させます。
– 長期間停車する場合はエンジンを停止して下さい。
– タイヤの空気圧を定期的に点検して下さい。空気圧が低すぎると燃料消費量が増え、またタイヤ摩耗の原因となります。
– トランク内に不必要なものを積んで走行しないで下さい。車の重量は燃料消費に少なからぬ影響を及ぼします。
– 必要な時以外は電装品のスイッチを OFF にして下さい。電力の消費量が増えると、燃料の消費量も増加します。

駐車

パーキング ブレーキを引き、ホイールを直進状態にしてから、エンジンを停止して下さい。
1 速ギヤに入れれば最も減速比が高くなるため、エンジン ブレーキを効かせることができます。
急勾配の坂道に駐車する時は、車止めを併用して下さい。
絶対にイグニッション キーを **AVV** 位置にしたままにしないで下さい。
車から降りる時は必ずキーを抜いて下さい。

絶対にお子様を車内に残したまま車から離れないで下さい。

紙、芝生、枯れ葉など燃えやすいものの近くに駐車しないで下さい。排気系統のコンポーネントと接触すると火災を起こす危険があります。

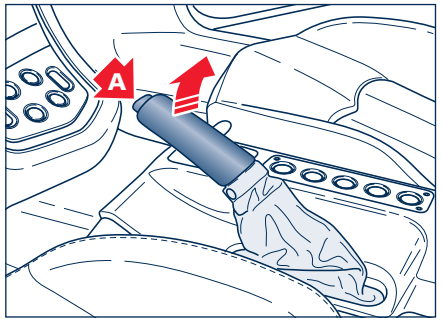
車に乗っていない状態でエンジンをかけたままにしないで下さい。

パーキング ブレーキ

パーキング ブレーキ レバーは運転席と助手席の間にあります。
パーキング ブレーキを作動させる場合は、レバーを引き上げ、車が動かないことを確認して下さい。

警告：レバーを 3 ～ 5 回カチッと鳴るまで引き上げても車が動く場合は、**マセラティ正規サービス ネットワーク**でレバーの引きしろの調整を受けて下さい。

イグニッション キーが **AVV** 位置にある場合、パーキング ブレーキを掛けるとインストルメント パネルでワーニング ライト Ⓟ が点灯します。



パーキング ブレーキを解除するには：

1) 僅かにレバーを引き上げながら、解除ボタン **A** を押します。
2) ボタンを押したままレバーを下げます。インストルメント パネルのワーニング ライト Ⓟ が消灯します。

タイヤ

冷間時のタイヤ空気圧

本マニュアルに記載されている規定空気圧は、タイヤ冷間時の数値です。

ウィンター タイヤ装着時の最高速度はタイヤに表示されています。ただし各国の現行法規により定められた法定速度は超えないよう注意して下さい。

スペア タイヤ(エマージェンシー タイヤ) 装着時は 80 km/h 以下で走行して下さい。また、スロットル全開、急ブレーキ、高速でのコーナリングは避けて走行して下さい。

ウィンター タイヤ

ウィンター タイヤは、雪道や凍結路での走行を目的として設計されています。もともと車に装着されていた純正タイヤと交換して装着して下さい。

認定メーカーおよび推奨サイズのウィンター タイヤのみを使用して下さい。

マセラティ正規サービス ネットワークでは、お客様の用途に最も適したタイヤについてのご相談をお受けしています。
ウィンター タイヤのタイプ、規定空気圧、その他の仕様については、" 容量および技術仕様 " の記載に従って下さい。
これらのタイヤは、トレッド溝の深さが 4 mm 以下に摩耗すると性能が大幅に低下します。この場合には必ず交換して下さい。

ウィンター タイヤは、通常の路面や高速道路で長距離走行する場合は、ノーマル タイヤに比べて性能が劣ります。
ウィンター タイヤは、その性能を十分に発揮できるような路面でのみ使用して下さい。

全てのホイールに同じタイヤ(同一メーカーの同じ製品)を装着して下さい。安全な走行、確実なブレーキ、良好な操縦性を得るためです。

タイヤの回転方向を逆にして装着しないで下さい。

タイヤ チェーン

タイヤ チェーンの使用に際しては、各国の現行法規に従って下さい。
タイヤ チェーンはタイヤのトレッド面から 9 mm 以上飛び出さないよう、径が小さい製品を使用して下さい。
チェーンは駆動輪（リヤ タイヤ）に装着して下さい。
チェーンを装着したら車を 50 m ほど走らせ、チェーンが緩んでいないか点検して下さい。
タイヤ チェーン装着時には、MSP システムは OFF にして下さい。MSP OFF ボタンを押すと、ボタンの LED が点灯します。

タイヤ チェーン：メーカー／タイプ
Konig/SUPER MAGIC

リヤ タイヤ
265/30 ZR19

警告：タイヤ チェーンを購入または使用する場合は、**マセラティ正規サービス ネットワーク**にお問い合わせ下さい。

警告：チェーン装着時は、控えめな速度で走行して下さい。50 km/h 以下で走行して下さい。路面の凹みを避け、段差や歩道に乗り上げたりしないで下さい。また、雪のない道路を長時間走行しないで下さい。車や路面が損傷するのを避けるためです。

推奨装備品

法律の規定にかかわらず、マセラティ社では以下のものを車内に常備しておくことをお勧めします。

- アルコールの入っていない消毒液、殺菌済みガーゼ、包帯などが入った救急箱
- 懐中電灯
- 先がとがっていないはさみ
- 軍手

これらの装備品等については、**マセラティ正規サービス ネットワーク**にお問い合わせ下さい。

M138_jap_UM.book 129 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分

非常時には

エンジンのエマージェンシー スタート 130
ツール キット 131
タイヤがパンクした時 132
エクステリア ライトが切れた時 138
車内ライトが切れた時 141
ヒューズが切れた時 144
バッテリーが上がった時 154
ジャッキ アップする時 155
けん引する時 156
事故の時 157

エンジンのエマージェンシー スタート

マセラティ コード システムの故障によってイモビライザーを解除できない場合は、ワーニング ライト **CODE** が点灯したままとなり、ワーニング ライト **EOBD** が 4 秒後に消えた後またすぐ点灯して、エンジンは始動できなくなります。この場合には、必要に応じて下記の手順でエンジンのエマージェンシー スタートを行い、エンジンを始動して下さい。

警告：以下の手順を実行する場合は、まず最初に全ての手順をよくお読みいただき、内容を理解してから行って下さい。途中で間違えた場合は、イグニッション キーを STOP 位置に戻し、最初のステップ 1 からやり直して下さい。

1) コード カードに記載されている 5 桁の電子コードを手元に用意して下さい。

2) イグニッション キーを **AVV** 位置に回して下さい。この時、ワーニング ライト **CODE** と **EOBD** が点灯します。

3) アクセル ペダルをいっぱいに踏み込んだままにします。約 8 秒後にワーニング ライト **EOBD** が消灯します。そうしたらアクセル ペダルを放します。これから **EOBD** が点滅しますので、注意して点滅回数を数えて下さい。

4) コード カードの 1 桁目の数字と同じ数だけ点滅した時点で、すぐにアクセル ペダルを踏み込み、**EOBD** が約 4 秒間点灯後に消灯するまで踏み続けて下さい。**EOBD** が消えたらアクセル ペダルを放して下さい。

5) コード カードの残りの桁についても、同様の作業を繰り返して下さい。

6) 最後の桁の場合も、同じようにアクセル ペダルを踏み込んだままにします。**EOBD** が 4 秒間点灯して消えたら、アクセル ペダルを放して下さい。

7) **EOBD** が早いテンポで点滅（約 4 秒間）したら、作業は正常に終了したことを意味しています。

8) **START** ボタンを押してエンジンを始動させて下さい。

ワーニング ライト **EOBD** が点灯したまま消えない場合は、一旦キーを STOP 位置に戻して、ステップ **1** の手順からやり直して下さい。

警告：エマージェンシー スタートを行った後は、**マセラティ正規サービス ネットワーク**で点検を受けて下さい。一度エマージェンシー スタートを実行すると、エンジンを始動させるたびに以上の手順を行わなければならなくなるからです。

M138_jap_UM.book 131 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分

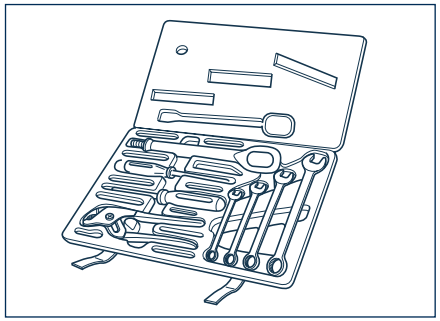
ツール キット

お車には下記のツールが搭載されています。

– ツール キット
（トランク内に搭載されています）
– 電気式コンプレッサー、ジャッキおよびスペア タイヤ装着用の工具が入ったケース
（スペア タイヤ内側に収納されています）
（オプション）

ツール キットはアンダー フロアにベルトで固定されており、以下の工具が入っています。

– 万能プライヤー
– 8 mm スパナ レンチ
– 10 mm スパナ レンチ
– 13 mm スパナ レンチ
– 17 mm スパナ レンチ
– マイナス ドライバー
– プラス ドライバー
– けん引フック

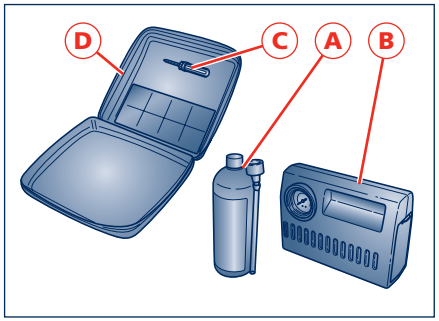


タイヤがパンクした時

パンク時の注意事項

タイヤがパンクしたら、専用の修理キットを使用して一時的に応急処置を行うことができます。このキットの中身は、パンク修理剤入りのボトル **A**、コンプレッサー **B**、ドライバー **C** です。これらのツールは、トランク内のケース **D** に入っています。

警告：修理キットをご使用になる場合は、ボトル **A** に記載されている注意事項またはケース **D** 内の注意書きをよくお読み下さい。



タイヤがパンクした時

修理キットによる応急処置後も、非常事態であることに変わりはありませんので、細心の注意を払って運転して下さい（制限速度 80 km/h 以下で走行して下さい）。

警告：このキットは、1 本のタイヤに小さな傷がついてパンクした場合に一時的に応急処置を行うためのものです。大きく穴が開いたり、裂けたりしたタイヤに対しては効果がありません。

パンク修理剤ボトルは専用のケースに収納し、お子様の手の届かない場所に保管して下さい。ボトル内の液体は、吸入または飲み込んだり、肌や目に触れないようにして下さい。

応急処置を行ったタイヤは、できるだけ早く交換して下さい。その際は、タイヤ修理剤を使って応急処置を行ったことを作業スタッフにお伝え下さい。

スペア タイヤ（エマージェンシー タイヤ）（オプション）

スペア タイヤ装着時の制限速度は 80 km/h です。絶対にこの速度を超えないで下さい。この速度を超えると車体の安定性やロード ホールディング、ブレーキング時の性能が低下します。また、スロットル全開、急ブレーキ、高速でのコーナリングは避けて走行して下さい。

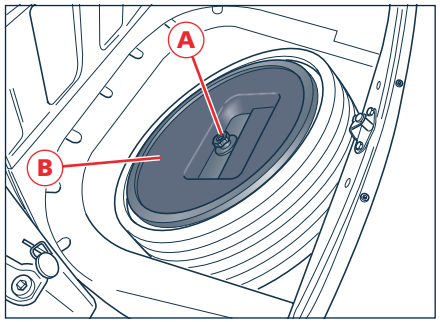
お車にはオプションでスペア タイヤ（エマージェンシー タイヤ）、ジャッキ、タイヤ交換用の工具を装備することができます。
スペア タイヤは特殊なタイプのもので、トランク内に収納されます。収納場所を取らないように、スペア タイヤは空気が抜けた状態になっています。付属の電気式コンプレッサーで空気を充填して下さい。
タイヤがパンクした場合は、以下の手順で作業を行って下さい。

- 交通の妨げにならずに、安全にタイヤ交換ができる場所に車を止めます。水平で地面が硬い場所に車を止めて下さい。
- パーキング ブレーキをかけます。
- ギヤを 1 速またはリバースに入れます。
- 必要に応じてハザード ライトを点灯し、三角表示板を適切な場所に置いて下さい。

警告：下り坂や水平でない場所に車を止める場合は、車止めまたはそれに代わるものをタイヤの下に置き、車が動かないようにして下さい。

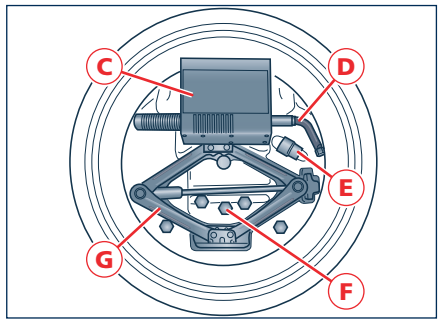
- トランクのフロア パネルからスペア タイヤを覆っているカバーを外します。ジャッキ、コンプレッサー、タイヤ交換用の工具とともに、スペア タイヤを取り出します。

ノブ **A** をゆるめてカバー **B** を外した後、スペア ホイールとジャッキ、コンプレッサーと工具箱を取り出して下さい。



スペア ホイールの内側には下記のものが搭載されています。

- 電気式コンプレッサー **C** と空気圧ゲージおよびスペア ホイール用専用エア バルブ
- ジャッキおよびホイール スタッド ボルト脱着用レンチ **D**
- ジャッキおよびホイール スタッド ボルト用ソケット **E**
- スペア ホイール用スタッド ボルト **5** 本 **F**
- ジャッキ **G**



タイヤがパンクした時

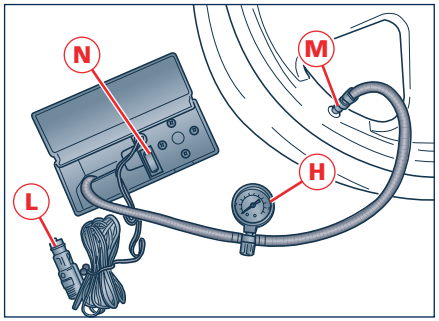
– コンプレッサーのカバーを開け、プレッシャ ゲージ **H** の付いたホースと、電源用ケーブル **L** を取り出します。
– スペア タイヤのバルブ キャップを外し、ホースのユニオン ナット **M** をバルブに取り付けます。
– トランク ルームの右側にあるプラグ **P** に電源プラグ **L** を差し込みます。
– プラグに電源を供給するためにイグニッション キーを **AVV** 位置に回し、コンプレッサーのスイッチ **N** を ON にします。
– プレッシャ ゲージ **H** で圧力が 2.5 bar（250 kPa、35 psi）になったらコンプレッサーのスイッチを OFF にし、バルブ キャップをバルブにねじ込みます。

警告：さらに正確な読み取り値が得られるよう、コンプレッサーを停止してからタイヤの空気圧をゲージで点検することをお勧めします。

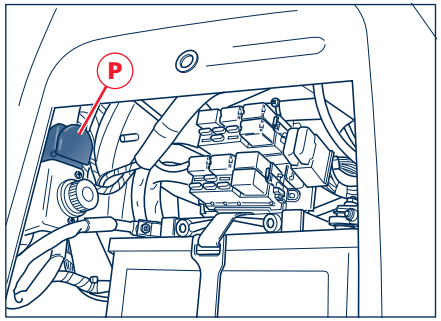
警告：コンプレッサーは 20 分以上作動させないで下さい。オーバーヒートする危険があります！このコンプレッサーは、スペア タイヤの充填専用ですので、マットレスやゴムボートなどを膨らませるために使用しないで下さい。

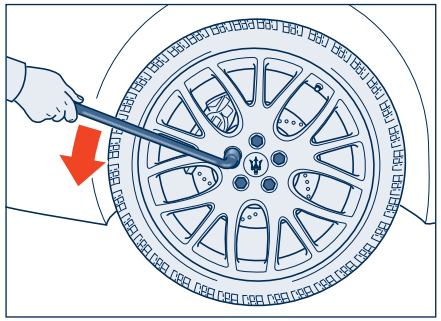
警告：電源プラグにはキーが **AVV** 位置になっている場合にのみ電源が供給されます。また、プラグに接続できるのは消費電力が最大 15 A（180 W）以下の機器だけです。それよりも電力消費の大きな機器には、この電源プラグは接続しないで下さい。長時間電力を消費するとバッテリーが消耗し、再びエンジンを始動できなくなる恐れがありますのでご注意下さい。

– ソケット **E** をレンチ **D** に取り付け、交換するホイールのスタッド ボルト 5 本を約 1 回転緩めます。



タイヤがパンクした時



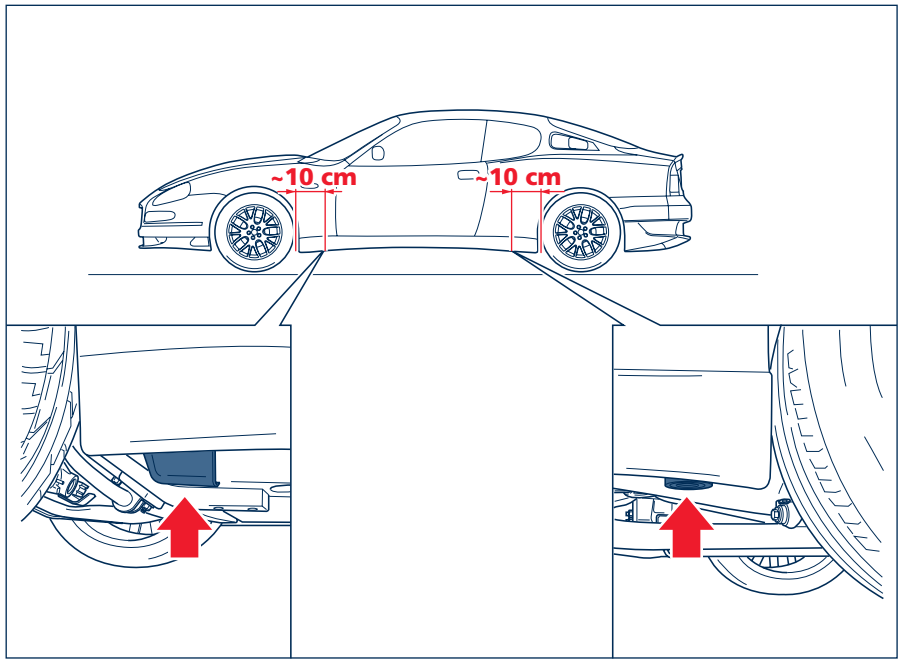


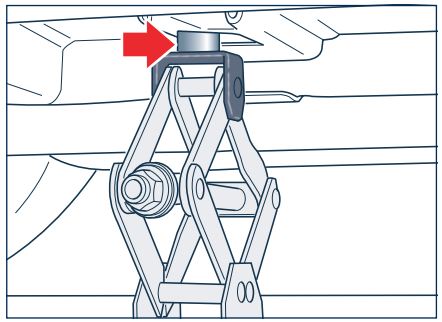
– ケースからジャッキを取り出し、ジャッキを少し開きます。

– 図で示されているポジションのうち、交換するホイールに最も近いポジションにジャッキを取り付けます。

– ジャッキ アップ ポイント(サイド メンバーに設けられた所定の位置）にジャッキの頭部が正しく入っているか確認して下さい。

正しい位置にジャッキを掛けないと、ジャッキ アップした時にボディが落下し、損傷する恐れがあり危険です。





タイヤがパンクした時

– ジャッキにレンチを差し込み、ホイールが地面から数センチ浮き上がるまで回します。
– 5 本のスタッド ボルトを完全に緩め、ホイールを取り外します。
– スペア タイヤを取り付け、ケースに入っている専用のスタッド ボルト 5 本 **F** を取り付けます。
– スタッド ボルト 5 本を締め付けます。

スペア タイヤは、ケースに同梱されている専用のスタッド ボルトを使って取り付けて下さい。オリジナルのスタッド ボルトは、元のホイールを取り付ける時に必要となりますので、紛失しないように保管して下さい。

– レンチを回して車を下げ、ジャッキを外します。
– 全てのボルトを完全に締め付けます。図のように、1 本のボルトを締めたら対角線上の反対側のボルトを締めるという順序で締め付けて下さい。

スペア タイヤは標準のタイヤよりも幅が狭いため、パンクしたタイヤの修理が可能なサービス工場までの移動以外には使用しないで下さい。

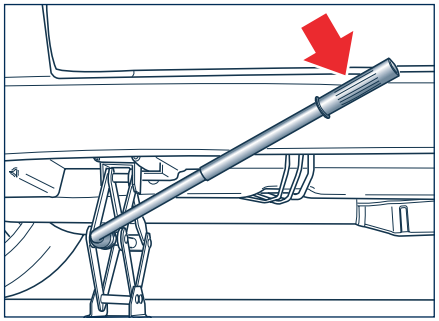
スペア タイヤ装着時は、絶対に制限速度 80 km/h を超えないようにして下さい。この速度を超えると、車体の安定性やロード ホールディング、ブレーキング時の性能が低下し危険です。また、スロットル全開、急ブレーキ、高速でのコーナリングは避けて走行して下さい。

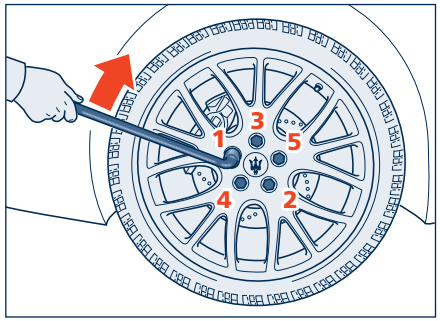
スペア タイヤの規定空気圧は 2.5 bar（250 kPa、35 psi）です。

安全上の理由から、同時に 2 本以上のスペア タイヤを装着して走行することは固く禁じられています。

スペア タイヤにはタイヤ チェーンを装着することはできません。

スペア タイヤの寿命は、最長 3,000 km です。





タイヤがパンクした時

標準タイヤの取り付け

– 前述の手順により、車をジャッキ アップしてスペア タイヤを取り外します。
– 標準タイヤを取り付け、最初に取り外し作業で外しておいたオリジナルのスタッド ボルトを取り付けます。
– 付属のレンチを使ってスタッド ボルトを締めます。

標準タイヤは、オリジナルのスタッド ボルトを使って取り付けて下さい。スペア タイヤ用のスタッド ボルトは、次回スペア タイヤを装着する時に必要となりますので、紛失しないようにケースに入れて保管して下さい。

– 車を下ろしてジャッキを外します。
– 前ページと同じ順序で、スタッド ボルトを完全に締め付けます。

ホイールのスタッド ボルトの締め付けトルクは 98 ± 10 Nm です。

作業が完了したら：

– バルブ キャップを使用してバルブを押し、完全にスペア タイヤの空気を抜きます。
– ジャッキ、レンチ、ソケットおよび専用スタッド ボルトをケースに入れ、スペア タイヤの内側に収納します。
– スペア タイヤをトラックの所定の位置に置き、カバーを掛け、ノブを使用してスペア タイヤを固定します。
– スペア タイヤをトラックのカバー パネルで覆います。

標準タイヤを装着後は、タイヤの空気圧を必ず点検して下さい。

ジャッキはタイヤ交換以外の用途には使用しないで下さい。絶対にジャッキで持ち上げた車の下に入り込んで作業を行わないで下さい。

エクステリア ライトが切れた時

警告: ライトを交換する前に、関連するヒューズが切れていないか確認して下さい。切れたバルブを交換する際は、切れたバルブと同じ容量で仕様が同じ新品のバルブと交換して下さい。

フロント ライト

フロント ライトは、車の下部から交換を行うため、ホイール ハウスを外して下さい。
ロー ビーム、ハイ ビーム、フォグ ライト、フロント パーキング ライトおよび方向指示灯ライトの交換は**マセラティ正規サービスネットワーク**で行うことをお薦めします。

キセノン ヘッドライト装着車の場合、バルブの交換とシステムの点検は、必ずマセラティ正規サービスネットワークで実施して下さい。高電圧により感電する危険があります。

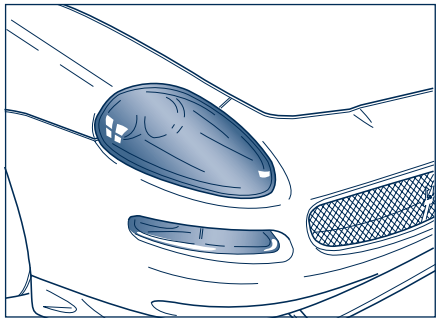
リヤ ライト

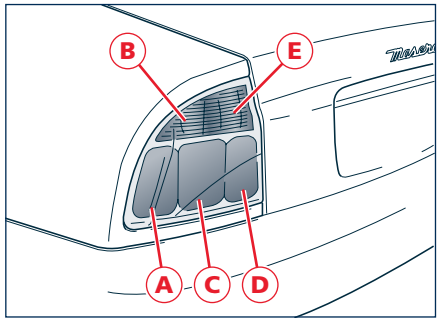
リヤ ライトは下記により構成されています。

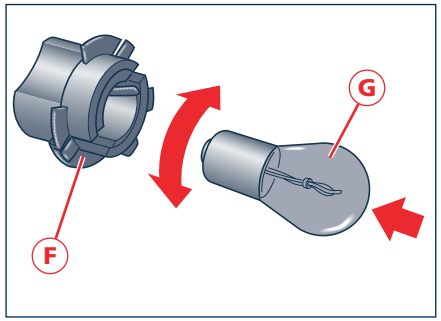
A – パーキング ライト（P21/5W）
B – 方向指示灯（PY21W）
C – ストップ ライト（P21W）
D – リヤ フォグ ライト（P21W）
E – リバース ライト（P21W）

バルブは下記の要領で交換して下さい。

1) トランクリッドを開きます。
2) ライトのカバーを外します。
3) バルブ ホルダー **F** を左に回して引き出します。
4) バルブ **G** を軽く押しながら左に回して外します。
5) 新しいバルブを押しながら右に回して取り付けます。
6) バルブ ホルダーを右に回して取り付けます。
7) カバーを取り付けます。







エクステリア ライトが切れた時

方向指示灯

方向指示灯のバルブ（5W）を交換するには：

1) スプリング クリップ **H** が押されるよう、ユニットを前方に移動します。

2) タブ **L** を外しながら、ユニット全体を外します。

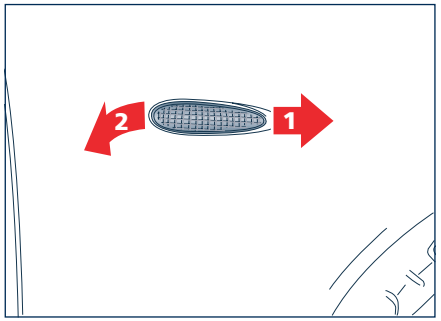
3) バルブ ホルダー **M** を左に回して外します。

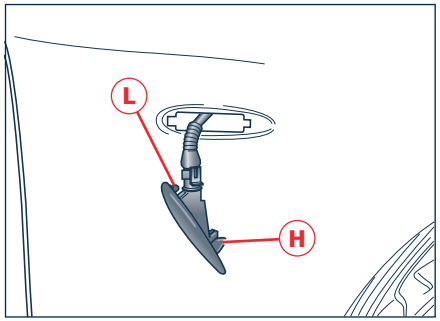
4) バルブを交換します。

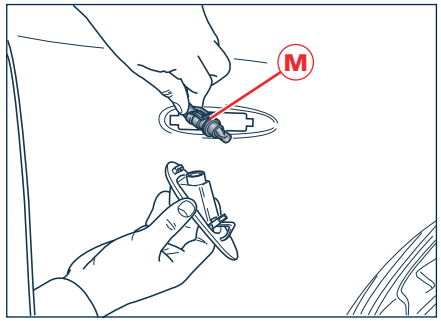
5) バルブ ホルダーを右に回して取り付けます。

6) 始めにユニット後部のタブを差し込み、スプリング クリップが固定されるまで押し込みます。

警告：作業を行う時は、車体やライトを傷つけないよう、慎重に行って下さい。







エクステリア ライトが切れた時

ハイマウント ストップ ライト

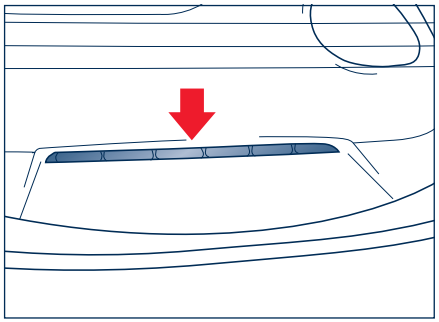
バルブを交換するには、レンズ ユニットを外す必要があります。**マセラティ正規サービス ネットワーク**での交換をお薦めします。

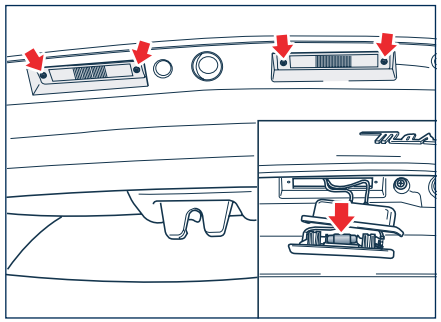
ナンバー プレート ライト

ナンバー プレート ライトのバルブ（C 5W）を交換するには：

1) レンズ／バルブ ホルダーのネジをゆるめます。

2) ユニットを外して、バルブを交換します。





エクステリア ライトが切れた時

車内ライトが切れた時

警告:ライトを交換する前に、関連するヒューズが切れていないか確認して下さい。切れたバルブを交換する際は、切れたバルブと同じ容量で仕様が同じ新品のバルブと交換して下さい。

フロント ルーム ライト

バルブを交換するには：

1) マイナス ドライバーを使い、**A** の部分を押し出してライトを外します。

2) バルブを交換します。

– タイム ライト **B**（12V – 10W "torpedo" タイプ）

– リーディング ライト **C**（12V – 3W）

3) ライトの左側を最初に押し込み、次に右側をはめて下さい。

警告：ルーム ライトを交換する時は、電気配線の取り回しを確認し、ライトのエッジと固定タングの間にはさまらないようにして下さい。

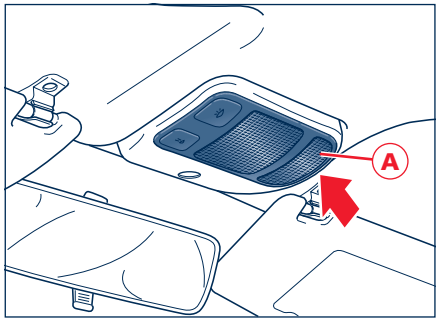
リヤ ルーム ライト

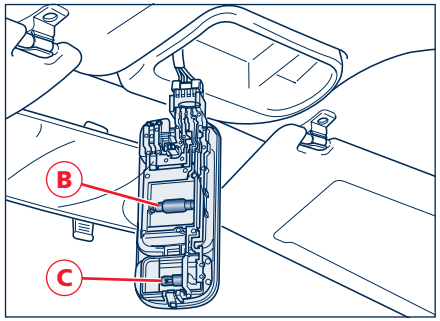
バルブを交換するには
（12V – 5W "torpedo" タイプ）：

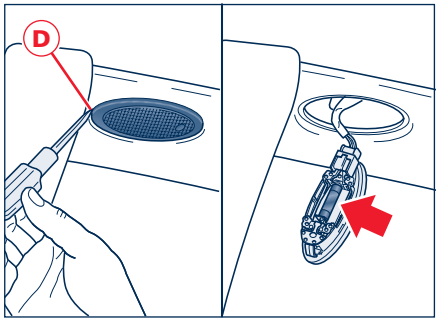
1) マイナス ドライバーを使い、**D** の部分を押し出してライトを外します。

2) バルブを交換します。

3) コネクター側を最初に押し込み、次に反対側をはめて下さい。







車内ライトが切れた時

バニティ（化粧）ミラー ライト

バルブを交換するには
（12V – 5W "torpedo" タイプ）：

1) **E** の部分を押し出して固定板を外します。

2) バルブを交換します。

3) 固定板を押し込んではめて下さい。

グローブ ボックス ライト

バルブを交換するには
（12V – 5W "torpedo" タイプ）：

1) マイナス ドライバーを使って **F** の部分を押し出し、レンズを外します。

2) バルブを交換します。

3) 最初にレンズ タブが 2 個所ある面を押し込み、次に反対側をはめて下さい。

ドア足元ライト（ドア下部）

バルブを交換するには
（12V – 5W "all glass" タイプ）：

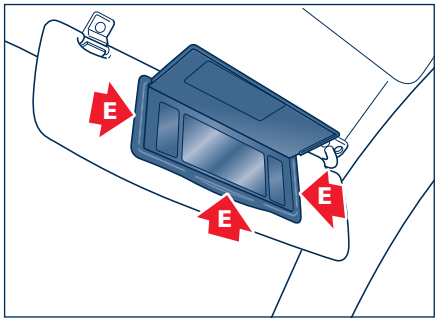
1) マイナス ドライバーを使って、**G** の部分を押し出し、レンズのベースを外します。

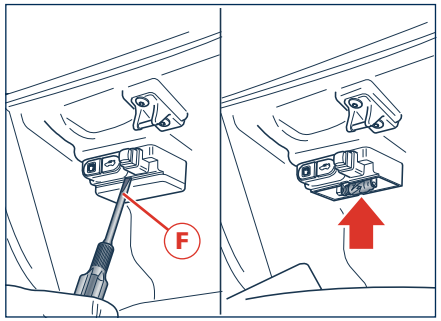
2) レンズ側面のタブ **H** を押してレンズを外します。

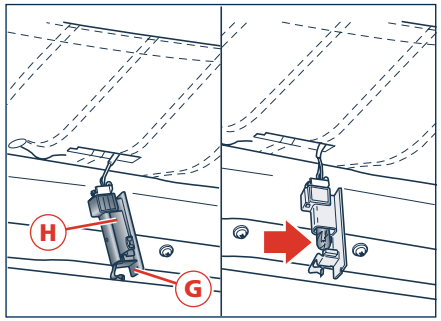
3) バルブを交換します。

4) レンズを取り付けます。

5) 最初に配線コネクター側を押し込み、次に反対側をはめてクリップを留めます。







車内ライトが切れた時

M138_jap_UM.book 143 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分

トランク ルーム ライト

バルブを交換するには
（12V – 5W "all glass"）：

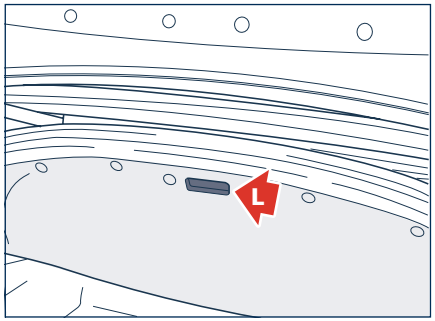
1) マイナス ドライバーを使って、**L** の部分を押し出し、レンズのベースを外します。

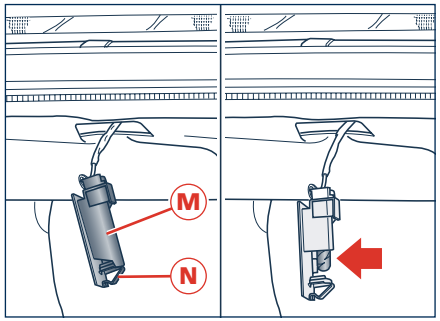
2) レンズ **M** の側面を押してタブを開放しレンズを外します。

3) バルブを交換します。

4) レンズを取り付けます。

5) 最初にレンズ ユニットの左側を押し込み、次に右側をはめてクリップ **N** を留めます。





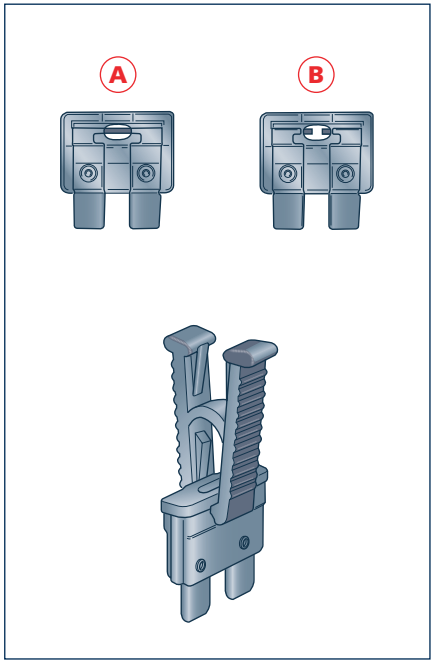
ヒューズが切れた時

ヒューズの交換

電装系統の装置が作動しなくなった場合は、まず関連するヒューズを点検して下さい。

A - 正常なヒューズ

B - 切れたヒューズ



ヒューズが切れた時

ヒューズを交換する時は、同じ容量のヒューズ（同色のヒューズ）と交換して下さい。ヒューズが度々切れる時は、**マセラティ正規サービス ネットワーク**で点検を受けて下さい。

必ず切れたヒューズと同じ容量（同色）の正常なヒューズと交換して下さい。

ヒューズ／リレーの設置場所

ヒューズ／リレーは次の場所に設置されています。

- エンジン ルーム
- 右側グローブ ボックスの下
- トランク ルームの右側

ヒューズの色

	黄土色	茶	赤	ライト ブルー	黄	白	緑
容量	A5	A7.5	A10	A15	A20	A25	A30

Maxi ヒューズの色

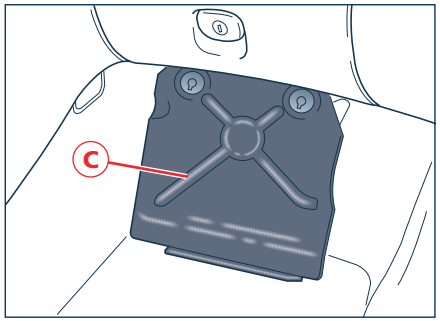
	黄	緑	オレンジ	赤	青
容量	A20	A30	A40	A50	A60

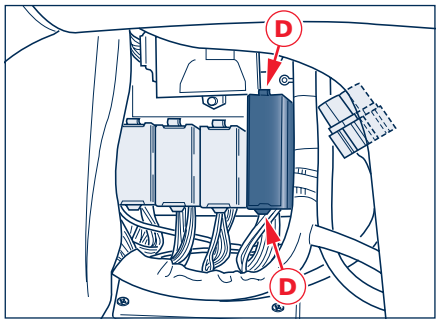
右側ダッシュボード下部のヒューズとリレー

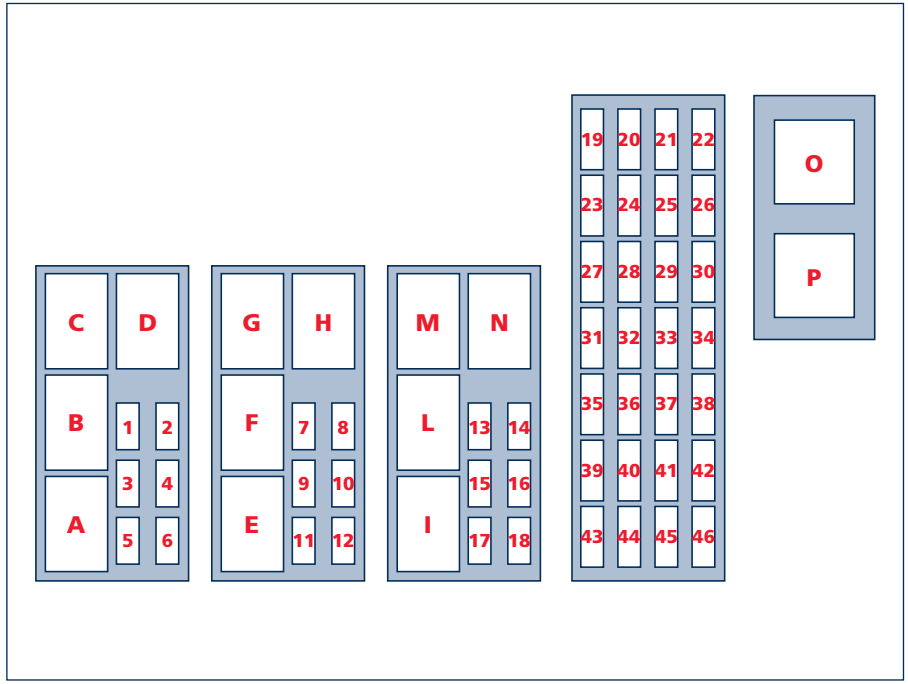
ヒューズとリレーを点検する時はマットを外し、カバー パネルを持ち上げ、保護カバー **C** を外して下さい。

ヒューズとリレーは 4 個のボックス内に装着されています。リレーのカバーはタブ **D** で固定されていますので、引き上げて下さい。

スペア ヒューズは垂直に取り付けられています。
ヒューズとリレーのリストは次のページを参照して下さい。







ヒューズが切れた時

ダッシュボード下のリレー

位置	タイプ	機能
A	Micro 20A	運転席シート ヒーター
B	Micro 20A	助手席シート ヒーター
C	Micro 30A	イグニッション ON 時にカットアウトされる接続デバイス
D	Micro 30A	イグニッション ON 時にカットアウトされない接続デバイス
E	Micro 20A	インジェクション メイン リレー
F	Micro 20A	マセラティ コード システム
G	Micro 20A	エアコン コンプレッサー
H	Micro 20A	ホーン
I	Micro 20A	ハイ ビーム
L	Micro 20A	フォグ ライト
M	Micro 30A	スターター モーター
N	Micro 20A	ロー ビーム
O	Micro 20A	A.C. インジケーター／熱線リヤ ウィンドウ
P	Micro 20A	スタート ロック

ダッシュボード下のヒューズ

位置	容量	色	システム／コンポーネント
1	30A	緑	+30 運転席
2	30A	緑	+30 助手席
3	7.5A	茶	助手席ヒーター
4	7.5A	茶	運転席ヒーター
5	30A	緑	エア コンディショナー システム
6	30A	緑	ヘッドライト ウォッシャー タイマー

位置	容量	色	システム／コンポーネント
7	10A	赤	+87 メイン リレー
8	15A	ライト ブルー	+87 メイン リレー O_2 センサー、エア フロー メーターなど
9	15A	ライト ブルー	+87 メイン リレー インジェクター、コイル
10	7.5A	茶	エアコン コンプレッサー
11	10A	赤	+15 ABS インジェクション メイン リレー経由
12	15A	ライト ブルー	ホーン
13	15A	ライト ブルー	フォグ ライト
14	10A	赤	右側ハイ ビーム
15	15A	ライト ブルー	左側ロー ビームおよびヘッドライト光軸調整装置
16	10A	赤	左側ハイ ビーム、ハイ ビーム表示灯、ヘッドライト光軸調整装置
17	15A	ライト ブルー	右側ロー ビーム、ヘッドライト ウォッシャー、手動式ヘッドライト光軸調整装置
18	30A	緑	スターター モーター
19	–	–	未使用
20	–	–	未使用
21	20A	黄	方向指示器
22	7.5A	茶	マセラティ コード システム、CAN ライン インターフェース、ナビゲーター ケーブル バンドル デバイス（+15 イグニッション ON 時にカットアウトされないデバイス）
23	–	–	未使用
24	10A	赤	ストップ、クラッチ
25	7.5A	茶	CAN ライン インターフェース用 ECU、OBD、マセラティ コード システム、マルチファンクション ディスプレイ
26	5A	黄土	BOGE システム（+15 イグニッション ON 時にカットアウトされないデバイス）
27	–	–	未使用

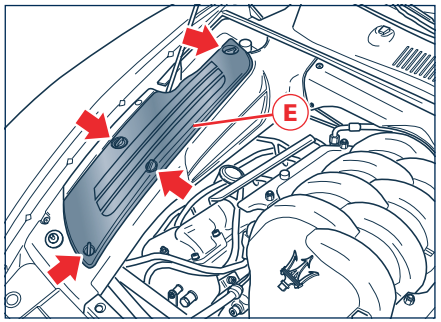
位置	容量	色	システム／コンポーネント
28	5A	黄土	IGE ECU、ルーム ライト タイマー、ライト スイッチ （ +15 イグニッション ON 時にカットアウトされないデバイス）
29	10A	赤	ルーム ライト、ルーム ライト タイマー、（電動）シート、 トランク ルームおよび燃料タンク フラップ オープナー
30	10A	赤	エアバッグ（+15 イグニッション ON 時にカットアウトされないデバイス）
31	10A	赤	ナビゲーター（装備車）、時計
32	10A	赤	+15 ライト スイッチ、クルーズ コントロール、 ヘッドライト光軸調整装置 ECU（+15 イグニッション ON 時にカットアウトされる接続デバイス）
33	5A	黄土	アラーム システム、サテライト アラーム用プリセット
34	10A	赤	+15 インジェクション
35	15A	ライト ブルー	+30 IGE ECU
36	15A	ライト ブルー	+30 IGE ECU
37	25A	白	ウィンドウシールド ワイパー、ウィンドウシールド ワイパー ウォッシャー ポンプ、 ワイパー（+15 イグニッション ON 時にカットアウトされる接続デバイス）
38	15A	ライト ブルー	+30 イグニッション スイッチ
39	15A	ライト ブルー	ステレオ、ナビゲーター（装備車）
40	20A	黄	セントラル ロック
41	15A	ライト ブルー	シガー ライター、ラジオ、エンジン ワーニング ライト、ドア ミラー、ルーム ライト、 グローブ ボックス照明（+15 イグニッション ON 時にカットアウトされる接続デバイス）
42	30A	緑	インジェクション メイン リレー
43	30A	緑	助手席側パワー ウィンドウ
44	30A	緑	運転席側パワー ウィンドウ
45	5A	黄土	エアコンディショナー システム、ナビゲーター ケーブル バンドル （+15 イグニッション ON 時にカットアウトされる接続デバイス）
46	7.5A	茶	+30 インジェクション

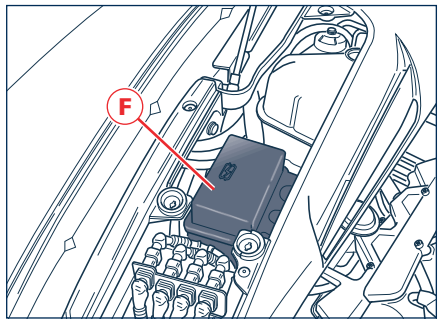
エンジン ルーム内のヒューズ／リレー

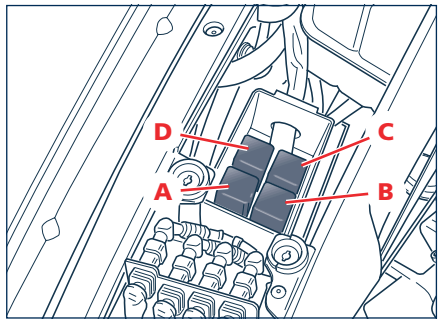
ヒューズ／リレーは、エンジン ルーム右側（リレー）およびリヤ パネル右側（ヒューズ）に設置されています。
サイド リレーを点検する場合は、エンジン ルーム右側のカバー **E** を外してから、ファスナーで固定されているカバー **F** を持ち上げます。
取り外す必要があるときは、上に引っ張って下さい。カバーを取り付けるときは、正しい位置に合わせてから、押し込んで固定スクリューで締め付けて下さい。

サイド リレー

位置	タイプ	機能
A	Mini 50A	電動クーリング ファン（セカンド スピード）
B	Mini 50A	電動クーリング ファン（ファースト スピード）
C	Mini 50A	エア ポンプ
D	タイマー	タイマー付きヘッドライト ウォッシャー







ヒューズが切れた時

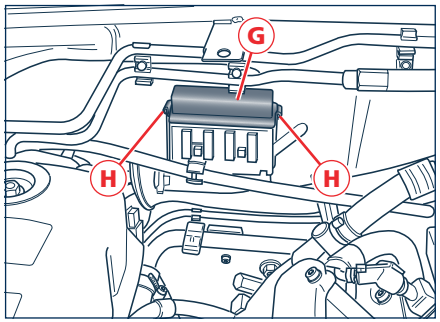
エンジン ルーム リヤ パネルのヒューズを点検する場合は、固定スクリューを外してリヤ カバーを取り外します。

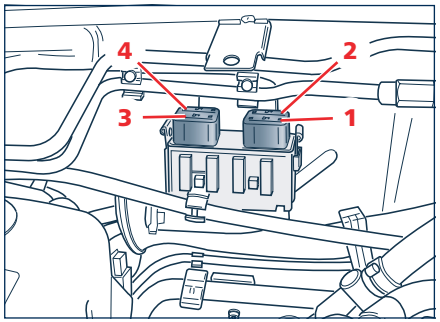
警告：この作業を行うときは、お近くのマセラティ正規サービス ネットワークにお問い合わせ下さい。

ヒューズを点検する場合は、ファスナー **H** を慎重に外してカバー **G** を取り外します。

リヤ パネルのヒューズ

位置	容量	色	システム／コンポーネント
1	Maxi 60A	青	エア ポンプ
2	Maxi 60A	青	ABS
3	Maxi 40A	オレンジ	ファースト スピード ファン
4	Maxi 50A	赤	セカンド スピード ファン





ヒューズが切れた時

トランク ルーム内のリレー／ヒューズ ボックス ユニット

ヒューズ／リレーを点検する場合は、トランク ルーム右側のヴェルクロ ストラップを引いてカバー パネル **L** を開けます。

ヒューズ／リレー ボックスは 3 個あり、次の場所に設置されています。

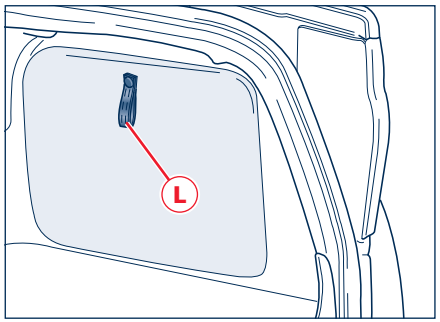
M- バッテリーの前側上部

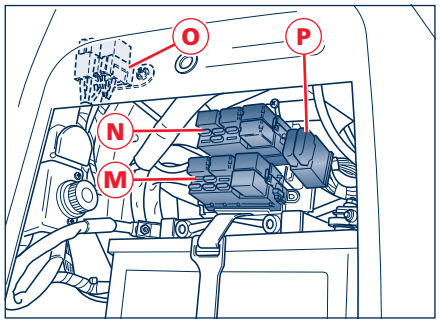
N - バッテリーの前側上部

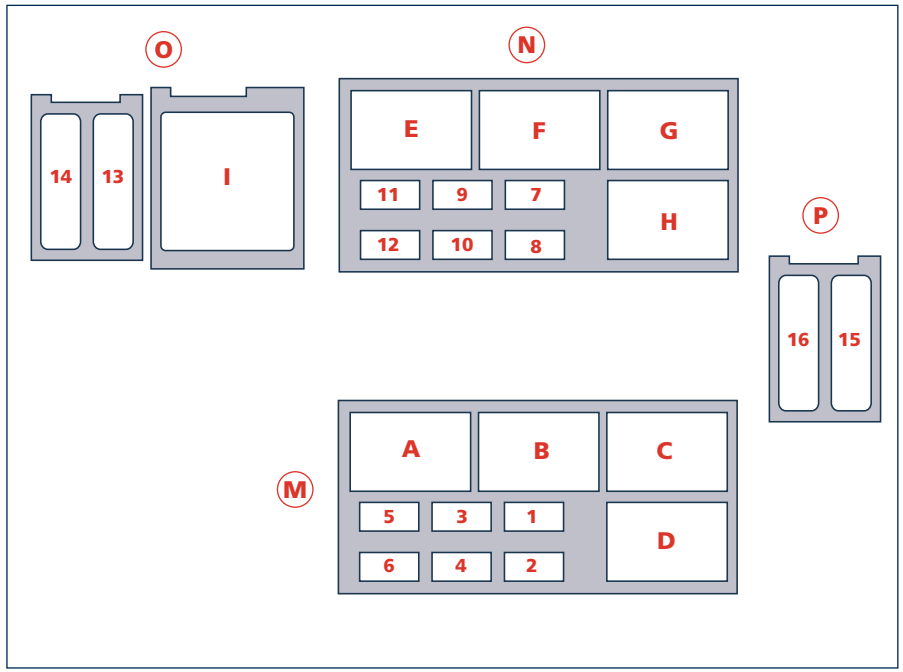
O - バッテリーの上部

P - バッテリーの前側上部

ヒューズ／リレー ユニット **M** および **N** を点検する場合は、固定クリップを外してカバーを取り外します。







ヒューズが切れた時

トランク ルーム内のリレー

位置	タイプ	機能
A	Micro 30A	トランク ルーム リッド オープニング アラーム
B	Micro 30A	デフロスター
C	Micro	燃料ポンプ（ファースト スピード）
D	Micro	燃料ポンプ（セカンド スピード）
E	Micro	トランク ルーム リッドおよび燃料タンク フラップ リレー カット アウト
F	Micro 20A	リバース ギヤ
G	Micro 30A	燃料タンク フラップ
H	Micro 30A	トランク ルーム リッド
I	Mini	"Cambiocorsa" 電子制御ギヤボックス

トランク ルーム内のリレー

位置	容量	色	システム／コンポーネント
1	–	–	未使用
2	20A	黄	燃料ポンプ（リヤ）
3	7.5A	茶	熱線リヤ ウィンドウおよびミラー デフロスター（リヤ）
4	30A	緑	デフロスター
5	–	–	未使用
6	30A	緑	ラジオ アンプ
7	30A	緑	燃料タンク フラップ（リヤ）
8	–	–	未使用
9	25A	白	トランク ルーム リッド、トランク ルームおよび 燃料タンク フラップ オープニング カット アウト リレー（リヤ）用コイル
10	15A	ライト ブルー	パワー ソケット
11	7.5A	茶	リバース ギヤ、パーキング センサー、CAN ライン インターフェース、ミラー メモリー、 電動ミラー（リヤ）
12	–	–	未使用
13	Maxi 20A	黄	"Cambiocorsa" 電子制御ギヤボックス ECU
14	Maxi 30A	緑	"Cambiocorsa" 電子制御ギヤボックス用ポンプ
15	Maxi 40A	オレンジ	リレー／ヒューズ コントロール ユニット
16	Maxi 50A	赤	リレー／ヒューズ コントロール ユニット

バッテリーが上がった時

バッテリー上がりを防ぎ、バッテリーを長持ちさせるために、まず始めに " メンテナンス " の章に記載されている注意事項をお読み下さい。

警告：バッテリーを外す前に 4 ～ 5 cm 以上ウィンドウを下げ、ドアを開閉する時にシールが損傷しないようにして下さい。バッテリーを接続してドアを開閉すると自動的にウィンドウが上昇します。そのためバッテリーを接続するまでウィンドウは下げたままにして下さい。ウィンドウが上がったままバッテリーが放電した時は、必要な場合のみ十分注意してドアを開けて下さい。ウィンドウが下がっていない状態でドアは閉めないようにして下さい。

予備バッテリーでのスタート

" 車の取り扱い " の章の " エンジンの始動 " のセクションをご覧下さい。

警告：バッテリー充電器を接続したまま、非常エンジン スタートはしないで下さい。電気系統、特に点火系統と燃料供給系統が故障する恐れがあります。

バッテリーの充電

バッテリーの充電は低いアンペアでゆっくりと 24 時間程度かけて行って下さい。
下記を参照して充電して下さい。

1) リモート コントロールのキーを押して電子アラーム装置を解除して下さい。
2) トランクを開けて、バッテリーの端子から配線を外して下さい。

警告：最初にマイナス端子（–）を外してから、プラス端子（+）を外して下さい。

3) 充電器のコードをバッテリーの端子に接続して下さい。
4) 充電器のスイッチを入れて下さい。
5) バッテリーの充電が完了したら、充電器のスイッチを切ってからコードを外して下さい。
6) 極性を間違えないように配線をバッテリーの端子に接続して下さい。

警告：初めプラス端子（+）を接続してから、マイナス端子（–）を接続して下さい。

7) シートが正しく動くか点検して下さい。正しく動かない場合は、" 運転する前に " の章にある " フロント シート " のセクションの " システムの初期化 " を実行して下さい。

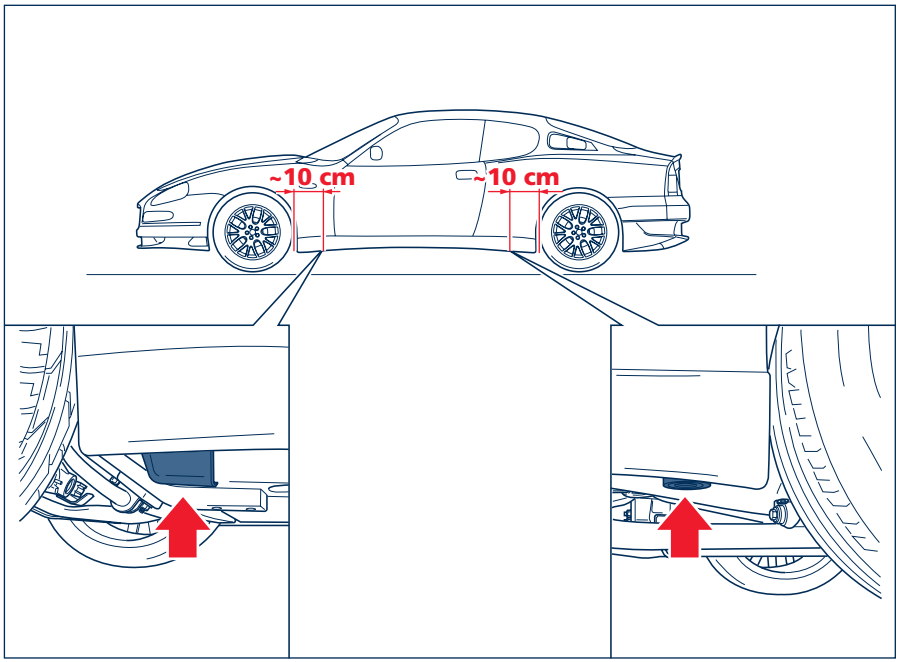
バッテリー液は強酸性で有毒ですので、肌に触れたり目に入らないようにして下さい。バッテリーの充電をする時には、火気のない風通しの良い場所で行って下さい。発火して火災や爆発する危険があります。

ジャッキ アップする時

ジャッキの使用

本章の " タイヤがパンクした時 " のセクションをご覧下さい。

ジャッキはタイヤ交換以外の用途には使用しないで下さい。絶対にジャッキで持ち上げた車の下に入り込んで作業を行わないで下さい。



けん引する時

車のフロント部分には非常用のけん引フックを取り付けることが出来ます。
けん引フックはツール ボックスに入っています。
車の他の部分に結び付けてけん引を行うことはおやめ下さい。
けん引フックを、フロント バンパー右側下部の所定の位置にしっかりとねじ込みます。

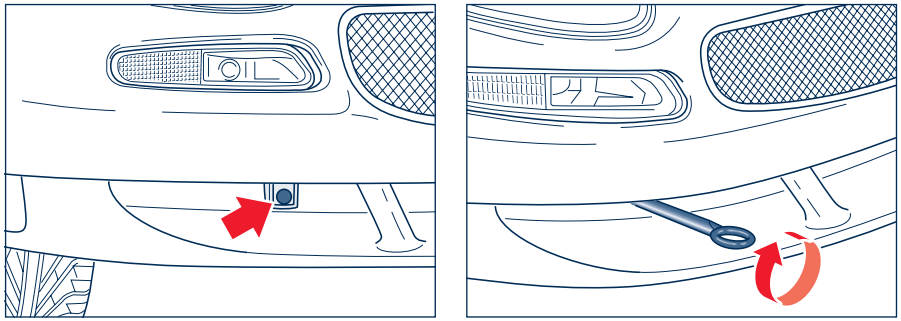
警告：後輪のみ接地した状態で他車にけん引される場合は、必ずイグニッション キーが **STOP** 位置になっていることを確認して下さい。そうしないと、**MSP** システムが ON の場合、コントロール ユニットに不具合がメモリーされ、インストルメント パネルに ~~MSP~~ の文字が点灯した状態になります。この場合、**マセラティ正規サービス ネットワーク**で修理を受け、システムを元の状態に戻す必要があります。

けん引を行う場合は、けん引用具およびけん引時の運転方法に関する交通法規を必ず守って下さい。

けん引を始める前に、イグニッション キーを AVV 位置に回し、ギヤをニュートラル（"N"）に入れてから、キーを STOP 位置に戻して下さい。ただし、キーは抜き取らないで下さい！キーを抜いてしまうと自動的にステアリング ホイールにロックがかかり、車輪の操舵が行えなくなるため、非常に危険です。

エンジンが停止した状態でけん引を行う時は、ブレーキ ブースターとパワー ステアリングが作動しませんので、非常に強い力でブレーキ ペダルやステアリング ホイールを操作する必要があります。

けん引フックはしっかりとねじ込んで下さい（約 11 回転）。けん引フックを取り付ける前に、ネジの部分をよく清掃して下さい。



けん引する時

事故の時

まず落ち着くことが大事です。

– 直接巻き込まれたわけでなければ、事故現場から少なくとも 10 メートル以上離れた所に車を止めて下さい。
– 高速道路の場合、非常レーンには車を止めないで下さい。
– エンジンを OFF にし、ハザード ライトを点滅させて下さい。
– 夜間であれば、ヘッドライトで事故の場所を照らして下さい。
– 他の車に衝突されないように、常に気をつけて行動して下さい。
– 事故が起こったことを他の車に知らせるため、三角表示板を、法規で定められた位置の見えやすい場所に置いて下さい。
– 救援を呼んで下さい。その際、できるだけ詳しく事故の状況を伝えて下さい。高速道路の場合は非常電話を使って下さい。
– 事故車からイグニッション キーを抜き取って下さい。
– ガソリンや化学製品などの臭いがしたら、周囲にいる人に煙草を吸わないように呼び掛けて下さい。

出火したら、たとえそれが小さな火であっても、消火器や毛布、砂や土などを使って消して下さい。絶対に水は使用しないで下さい。高速道路での事故の場合、特に視界が悪い時には、さらに他の車が衝突する危険性が高くなります。すぐに車から離れて安全な場所に避難して下さい。

負傷者がいる場合

– 負傷者を 1 人にして置き去りにしないで下さい。直接負傷していない人にも付き添ってあげて下さい。
– 負傷者を人込みから隔離して下さい。
– 負傷者に救援がすぐに来ることを伝えて安心させ、パニック状態にあるかもしれないので、そばに付き添っていて下さい。
– 負傷者がシート ベルトをしていたら、ベルトを外すか切断して下さい。
– 負傷者に飲み物を飲ませないで下さい。
– 負傷者をむやみに動かさないで下さい。
– 火災の危険がある時や車が水没しそうな時、または車が落下しそうな時以外は、負傷者をその場から動かさないようにして下さい。負傷者を動かす時は、手足を引っ張ったり頭を曲げたりせずに、なるべく水平に寝かせた状態で運んで下さい。

救急箱

以下の物を入れて、トランク ルームに常備しておいて下さい。

– 傷口にかぶせ、汚れを拭くための殺菌済みガーゼ
– 各種のサイズの包帯
– 各種のサイズの湿布
– 絆創膏
– 脱脂綿
– 消毒液
– ティッシュ ペーパー
– 先がとがっていないはさみ
– ピンセット
– 止血帯 2 本

M138_jap_UM.book 158 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分

M138_jap_UM.book 159 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分

容量および技術仕様

燃料	160
エンジン オイル	160
各種オイル類の容量と仕様	161
燃費	163
CO_2 排出レベル	164
技術仕様	165
タイヤ空気圧	172

燃料

オクタン価 95 以上の無鉛プレミアム ガソリンを使用して下さい。
燃料タンク容量：約 88 リッター（リザーブ 18 リッターを含む）

警告：お車には排出ガス浄化装置が装着されていますので、必ず無鉛ガソリンのみを使用して下さい。たとえ緊急時であっても、また少量であっても、有鉛ガソリンを給油しないで下さい。触媒に損傷を与えることになります。

警告：触媒が故障すると、有毒な排出ガスが発生し、環境破壊の原因となります。

エンジン オイル

オイル量の点検については、" メンテナンス " の章を参照して下さい。
使用されているエンジン オイルとは異なる仕様のオイルを補充しないで下さい。
オイル レベル ゲージの MIN から MAX までの間の量は、およそ 1 リッターです。
エンジン オイルはエンジン用の SAE 5W/40、API SG/CD、CCMC G5 を使用して下さい。

各種オイル類の容量と仕様

容量および推奨品

補充箇所	容量	仕様
燃料タンク（リザーブを含む）	88 リッター	オクタン価 95 以上の無鉛プレミアム ガソリン
リザーブ	18 リッター	
エンジン オイル		化学合成または半化学合成マルチグレード SAE 5W/40 オイル、API SG/CD、CCMC G5 以上。 推奨品：AGIP TECSINT SL 5W/40。
- 定期交換	7.8 リッター	
- MIN から MAX までの間の量	1 リッター	注：使用されているエンジン オイルとは異なる仕様のオイルを補充しないで下さい。
- オイル消費量（通常の使用時）	0.5 リッター / 1,000 km	注：エンジン オイルの消費量は、運転スタイルや車のコンディションにより異なります。
ウィンドシールド／ ヘッドライト ウォッシャー液リザーバー	6.5 リッター	製品に記載されている濃度になるように水とウォッシャー液を混合して下さい。 ウォッシャー液：界面活性剤とアルコールを主成分とした溶剤、CUNA NC 956-II。推奨タイプ：DP1。 注：外気温度が –20 °C 以下の時は原液を使用して下さい。
エンジン冷却回路	11.5 リッター	製品に記載されている濃度になるように水とクーラントを混合して下さい。 クーラント：添加剤入りのモノエチレン グリコールを主成分とした不凍液、CUNA NC 956-16。 推奨品：AGIP ANTIFREEZE PLUS / ECOPERMANENT。

補充箇所	容量	仕様
油圧パワー ステアリング	1 リッター	オイルのタイプ：ATF DEXRON II D LEV、SAE 10W。 推奨品：AGIP ATF II D。
"Cambiocorsa" ギヤボックス	2.8 リッター	SAE 75W/90、API GL4-GL5C API MT1-PG2 以上。 推奨品：ROTRA LSX。
"Cambiocorsa" システム	1 リッター	オイルのタイプ：CHF。 推奨品：AGIP CHF 11 S。
ブレーキ回路および 油圧クラッチ制御システム	1.1 リッター	化学合成オイル。NHTSA n.116 DOT4、ISO 4925、 SAE J1703 - J1704、CUNA NC 956-01。 推奨品：AGIP BRAKE FLUID DOT 4 PLUS。
エア コンディショナー冷媒	750 g	R134a
エア コンディショナー コンプレッサー オイル	135 cc	タイプ：SP 10 (Sanden)

マセラティ社は上記の仕様に適合した AGIP 製の製品を推奨します。

燃費

次の表に記載されている燃費に関する数値は、所定の EU 指令により規定されているホロモゲーション テストに基づいて計測した結果です。
燃費計測のためのテスト サイクルは以下の通りです。

– **市街地サイクル**：エンジンの冷間始動を含む、市街地走行のシミュレーション。
– **郊外サイクル**：全ギヤによる頻繁な加速と、0 ～ 120 km/h の車速の変化を伴う、郊外走行のシミュレーション。
– **コンバイン サイクル**：約 37 %の市街地サイクルと 63 %の郊外サイクルを組み合わせた走行を想定して計算。

EU 基準 1999/100/EC に基づく燃費（リッター / 100 km）

市街地	郊外	コンバイン
28.3	13.0	18.6

警告：路面のタイプ、交通状況、天候、運転スタイル、車の状態、仕様／装備／アクセサリー、エア コンディショナーの使用、荷物の搭載、ルーフ ラックその他のアイテムによる空力特性および空気抵抗の変化によって、上記の値は変化します。

CO_2 排出レベル

次の表に示されている CO_2 排出レベルは、コンバイン サイクルにおける燃料消費に基づくものです。

EU 基準 1999/100/EC (*) に基づく CO_2 排出レベル（g/km）

	g/km
	430

技術仕様

エンジン

概要		
エンジン型式		M138P
サイクル		Otto
シリンダー数およびレイアウト		8 - 90° V
シリンダー当たりのバルブ数		4
ボアおよびストローク	mm	92 x 79.8
総排気量	cm^3	4.244
圧縮比		11.11±0.2 : 1
最高出力（EC）	kW 馬力	295 400
最高出力時のエンジン回転数	r.p.m.	7.000
最大トルク（EC）	Nm kgm	451 46
最大トルク時のエンジン回転数	r.p.m.	4.500

インジェクションおよびイグニッション

インジェクションおよびイグニッション システムは、シングル マイクロプロセッサーによる ECU が制御しています。このシステムは、低中速域でのエンジン特性を最適化することで、燃費とエンジン レスポンスともに向上させています。

インジェクション

– Bosch Motronic ME7.1.1

イグニッション

– ダイレクト イグニッション
– 点火順序：1-8-6-2-7-3-4-5
– イグニッション コイル：BOSCH
– NGK PMR8A スパーク プラグ

潤滑システム

エンジン潤滑システムはドライ サンプ方式で、スカベンジ ポンプとデリバリー ポンプを備えています。この 2 つのポンプはクーラント ポンプと一体型で、チェーンを介してクランク シャフトによって駆動されます。

冷却システム

エンジン冷却システムは、ラジエター、遠心ポンプ、エクスパンション タンクを備え、クーラントが循環してエンジンを冷却します。

トランスミッション

クラッチ

油圧サーボ制御式の乾式ダブル プレート クラッチ

ギヤボックス

前進 6 段とリバース ギヤで構成されています。

ギヤ	変速比	総減速比（エンジン回転数／ホイール回転数）
1 速	3.286	12.247
2 速	2.158	8.043
3 速	1.609	5.997
4 速	1.269	4.730
5 速	1.034	3.854
6 速	0.816	3.040
リバース	2.733	10.186

"*Cambiocorsa*" ギヤボックス

電子ギヤボックスの技術は、もともとフォーミュラー 1 用に開発されましたが、現在は市販車にも装着が可能となりました。"Cambiocorsa" は、ギヤボックスとクラッチの操作を " 油圧サーボ " で行うシステムで、乾式クラッチと機械式ギヤボックスの持つ利点（軽量、強度、信頼性、低燃費）を全て兼ね備えています。同時に、市街地走行や頻繁なギヤ シフトが必要な時には、よりユーザー フレンドリーな機能も備えています。
また優れたパフォーマンス、ソフトなギヤ シフト、ホイールへのスムーズなトルク伝達が可能になっています。

このシステムでは、油圧サーボ、エンジン ECU との連係、駆動制御デバイス（ASR ／ MSR）を駆使することで、ドライバーのニーズや運転スタイルに合わせて " スポーティ性 " 重視のシフトまたは " 快適性 " 重視のシフトを選択することができます。
クラッチ ペダルは装着させていません。シフト レバーは、フォーミュラー 1 カーと同様にステアリング ホイール後ろに装着されており（UP ／ DOWN）、ドライバーは電気的にシフト操作を行います。

"Cambiocorsa" ギヤボックスは、ギヤを直接マニュアル操作するドライビングの楽しさはそのままに、マニュアル操作時の煩わしさや負担からドライバーを解放することを目的としています。状況に応じて、ドライバーが操作をさらに簡略化したい場合は、"オートマチック モード " を選択することが可能です。
油圧サーボ式のこのシステムでは、油圧駆動のアクチュエーターがギヤ ボックスに直接取り付けられており、2 個のピストンを介してギヤ選択とギヤ締結の 2 つの操作を行っています。
この 2 個のピストンはソレノイド バルブによって制御され、電気ポンプとバッテリーにより油圧駆動されています。

ECU は複数のセンサーを通じてドライバーの要求と車の走行状態を認識し、クラッチやギヤボックス、エンジン トルクを制御しつつ、自動的にギヤ シフトを行います。
ギヤ シフトの際には、ギヤボックス制御システムがエンジン制御システムをアシストします。
ギヤボックス制御とエンジン制御の両システムの連係により、システムのパフォーマンスが大幅に向上すると同時に、ドライバーはギヤ シフト時にクラッチ ペダルとアクセル ペダルを並行して操作する必要がなくなります。アクセル ペダルを踏み込んだままギヤ シフトが可能となっています。
"Cambiocorsa" ギヤボックスは、ドライバーの操作によってギヤ シフトを行うだけでなく、運転中のドライバーの誤操作を防止し、アシストする役割も果たします。

例えば、システムは全ての誤ったギヤ シフト操作を自動的に受け付けないようにし、誤ってエンジンがストップすることを防ぎ、また、低グリップ路面でのホイールのロックを防止します。運転中のアシストとしては、車が停止するとすぐに 1 速ギヤが選択され、また急な減速時にはギヤは自動的にシフトダウンして、その後の急な加速の要求に応えられるようにします。これらの機能により、ドライバーが運転操作を誤る可能性が低減され、走行中の安全性が高まります。
インストルメント パネルには現在選択されているギヤが表示され、故障が発生した場合は ECU がワーニング ライトとブザーで警告します。

ディファレンシャル

減速比は次の通りです。

ディファレンシャルの減速比
3.727

ブレーキ

ブレーキ システム

4 輪ベンチレーテッド ディスク ブレーキ。
独立 2 系統 X 配管油圧ブレーキ回路。
負圧式ブレーキ サーボ。
エレクトロリック ブレーキ フォース ディストリビューション（EBD）付き 4 チャンネル ABS システム。

パーキング ブレーキ

機械式後 2 輪制動。センター レバーを手動で引いて作動させます。

サスペンション

フロントおよびリヤ

独立懸架式サスペンション。

電子サスペンション（日本仕様は標準装備）

路面状況や走行速度、快適性に応じて、ドライバーがショック アブソーバーのセッティングを 2 段階に調整できるシステムです。

車速感応式パワー ステアリング

ラック アンド ピニオン式油圧ステアリングで、クランクシャフトにより駆動するポンプとリザーバー タンクで構成されています。チルト／テレスコピック機構付き衝撃吸収ステアリング コラム。車速感応式で、走行速度が増すにつれてステアリングが重くなります。

– 最小回転直径 = 12 m

– ロック トゥ ロック = 3 回転

ホイール

リムとタイヤ

	リム サイズ	タイヤ サイズ	タイヤ銘柄
フロント	8”J x 19”	235/35 ZR19	PIRELLI P ZERO ROSSO
リヤ	9.5”J x 19”	265/30 ZR19	PIRELLI P ZERO ROSSO
* フロント	8”J x 18”	225/40 R18	MICHELIN PILOT ALPIN
* リヤ	9.5”J x 18”	265/35 R18	MICHELIN PILOT ALPIN

* ウィンター タイヤ

ウィンター タイヤ装着時の最高速度はタイヤに表示されています。
ただし各国の現行法規により定められた法定速度は超えないよう注意して下さい。
認定メーカーおよび推奨サイズのウィンター タイヤのみを使用して下さい。

警告：安全な走行のため、上記のサイズを守ると同時に、必ず全てのホイールに同一タイヤメーカーの同じ製品を装着して下さい。

警告：チューブレス タイヤにはチューブを入れて使用しないで下さい。

スペア タイヤ（エマージェンシー タイヤ）（オプション）

軽合金リム。

タイヤ サイズ	タイヤ銘柄
185/60-17 93P	VREDESTEIN

タイヤ チェーン

タイヤ トレッド面からの最大許容飛び出し量：9 mm

リヤ タイヤ	タイヤ チェーンのメーカー／タイプ
265/30 ZR19	Konig SUPER MAGIC

警告：タイヤ チェーンはリヤ タイヤに装着して下さい。
タイヤ チェーンを購入する時は、マセラティ正規サービス ネットワークにお問い合わせ下さい。

性能

最高速度	km/h	mph
	290	180

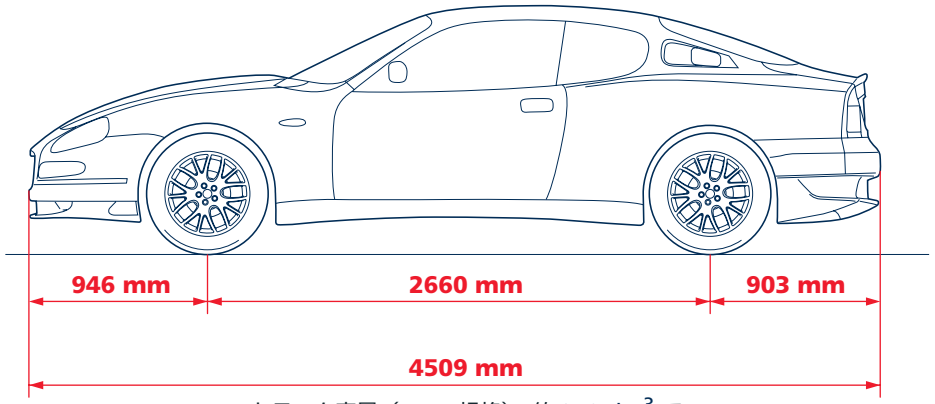
ウィンター タイヤ装着時の最高速度はタイヤに表示されています。
ただし各国の現行法規により定められた法定速度は超えないよう注意して下さい。

加速性能（発進加速、単位：秒）	0 ～ 100 km/h	400 m	1,000 m
	4.85	12.8	23

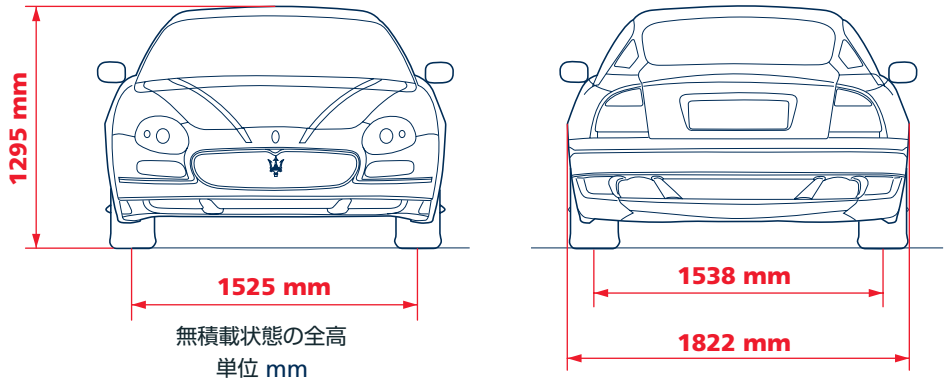
車両重量

車両重量	
車両重量（燃料、工具、アクセサリーを含む）	1,690 kg
車両総重量（4 名乗車でトランク ルームにも荷物（28 kg）を積載した状態）	1,990 kg

寸法



トランク容量（VDA 規格）：約 340 dm^3 で
スペア ホイール コンパートメントの約 60 dm^3 を含む。



無積載状態の全高
単位 mm

本国仕様によるメーカー発表値

タイヤ空気圧

冷間時のタイヤ空気圧（bar）

	リム サイズ	タイヤ サイズ	タイヤ銘柄	冷間時のタイヤ空気圧（bar）
フロント	8”J x 19”	235/35 ZR19	PIRELLI P ZERO ROSSO	2.4
リヤ	9.5”J x 19”	265/30 ZR19	PIRELLI P ZERO ROSSO	2.2
* フロント	8”J x 18”	225/40 R18	MICHELIN PILOT ALPIN	2.0
* リヤ	9.5”J x 18”	265/35 R18	MICHELIN PILOT ALPIN	2.0
スペア タイヤ（エマージェンシー タイヤ）	-	185/60-17 93P	VREDESTEIN	2.5

* ウィンター タイヤ

ウィンター タイヤ装着時の最高速度はタイヤに表示されています。
ただし各国の現行法規により定められた法定速度は超えないよう注意して下さい。
認定メーカーおよび推奨サイズのウィンター タイヤのみを使用して下さい。

M138_jap_UM.book 173 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分

メンテナンス

定期点検	174
追加点検	178
レベルの点検	179
エア クリーナー	184
ダスト／花粉フィルター	184
バッテリー	185
各種 ECU	187
スパーク プラグ	187
ホイールとタイヤ	188
ウィンドシールド ワイパー	190
エア コンディショナー システム	191
ボディ	191
インテリア	193
車を長期間使用しない時	194
バッテリー マスター スイッチ	196
RF リモート コントロール：行政上のホモロゲーション	197

定期点検

適切で正しいメンテナンスは、車の走行性能および安全性能を維持するための最良の方法であると同時に、環境保護にも役立ち、また車の運転経費を低く抑えることにもつながります。

警告：正しくメンテナンスを実施することは、クレーム保証を受けるための基本条件です。

このため、マセラティ社では 10,000 km での初回点検と、20,000 km ごと（170,000 km まで）に行う定期点検項目を設定しています。

170,000 km を超えたら

走行距離が 170,000 km に達したら、30,000 km、50,000 km、70,000 km 時と同様の点検を行って下さい。

警告：定期点検作業はメーカーによって規定されています。規定の点検作業を受けないと、クレーム保証は無効になりますのでご注意下さい。

定期点検は、すべてのマセラティ正規サービス ネットワークで承っております。定期点検中に、追加作業として部品の交換や修理が必要と判断された場合は、お客様の承認を得た上で作業を致します。

警告：車について疑問が生じたり異常を感じた時は、それがどんな小さな問題であっても、次回の点検まで放置せず、すぐにマセラティ正規サービス ネットワークにお知らせ下さい。

定期点検プラン

点検項目	走行距離（単位 1,000 km）	10	30	50	70	90	110	130	150	170
	走行距離（単位 1,000 マイル）	6	18.5	31	43.5	56	68.5	81	93.5	106
オルタネーター／エアコン コンプレッサー／パワー ステアリング ポンプ用の各ベルト		I-A	I*	I-A	I*	I-A	I*	I-A	I*	I-A
	3 年に 1 回以上交換									
エンジン オイルとオイル フィルター		R	R	R	R	R	R	R	R	R
	年に 1 回以上交換									
冷却システムの接続と配管		I	I*	I*	I*	I*	I*	I*	I*	I*
エア クリーナー			R*	R	R*	R	R*	R	R*	R
燃料噴射システムの接続と配管		I		I*		I		I*		I
点火システムの配線と接続		I		I*		I		I*		I
スパーク プラグ				R			R			R
アクティブ カーボン フィルターと O_2 センサー								R		
	4 年に 1 回以上交換									
エア インジェクション システムの配管と接続バルブ		I	I	I	I	I	I	I	I	I
ブローバイ システム				I		I		I		I
エミッション コントロール システムのライン、接続およびバルブ			I		I		I		I	
ディファレンシャルおよびギヤボックス オイル			I	R	I	I	R	I	I	R
	2 年ごとに交換									
"Cambiocorsa" ギヤボックス システム オイル レベル		I	I	I	I	I	I	I	I	I
	毎年点検									
パワー ステアリング オイル レベル（必要に応じてエア抜き）		I	I	I	I	I	I	I	I	I
	2 年ごとに交換									

I = 点検および他の必要な作業の実施　　**A** = 調整　　**R** = 交換

点検項目	走行距離（単位 1,000 km）	10	30	50	70	90	110	130	150	170
	走行距離（単位 1,000 マイル）	6	18.5	31	43.5	56	68.5	81	93.5	106
クーラント レベル		I	I	I	I	I	I	I	I	I
		2 年ごとに交換								
ブレーキ液レベル（必要に応じてエア抜き）		I	I	I	I	I	I	I	I	I
		毎年点検								
ブレーキ システムのライン、キャリパー、接続 ダッシュボード ワーニング ライトの作動 パーキング ブレーキの作動		I	I	I	I	I	I	I	I	I
ブレーキ部品（ディスク、パッド）の摩耗点検 （必要に応じて交換）		I	I	I	I	I	I	I	I	I
フロントとリヤ サスペンション各部の状態と締め付け点検		I	I	I	I	I	I	I	I	I
ステアリング システムの各コンポーネント、 ジョイント プロテクション、ステアリング ラック ブーツと ドライブシャフト ブーツ			I	I	I	I	I	I	I	I
各種ネジ、ナット、ボルト（排気システムのものを含む）、 各種接続、クリップとクランプ類の締め付け		I	I	I	I	I	I	I	I	I
バッテリー：接続と充電状態		I	I	I	I	I	I	I	I	I
エア コンディショナー システム、コンプレッサー オイル レベル			I	I	I	I	I	I	I	I
		冷媒とレシーバードライヤを 2 年ごとに交換								
花粉フィルター			R	R	R	R	R	R	R	R
		毎年交換。ほこりっぽい場所や空気が汚染された地域で車を使用する場合は、早めに交換して下さい。								
スターター モーターとオルタネーター：電力消費量と充電機能				I		I		I		I
ホイール アライメント			I	I	I	I	I	I	I	I

I = 点検および他の必要な作業の実施　　**A** = 調整　　**R** = 交換

点検項目	走行距離（単位 1,000 km）	10	30	50	70	90	110	130	150	170
	走行距離（単位 1,000 マイル）	6	18.5	31	43.5	56	68.5	81	93.5	106
ドア、ボンネット、トランク リッドのヒンジ、調節システム全般の点検		I	I	I	I	I	I	I	I	I
シートとシート ベルトの作動および状態		I	I	I	I	I	I	I	I	I
ボディ各部のボルトとナットの締め付け状態		I		I		I		I		I
ヘッドライトの光軸調整		I	I	I	I	I	I	I	I	I
シャシーおよび防錆処理の状態			I	I	I	I	I	I	I	I
		2 年ごとに交換								
インテリア レザーのトリートメント		I	I	I	I	I	I	I	I	I
走行テスト（必要に応じて実施）		I	I	I	I	I	I	I	I	I

I = 点検および他の必要な作業の実施　　**A** = 調整　　**R** = 交換

(*）印のついた点検作業は義務ではありませんが、交通量の激しい地域や、ほこりっぽい地域、砂の多い地域でお車を使用することが多い場合には点検するのが望ましい作業であることを示しています。

（*）印のついた点検作業をお客様が実施されない場合、排出ガスに関するクレーム保証や、リコールに対するメーカーの責任は無効となりますのでご注意下さい。

追加点検

500 km ごと、または長距離走行の前に、以下の点検を行って下さい。

- クーラント レベル
- ウィンドシールド ウォッシャー液レベル
- タイヤ空気圧およびタイヤの状態

警告 – エンジン オイル

次のような状況でお車を使用することが多い場合：

- ほこりっぽい道路
- 外気温が氷点下の時に、近距離（7 ～ 8 km 以下）での走行を繰り返す場合
- エンジンが低回転または十分に暖まらない状態で走行することが多い場合。このような場合は、定期点検プランに記載されているインターバルよりも早めにエンジン オイルを交換して下さい。

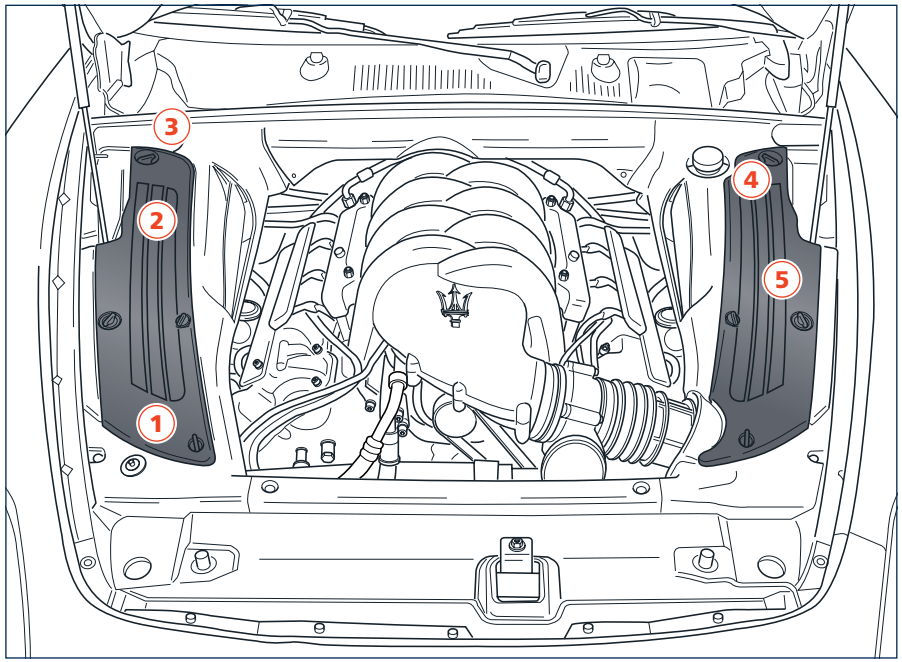
警告 – エア クリーナー

ほこりっぽい道路で車を走行することが多い場合は、定期点検プランに記載されているインターバルよりも早めにエア フィルターを交換して下さい。
お車の使用状況から見て、エンジン オイルおよびエア フィルターをどれくいの頻度で交換するのが適当であるかご不明な場合は、**マセラティ正規サービス ネットワーク**にご相談下さい。

警告：すべてのメンテナンス作業は、必ず**マセラティ正規サービス ネットワーク**で実施して下さい。お客様ご自身で日常点検を行う場合は、必ず適切な機器、マセラティ純正部品、指定オイルを使用して下さい。ただし、経験のない方は絶対にこうした作業は行わないで下さい。

レベルの点検

1) エンジン オイル
2) クーラント
3) ウィンドシールド ウォッシャー液
4) ブレーキ液
5) パワー ステアリング オイル



エンジン コンパートメント パネル

エンジン オイルとクーラント レベルの点検は、エンジン コンパートメント右側にあるパネル **A** を外して下さい。

ブレーキ オイルおよびパワー ステアリングのレベルを点検する時は、エンジン コンパートメント左側にあるパネル **B** を外して下さい。

エンジン コンパートメント パネルは固定ピンを回すと外れます。取り付ける時はパネルの位置を合わせてからピンを締め付けて下さい。

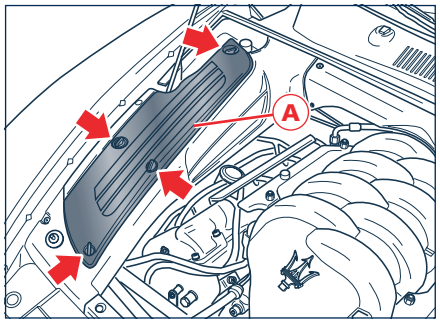
エンジン オイル

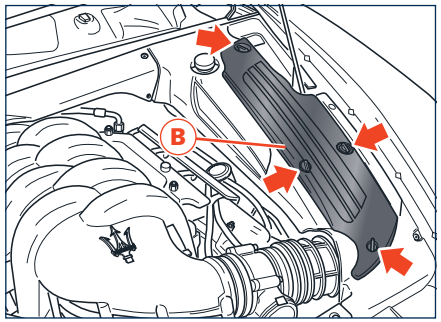
エンジン オイルの点検は、平らな場所でアイドリング状態のまま点検して下さい。

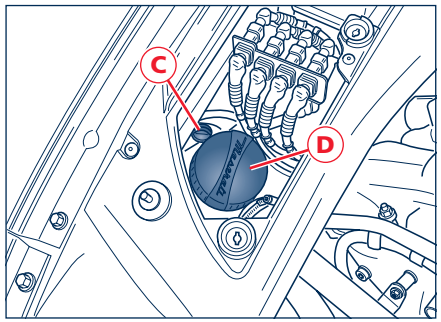
オイルの量はレベル ゲージ **C** の **MIN** から **MAX** の間にあるようにして下さい。

MIN から **MAX** までの間のオイル量は約 1 リットルです。

エンジンが暖まっている時は、エンジン コンパートメント内部が熱くなっており、ヤケドの恐れがありますので十分に注意して下さい。また冷却ファンが自動的に回転することがありますのでケガをしないよう注意して下さい。





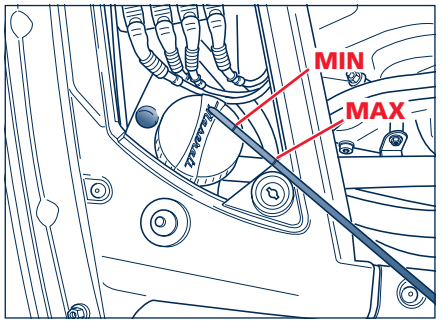


レベルの点検

エンジン オイル量が **MIN** に近づいている時やレベルが下がっている時は、フィラーキャップ **D** を外し、レベルが **MAX** に達するまで補充して下さい。
ただし **MAX** レベルを超えないように注意して下さい。

警告：補充する時は、現在使用中のオイルと同じオイルを使用して下さい。

オイルを補充した時は、レベルの点検をもう一度行って下さい。



警告：使用済みのエンジン オイルとオイル フィルターは、環境に有害な物質を含んでいます。オイルとフィルターの交換は、**マセラティ正規サービス ネットワーク**にご相談下さい。環境保全と法的規制に基づき処理を行います。

"Cambiocorsa" ギヤボックスのオイル

オイル レベルの点検は**マセラティ正規サービス ネットワーク**で実施して下さい。

警告：補充する時は、現在使用中のオイルと同じオイルを使用して下さい。

警告：使用済みのギヤボックス オイルは、環境に有害な物質を含んでいます。オイルの交換は、**マセラティ正規サービス ネットワーク**にご相談下さい。環境保全と法的規制に基づき処理を行います。

エンジン クーラント

エンジンが熱い時は、リザーバーのキャップは外さないで下さい。高温の水蒸気が吹き出してヤケドをする恐れがあります。

クーラント レベルの点検は、エンジン コンパートメント右側にあるパネルを外して下さい。このセクションの " エンジン コンパートメント パネル " の項を参照して下さい。
冷却水の点検は、エンジンが冷えている時に行って下さい。またレベルは **MIN** と **MAX** の間にあるようにして下さい。
レベルが低い時はクーラントをフィラーネックよりゆっくりと **MAX** レベルまで補充して下さい。

ウィンドシールド／ヘッドライト ウォッシャー液

ウォッシャー液を補充する時は、キャップ **E** を外して、ウォッシャー液の使用方法をよく読み、水と混合してから補充して下さい。

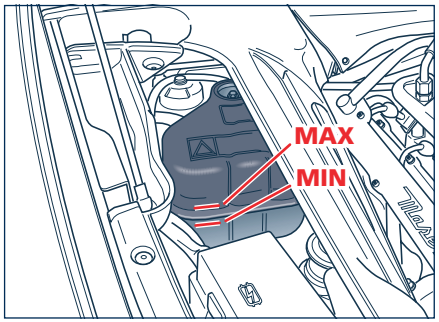
警告：外気温度が –20°C 以下の時は原液をご使用下さい。

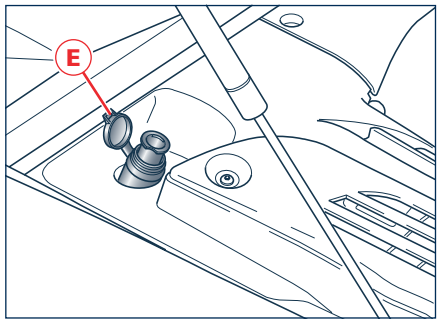
警告：ウィンドシールド ウォッシャー液が " 空 " のままで走行しないで下さい。ウォッシャー液は視界の確保に必要不可欠です。

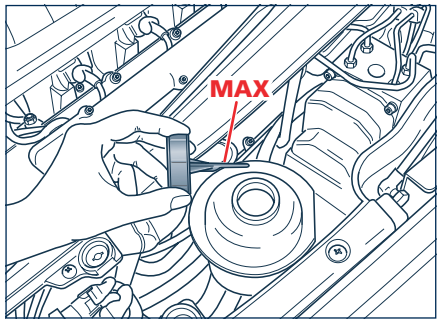
パワー ステアリング オイル

警告：パワー ステアリング オイルがエンジンの高温部分に触れないようにして下さい。火災になる危険性があります。

リザーバーのレベル点検は、エンジン コンパートメント左側にあるパネルを外して下さい。このセクションの " エンジン コンパートメント パネル " の項を参照して下さい。
レベルの点検は、平らな場所でエンジンが冷えている時に行って下さい。オイルの量はタンク キャップにあるレベル ゲージの **MAX** にあるようにして下さい。
レベルの点検は、キャップを外し、ディップスティックをきれいにした後、キャップを締め込み、もう一度キャップを外して点検して下さい。







レベルの点検

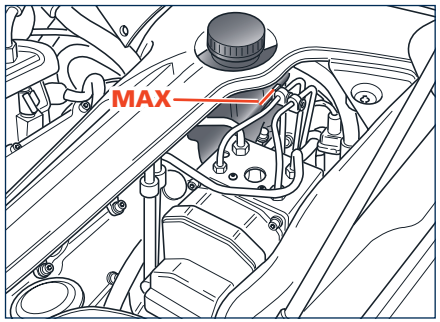
オイルが熱いとレベルは **MAX** レベルを超える場合があります。
必要に応じてオイルを補充して下さい。補充する時は、現在使用中のオイルと同じオイルを使用して下さい。

ブレーキ オイル

リザーバーのレベル点検は、エンジン コンパートメント左側にあるパネルを外して下さい。このセクションの " エンジン コンパートメント パネル " の項を参照して下さい。
リザーバーのオイル量が **MAX** にあるようにして下さい。イグニッション キーが **AVV** の位置でレベルが **MIN** 以下になると、インストルメント パネルのワーニング ライト (!) が点灯します。

フィラー キャップの中央部を押して、ワーニング ライト バルブの作動を点検して下さい。
補充する時は DOT4 のブレーキ オイルを使用して下さい。

警告：ブレーキ オイルは湿気を吸収しやすいため、湿度の高い地域で走行することが多い場合には、定期点検のインターバルより早めにオイルを交換して下さい。



警告：ブレーキ オイルは腐食性が高く、塗装部に付着すると塗装を傷めます。ブレーキ オイルが塗装部についた場合は、直ちに水で洗い流して下さい。

警告：ブレーキ オイルの容器に表示されているマーク ⬡ は化学合成タイプのブレーキ オイルを表します。鉱物性のブレーキ オイルを使用すると、ブレーキ システムに使用している特殊ゴムが損傷し修理ができなくなる場合がありますのでご注意下さい。

エア クリーナー

エア フィルターは、**マセラティ正規サービス ネットワーク**で交換を行って下さい。

警告：2 つのフィルターは同時に交換して下さい。

ダスト／花粉フィルター

このフィルターは、ウィンドウとドアが完全に閉まっている場合に、機械式／静電気式フィルターにより車内を浄化します。
ダスト／花粉フィルターは、少なくとも毎年 1 回は**マセラティ正規サービス ネットワーク**で交換して下さい。夏季前に交換すると効果的です。
市街地や幹線道路、ほこりっぽい道路でお車を使用することが多い場合は、フィルター類は定期点検プランに記載されているインターバルよりも頻繁に交換して下さい。

警告：フィルターを交換しないと、エア コンディショナー システムの能力が著しく低下する場合がありますのでご注意下さい。

エア フィルターを交換するには、ワイパー ブレード アームを取り外さなくてはなりません。

アームはワイパー リンクに圧入され規定トルクで固定されています。

ワイパー アームの脱着を含む、ホコリ／花粉フィルターの交換は、マセラティ正規サービス ネットワークで行うことをお勧めします。

バッテリー

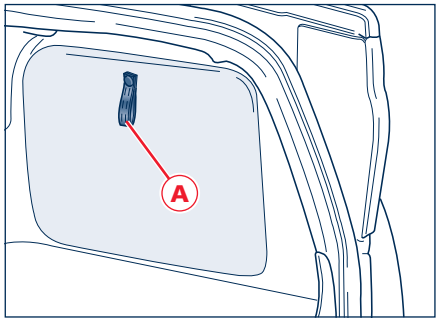
バッテリーは、" ロー メンテナンス " タイプのもので、トランク ルーム内の右側に取り付けられています。
バッテリーを点検する場合は、カバー **A** を外します。
バッテリー電解液のレベルは、車を平坦な場所に置いた状態で、必ず **MIN** と **MAX** のマークの間でなければなりません。
レベルが **MIN** マーク以下になっている場合は、**マセラティ正規サービス ネットワーク**でシステムの点検を受けて下さい。
バッテリーを充電する場合は、" 非常時には " の章を参照して下さい。

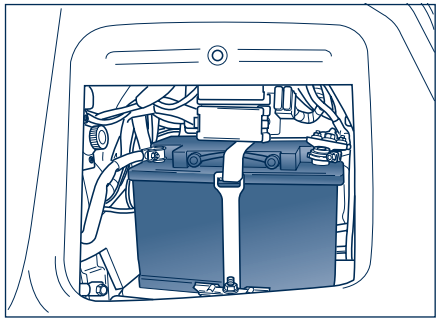
バッテリー液は有毒で腐食性があります。肌に触れたり目に入らないように注意して下さい。バッテリーに火気を近づけたり、花火を散らす可能性があるものの近くに置かないで下さい。火災や爆発の危険があります。

バッテリーには、非常に環境に有害な物質が含まれています。バッテリーの交換を行う場合は、**マセラティ正規サービス ネットワーク**にご相談下さい。現行法規に準拠し、環境に配慮した方法でバッテリーを処理いたします。

警告：誤った電装品の修理やアクセサリーの装着は、車に深刻な損傷を与える場合がありますのでご注意下さい。

警告：バッテリーを外す前に 4 ～ 5 cm 以上ウィンドウを下げ、ドアの開閉時にシールが損傷しないようにして下さい。バッテリーを接続してドアを開閉すると自動的にウィンドウが上昇します。そのためバッテリーを接続するまでウィンドウは下げたままにして下さい。
ウィンドウが上がったままバッテリーが放電した時は、必要な場合のみ十分注意してドアを開けて下さい。ウィンドウが下がっていない状態でドアは閉めないようにして下さい。





バッテリーを長持ちさせるために

駐車する時には、ドア、ボンネット、トランク リッド､燃料タンク フラップ等をきちんと閉めるようにして下さい。室内のライトも全て消すようにして下さい。
エンジンが停止している時には、電装品（ラジオ、ハザード ライト、ファンなど）を長時間使用しないようにして下さい。

警告：バッテリーの充電状態が 50 %以下の状態が長く続くと、サルフェーション現象が起こり、性能が低下して始動時のパワーにも影響を与え、また凍結しやすくなります（気温が –10°C 程度でも凍結する場合があります）。

バッテリー電解液の凍結を防ぐため、なるべく冬の初め頃にバッテリーの充電状態を点検することをお勧めします。短い距離を走行する機会が多い場合や、イグニッション キーを外した状態でも常時使用するような電装品が装備されている場合は、通常よりも頻繁にバッテリーを点検して下さい。特に、後付けのアクセサリーを取り付けた場合にはご注意下さい。
お車を長期間使用しない時は、本章の " 車を長期間使用しない時 " のセクションを参照して下さい。

警告：追加でアクセサリーを取り付ける場合は、電気配線（特にセーフティ関連の配線）に分岐を設けることで、危険を招く可能性がありますのでご注意下さい。

各種 ECU

通常の使用の場合には、特に注意することはありません。
電装系統を修理したり、非常スタートを行う場合は、必ず以下の点をお守り下さい。

– エンジン回転中は、絶対にバッテリーの接続を外さないで下さい。
– バッテリーを充電する場合は、バッテリーの接続を外してから行って下さい。

警告：バッテリーの接続を外す場合は、まずマイナス端子（–）を外してからプラス端子（+）を外して下さい。バッテリーを再び接続する場合は、まずプラス端子（+）を接続してからマイナス端子（–）を接続して下さい。

– 非常スタートをする時は、絶対にバッテリー チャージャーは使用しないで下さい。必ず予備バッテリーをご使用下さい。
– バッテリーを接続する場合は、バッテリー端子のプラスとマイナスを間違えないように慎重に確認し、また接続が確実に行われているか確認して下さい。
– イグニッション キーが AVV 位置にある時は、ECU のターミナルの脱着は行わないで下さい。
– バッテリー端子のプラス／マイナスを、スパークによって点検することはおやめ下さい。
– ボディに電気溶接を行う場合は、ECU の接続を外して下さい。作業により温度が 80°C を超える場合は、取り外して下さい（ボディに対する特殊な作業の場合など）。

警告：オーディオやアラーム システムに変更を加えたり、正しく装着されていない場合は、ECU が正常に作動しなくなる可能性があります。

警告：電装系統を不適切に修理または変更したり、システムの仕様を無視して修理した場合は、作動不良の原因となり、火災を引き起こす危険もあります。

スパーク プラグ

エンジンを効率的に機能させ、有害物質の排出レベルを最小限に抑えるためには、スパーク プラグに異常がなく、また汚れていないことが、非常に重要になります。

警告：スパーク プラグは、定期点検プランで決められたインターバルで交換する必要があります。スパーク プラグは必ず指定品をご使用下さい。熱価の異なるプラグや、規定の期間の保証がされていないプラグを使用すると、故障の原因となる場合があります。

ホイールとタイヤ

タイヤの性能を最大限に引き出し、また長持ちさせるために、最初の 500 km は以下の点に注意して下さい。

- **最高速度では走行しないで下さい。**
- **コーナーは低速で走行して下さい。**
- **急ハンドルは避けて下さい。**
- **急ブレーキは避けて下さい。**
- **急加速は避けて下さい。**
- **高速で長時間走行しないで下さい。**

タイヤの正しい使い方

警告：安全運転のため、タイヤはメンテナンスを怠らず、常に良好な状態に維持して下さい。

タイヤの規定空気圧を守って下さい。空気圧の点検はタイヤが冷えた状態で行って下さい。タイヤの温度が上がるにつれて、空気圧も上昇します。
タイヤが暖まっている時に点検し、空気圧を減らすことは絶対に避けて下さい。
タイヤの空気圧不足は、オーバーヒートや内部の損傷を引き起こすだけでなく、タイヤ破裂の原因ともなります。

空気圧の点検は少なくとも 2 週間に 1 回行い、また長距離走行の前にも行って下さい。

縁石や穴、路上の障害物にぶつかったり、悪路での走行を長時間行うと、見た目ではわからない場合でもタイヤが損傷を受けている可能性があります。
定期的にタイヤの損傷状態（傷、割れ、ひび、ふくれなど）を点検して下さい。
鋭利なものがタイヤに刺さったことで受けた損傷については、タイヤを取り外さないと点検できません。
タイヤが損傷を被った可能性がある場合は、経験豊富なタイヤの専門家による点検を受けて下さい。損傷により、タイヤの寿命が著しく短くなる場合があります。
タイヤは、ほとんど、あるいはまったく使用していない場合でも、経年変化に伴って劣化します。
タイヤ トレッドやサイド ウォールのひび、またはタイヤのふくれなどは、経年変化によるタイヤ寿命のサインです。

古いタイヤは、安全走行に支障がないかどうか、経験豊富なタイヤの専門家による点検を受けて下さい。4 ～ 5 年使用し続けているタイヤについても、経験豊富なタイヤの専門家による点検を受けて下さい。

出所が不明なタイヤは使用しないで下さい。

ディレクショナル タイヤは、サイド ウォールに回転方向を示す矢印がついています。性能を最大限に引き出すため、タイヤを交換する時には矢印でタイヤの回転方向を確認してから装着して下さい。

回転方向性指定のないタイヤであっても、最初に装着した時の回転方向は変更せず、その方向で使用し続けて下さい。

タイヤ トレッドの溝の深さは定期的に点検して下さい（深さの許容最小値は 1.6 mm です）。トレッド溝が浅くなると、スリップする危険性が高まります。

濡れた路面を走行する場合は、ハイドロプレーニング現象を起こさないように慎重に運転して下さい。

ウィンドシールド ワイパー

ワイパー ブレードのゴムは、専用の製品を使用して定期的に清掃して下さい。
ゴムの縁が変形したり摩耗した場合は、ブレードを交換して下さい。どのような場合でも、ブレードはほぼ毎年 1 回は交換する必要があります。

ブレードのゴムが摩耗したまま走行すると、悪天候時に視界が損われ、大変危険です。

ワイパー アームを新品に交換する場合は、関連する部分を取り外す必要があります。また、ワイパー アームはワイパー リンクに圧入され規定トルクで固定されています。

ワイパー アームの取り外し（ホコリ／花粉フィルターの交換をする場合等）は、マセラティ正規サービス ネットワークで行うことをお薦めします。

いくつかの簡単な注意事項をお守りいただくだけで、ブレードが損傷する可能性を最小限に抑えることができます。

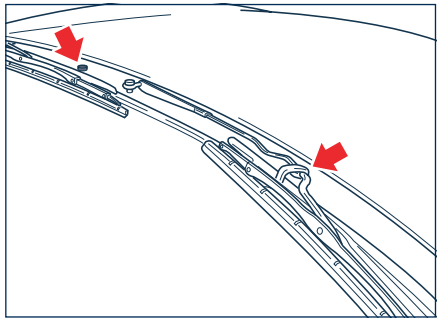
- 気温が氷点下の時は、ブレードのゴムとウィンドシールド ガラスが氷結していないか点検して下さい。必要に応じて解氷剤を使って溶かして下さい。
- ウィンドシールドに積もった雪は、きれいに取り除いて下さい。ブレードの保護につながると同時に、ワイパー モーターに余分な負荷が掛かり過熱するのを防ぐことができます。
- ウィンドシールドが濡れておらず乾いている時は、ワイパーを作動させないで下さい。

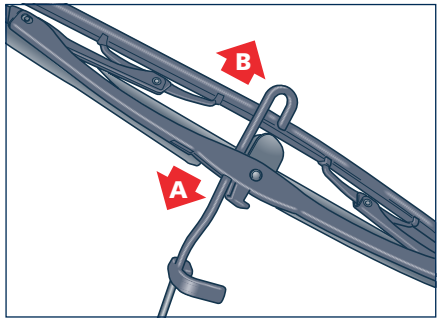
スプレー ノズル

ウォッシャーが噴射されない場合は、まずウォッシャー液が入っているか点検して下さい（本章の " レベルの点検 " のセクションを参照）。次に、ノズルが詰まっていないか点検して下さい。

ワイパー ブレードの交換

1) ワイパー ブレード アームを少し持ち上げて下さい。
2) 図の矢印 **A** を参照し、ブレードを押してアームから外しブレードを取り外して下さい。
3) 図の矢印 **B** を参照し、新しいブレードをアーム シートにしっかりはめ込んで下さい。





エア コンディショナー システム

冬季は少なくとも毎月 1 回、10 分間はエアコンディショナーを作動させて下さい。
夏季に入る前に、システムが効率的に作動するかどうか、**マセラティ正規サービス ネットワーク**で点検を受けて下さい。

警告：のシステムでは冷媒 R134a を使用しているため、事故などで冷媒が漏れても環境に害を及ぼすことはありません。冷媒 R12 は絶対に使用しないで下さい。R12 は、この車に採用されているシステムの各種コンポーネントに適合しないばかりでなく、オゾン層を破壊するフロン（クロロフルオロカーボン）を含んでいます。

ボディ

大気中に含まれる物質からのボディの保護

ボディが腐食する主な原因は以下のものです。

- 大気中の汚染物質
- 大気中の塩分（海岸付近）および湿気（湿度の高い気候）
- 各季節に特有の環境条件

風によって運ばれる大気中の塵、砂、泥、小石による摩損も軽視できません。
マセラティ社では、最良の防錆処理の技術を駆使して、お車を腐食から保護しています。その主な内容は次の通りです。

- 車の耐食性と耐摩損性を高めるような塗料および塗装システムの採用。
- きわめて耐食性に優れた亜鉛メッキ鋼板（または前処理済みの鋼板）を、最も腐食しやすい部分に使用。
- アンダーボディ、エンジン コンパートメント、ホイール ハウジング内側、その他の部分に防錆効果の高いワックスを噴霧。
- ドアの下側、フェンダー内側、エッジなど、最も腐食しやすい部分には、保護効果のあるプラスチック保護剤を噴霧。
- ベンチレーテッド ボックス セクションを採用し、さらに防錆ワックス剤のコーティングを施すことで、結露または水分が溜まることによる内部での錆の発生を防止。

ボディのお手入れ

塗装

塗装は、美的な効果だけでなく、ボディ パネルを保護する役割も持っています。深い擦り傷や引っかき傷ができてしまった場合は、錆の発生を防ぐために、すぐにタッチアップによる修理をお勧めします。
タッチアップによる修理は、メタリック ペイントの場合でもそれほど難しくはありません。タッチアップ ペイントは、ボンネットのプレートに表示されている純正品以外は使用しないで下さい。

塗装面の通常のお手入れ方法としては、定期的に洗車して下さい。お車の使用条件や周囲の環境によって、洗車の頻度は変化します。例えば大気汚染の激しい地域や、凍結防止用の塩がまかれている道路を走行する場合は、こまめに洗車を行って下さい。

警告：合成洗剤は水質汚染の原因となります。洗車を行う場合は、洗車による汚水を収集、浄化する設備が整っている地域で行って下さい。

警告：ローラー ブラシを使って洗車をする場合は、リヤおよびサイドのシンボル マークの縁をテープで保護し、回転するブラシによって傷が付かないようにして下さい。

正しい洗車のために：

- ボディは低い水圧で洗って下さい。
- 少量の中性洗剤をスポンジにつけてボディを洗い、スポンジはよく洗って下さい。
- ボディを水でよくすすぎ、エアを吹き掛けるか、セーム革などで拭いて乾燥させて下さい。

乾かす時は、特にドアやボンネットの隙間、ヘッドライトの周辺などの見えにくく、水が溜まりやすい部分に注意しながら乾かして下さい。
洗車後は、すぐに密閉された場所に保管せず、風通しの良い場所に置いて水分を蒸発させるようにして下さい。
直射日光の当たる場所に放置した後や、ボンネットが熱くなっている時には洗車は行わないで下さい。塗装の光沢に影響を与える恐れがあります。
外部のプラスチック部分も、通常の洗車の際に、同様に洗って下さい。
できるだけ木の下に駐車することは避けて下さい。木の下は樹脂を含んだ物質が落下してくる可能性が高く、この樹脂は塗装の光沢を失わせ、腐食の原因となります。

警告：鳥の糞が付着した場合は、すぐに取り除いて下さい。糞に含まれる酸性物質は、きわめて腐食性が強いからです。

警告：より効果的に塗装面を保護するため、塗装面の上に保護膜を形成するような適切な製品を使用し、つや出し加工（ポリッシュ加工）をすることをお勧めします。

ウィンドウ

ウィンドウは専用の洗剤で洗って下さい。
ガラスを傷つけないよう、また透明度を損なうことのないよう、清潔な布を使って下さい。

警告：熱線リヤ ウィンドウ内部の熱線プリントを損傷させないよう、熱線の方向に沿って軽く拭くようにして下さい。

インテリア

マットの下に（靴や傘から落ちた）水が溜まっていないか、定期的に点検して下さい。水が溜まると金属部分が腐食する原因となります。

皮革部分のクリーニング

– 乾いた汚れは、湿らせたバックスキン レザーや布で、強くこすらずに拭き取って下さい。
– オイルやグリースの汚れは、まず最初に乾いた吸収性の布で、こすらずに拭き取って下さい。
– その後、中性洗剤と水を浸した柔らかい布またはバックスキン レザーで拭いて下さい。
– それでも汚れが落ちない場合は、専用製品を使用して下さい（取扱説明書をよく読んでからご使用下さい）。

警告：アルコールまたはアルコールを主成分とした溶剤は絶対に使用しないで下さい。

皮革部分のトリートメント

革製品の内装部分のトリートメントは、定期点検プランに沿って、専用の製品を取り揃えている**マセラティ正規サービス ネットワーク**で実施するようにして下さい。

高品質ウッド パネル

バックスキン レザーや湿らせた布で汚れを取り除いて下さい。

警告：インストルメント パネルやプラスチック製のクリアー部品などを清掃する時は、アルコールやガソリンを主成分とした溶剤は使用しないで下さい。

スプレー缶を車の中に置かないで下さい。爆発する危険があります。スプレー缶は絶対に温度が 50°C 以上になる場所に置かないで下さい。直射日光が当たると、車内温度は簡単にこの温度を超えてしまいます。

車を長期間使用しない時

車を数ヶ月以上使用しない時には、次のような予防措置を取って下さい。

- 洗車をしてから完全に乾燥させて下さい。
- カバーをかけ、できるだけ風通しの良い場所に保管して下さい。
- ギヤを入れて下さい。

警告：バッテリーを外す前に 4 ～ 5 cm 以上ウィンドウを下げ、ドアの開閉時にシールが損傷しないようにして下さい。バッテリーを接続してドアを開閉すると自動的にウィンドウが上昇します。そのためバッテリーを接続するまでウィンドウは下げたままにして下さい。ウィンドウが上がったままバッテリーが放電した時は、必要な場合のみ十分注意してドアを開けて下さい。ウィンドウが下がっていない状態でドアは閉めないようにして下さい。

- トランク右側にあるバッテリー マスター スイッチを OFF にして下さい。
- バッテリーの充電状態を点検します。この点検は 1 ヶ月ごとにエンジンをアイドリングの状態にして行って下さい。電圧が 12.5 V 以下の時は充電して下さい。
- パーキング ブレーキはかけないで下さい。
- 塗装部分はワックスなどで保護して下さい。
- 金属部分は市販の保護剤などを塗布して下さい。
- ウィンドシールド ワイパー ブレードにはタルカム パウダーなどを塗付し、ワイパーは浮かせておいて下さい。
- 通気性の良い布製のボディー カバーで覆って下さい（**マセラティ正規サービス ネットワーク**へお問い合わせ下さい）。厚手のプラスチック シートを使用すると、車の表面から水分が蒸発しませんので使用しないで下さい。
- タイヤは通常の空気圧より 0.5 bar 程度高くセットして下さい。また空気圧は定期的に点検して下さい。

タイヤ空気圧は次に走行する前に正しい空気圧にセットして下さい。

- エンジン クーラントは抜かないで下さい。

車を再使用する時

車を長期間使用しなかった時は、次のような点検を実施して下さい。

タイヤの空気圧を正しくセットし、割れやひびなどの損傷を点検して下さい。損傷している時は交換して下さい。

- ボディを乾いた布でから拭きしないで下さい。
- オイルや水漏れがないか点検して下さい（ブレーキ オイル、クラッチ オイル、エンジン クーラントなど）。
- エンジン オイルとフィルターを交換して下さい。
- ブレーキとクラッチおよびエンジン クーラントのレベルを点検して下さい。
- エア フィルターを点検して必要に応じて交換して下さい。
- エンジン ベルトを点検して下さい。
- バッテリーの充電状態を点検してから接続して下さい。
- ドア ロックをキーで解除して下さい。
- リモート コントロールのボタンを 1 回押して、電子アラーム機能を停止して下さい。
- 時計をセットして下さい。
- シートが正しく動くか点検して下さい。正しく動かない場合は、" 運転する前に " の章にある " フロント シート " のセクションの " システムの初期化 " を実行して下さい。
- ギヤをニュートラルにしてから、エンジンを数分間アイドリングし、クラッチ ペダルを数回踏み込んで下さい。

この作業は屋外で実施して下さい。排出ガスには有毒な成分が含まれています。

バッテリー マスター スイッチ

長期間お車を使用しない時は、トランク右側にあるバッテリー マスター スイッチでバッテリーを遮断することをお薦めします。カバーはハンドル **A** を引くと開きます。

– バッテリーを切る前に、電子アラーム装置が作動していないことを確認して下さい。

警告：バッテリーを外す前に 4 ～ 5 cm 以上ウィンドウを下げ、ドアの開閉時にシールが損傷しないようにして下さい。バッテリーを接続してドアを開閉すると自動的にウィンドウが上昇します。そのためバッテリーを接続するまでウィンドウは下げたままにして下さい。ウィンドウが上がったままバッテリーが放電した時は、必要な場合のみ十分注意してドアを開いて下さい。ウィンドウが下がっていない状態でドアは閉めないようにして下さい。

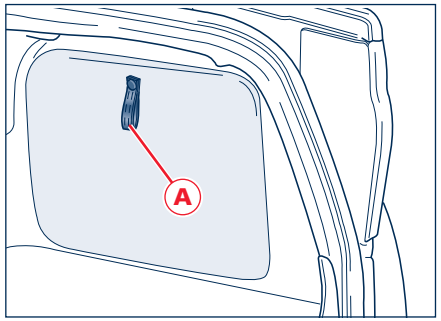
– トランクを開いて下さい。

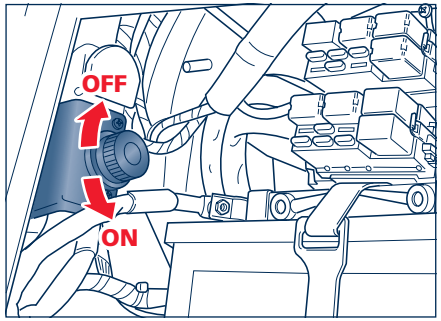
– ドアを閉じてキーでロックして下さい（バッテリーを遮断している間、ドアが開かないようロックします）。

警告：エンジンを切って数分経過してからバッテリーを遮断して下さい。

警告：バッテリーを遮断すると、車のシステムや " アフター マーケット " 製品などのメモリーが消去される場合があります。サテライト ナビゲーション システムを装着してある場合は、バッテリーを遮断する前に、オペレーターに連絡をして下さい。

警告：バッテリーを遮断した後、ドアを開いてもドア ウィンドウは自動的に下がりません。ドアを閉める時にドア ウィンドウが割れないよう十分注意して下さい。





バッテリーの接続

– トランクをキーで開いて下さい。
– バッテリーを接続して下さい。
– キーでドアを開いて下さい。
– リモート コントロールのボタンを 1 回押して、電子アラーム機能を設定して下さい。
– 時計をセットして下さい。
– シートが正しく動くか点検して下さい。正しく動かない場合は、" 運転する前に " の章にある " フロント シート " のセクションの "システムの初期化" を実行して下さい。

警告：バッテリー マスター スイッチを ON にした時は、エンジンを始動する前にイグニッション キーを AVV 位置にして 30 秒以上待って下さい。モーター駆動バルブをコントロールしている電子システムが自己学習機能を発揮できます。この間、装置は作動させないで下さい。

RF リモート コントロール：行政上のホモロゲーション

車がすでに他の欧州のホモロゲーションを取得している場合は、国によっては国内向けのホモロゲーションの書類が不要な場合もあります。

CE 0682 !

換算表

距離					
1 km	=	0.6214 マイル	1 mi	=	1.609 km
1 m	=	3.2808 フィート	1 ft	=	0.3048 m
1 m	=	1.0936 ヤード	1 yd	=	0.9144 m
1 cm	=	0.3937 インチ	1 in	=	2.54 cm
容積					
1 リッター	=	0.2642 米ガロン	1 US gallon	=	3.785 リッター
重量					
1 kg	=	2.2046 ポンド	1 lb	=	0.4536 kg
出力					
1 kW	=	1.341 hp（馬力）	1 hp	=	0.746 kW
圧力					
1 bar	=	14.5 psi	1 psi	=	0.0689 bar
燃費					
1 km/l	=	0.4251 mpg	1 mpg	=	2.3524 km/リッター

M138_jap_UM.book 199 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分

目 次

M138_jap_UM.book 200 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分

歴史的背景 4
はじめに 6
マニュアルの概要 6
イニシャル 6
アップデーティング 6
サービス 7
"Cambiocorsa" ギヤボックス 7
シンボル 8
危険シンボル 8
禁止シンボル 8
警告シンボル 9
義務シンボル 9

一般事項 11

車両識別データ 13

識別プレート 14
シャシー番号 14
エンジン番号 14
ペイント識別プレート 14
車両識別プレート 15
キー コード 16
電子アラーム システムのコード 17
ローリング コード 17

アクティブおよびパッシブ セーフティ 19

シート ベルト 20
シート ベルトの使い方 20
フロント シート ベルトの高さ調節 21
リミテッド ロッキング機構 21
プリテンショナー 21
リヤ シート ベルトの使い方 22
シート ベルトに関する
基本的な注意事項 23
シート ベルトの適切な使用について 24
お子様の適切な搭乗 25
グループ 0 27
グループ 1 27
グループ 2 28
グループ 3 28
フロントおよびサイド エアバッグ 30
フロント エアバッグ 31
助手席エアバッグ
（フルサイズ エアバッグ） 32
助手席エアバッグの機能停止 32
サイド エアバッグ 33
基本的な警告 35
MSP システム 36
MSP システムの作動 36
故障警告 36
ABS と EBD システム 37
ASR システム
（電子式アンチ スリップ装置） 39
MSR ファンクション
（エンジン ブレーキ トルク調整） 39
パーキング センサー（オプション） 40
センサー 40
センサーの作動範囲 41
故障警告 42
消火器（オプション：日本仕様は
オプション未設定） 43
衝撃式燃料カット スイッチ 44
スイッチのリセット 44

インストルメントおよびコントロール 45

ダッシュボード
("Cambiocorsa" ギヤボックス） 46
インストルメント パネル 48
インジケーターおよびワーニング ライト 50
シート ヒーター（オプション） 50
フロント フォグ ライト 50
パーキング ライト／ロー ビーム 50
リヤ フォグ ライト 50
エアバッグ／
プリテンショナーの故障 50
ライトの故障 50
ハイ ビーム 50
エンジン コントロール 50
触媒高温ワーニング ライト 51
ABS システムの故障（ABS） 51
ブレーキ パッドの摩耗／
ブレーキ液残量 51
パーキング ブレーキの作動 52
方向指示灯 52
マセラティ コード 52
シート ベルト非着用ワーニング ライト 52
助手席エアバッグの
機能停止ワーニング ライト 52
衝撃式燃料カット スイッチ 52
インストルメントおよびインジケーター 53
1 – エンジン油圧計 53
2 – エンジン水温計 53
21 – エンジン回転計 53
19 – バッテリー電圧計 54
20 – 燃料計 54
23 – マルチファンクション
ディスプレイ 55

24 – ドア、ボンネット／
トランク 半ドア ディスプレイ 55
27 – "Cambiocorsa" シフト
インジケーター／パーキング ライト 56
28 – 外気温度計 56
29 – 外気温度 LED 56
トリップメーター リセットボタン 57
インストルメント パネル照度調節
スイッチ 57
室内の装備と操作 58
ハザード ワーニング ライト 58
MSP システム 58
SPORT セッティング モード 58
リヤ フォグ ライト 59
フロント フォグ ライト 59
熱線サイド ウィンドウと
ドア ミラー ヒーター 59
12 V ソケット 59
トランク リッド オープナー 60
燃料タンク フラップ オープナー 60
ヘッドライトの光軸調整
（キセノン ヘッドライト装着車を除く。
但し日本仕様車はキセノン ヘッドライト
装着車輌） 60
時計 61
フロント ルーム ライト 61
リヤ ルーム ライト 61
サン バイザー 62
グローブ ボックス 62
シート ポケット 63
コート フック 63

運転する前に 65
ドア 66
外側からの開閉 66
内側から開けるときは 66
半ドア ワーニング ライト 66
パワー ウィンドウ 66
ドア開放インジケーター 67
ドア足元ライト 67
ボンネット 68
トランク リッド 69
燃料タンク フラップ 70
燃料タンク フラップの非常開放 70
キー 71
マセラティ CODE システム 71
作動 71
スペア キーの作製 72
非常時のエンジン スタート 72
イグニッション スイッチ 74
START ボタン 74
電子アラーム システム（オプション） 75
作動 75
電子アラーム システムの解除 76
車内監視機能の解除（超音波システム） 76
アラーム メモリー 77
法定基準 77
リモート コントロールの追加注文 77
リモート コントロールの電池交換 78
フロント シート 79
前後の調節 79
高さの調節 79
シート角度の調節 79
背もたれの角度の調節 79
ランバー サポートの調節 79
背もたれのチルト 79
シート ヒーター
（日本仕様は標準装備） 80
運転席シートとドア ミラーの位置の
メモリー（日本仕様は標準装備） 80
システムの初期化 81
ヘッドレスト 81
リヤ シート 82
アームレスト 82
ヘッドレスト 82
バック ミラー 83
ドア ミラー 83
ルーム ミラー 84
自動防眩ドア ミラー（オプション） 84
ステアリング ホイール 85
ライトおよび方向指示器 86
ライト スイッチ 86
ハイ ビーム 86
ヘッドライトのパッシング 87
パーキング ライト 87
方向指示灯 87
ウィンドシールド ワイパーおよび
ヘッドライト ウォッシャー
（日本仕様は標準装備） 88
ウィンドシールド ワイパー 88
間欠作動の間隔調節 88
ウィンドシールド ウォッシャー 89
ヘッドライト ウォッシャー
（オプション） 89

ステレオ システム ※日本仕様は一部の機能が使用できません。 90
ダイバーシティ システム 91
高出力 HI-FI システム（オプション） 91
エア コンディショナーおよびヒーター 92
ダッシュボード上部吹き出し口 93
ダッシュボード中央および サイド吹き出し口 93
フロント ウィンドシールド ピラー 吹き出し口 93
ダッシュボード下部吹き出し口 94
リヤ吹き出し口 94
オートマチック エア コンディショナー およびヒーターの操作 95
設定温度 95
操作方法 95
作動の説明 97
ホコリ／花粉エア クリーナー 98
専用ラゲッジセット（オプション） 98

車の取り扱い 99

エンジンの始動 100
エンジン冷間時の暖機運転 101
予備バッテリーを接続しての 非常スタート 101
押しがけによる始動 101
エンジンを止める 101
"Cambiocorsa" ギヤボックス 102
システムの作動 102
エンジン停止中の操作 103
車の運転 104
"UP" シフト アップ 105
オーバーレブ回避のための 自動シフト アップ 105
"DOWN" シフト ダウン 105
エンジン回転数が低すぎる場合の 自動シフト ダウン 105
ニュートラル（N） 105
車の停止 106
エンジンとシステムの停止 106
その他のシステム機能 106
押しがけによる始動 108
ブレーキの使用 109
エンジンの使用 110
慣らし運転 110
エンジンとトランスミッション 110
運転中 110
エンジン コントロール システム（EOBD） 111
クルーズ コントロール（オプション） 112
概要 112
操作スイッチ 112
速度の設定 113
設定速度への復帰 113
設定速度を上げる 113
設定速度を下げる 114
メモリーされている設定速度を 消去する 114
電子サスペンション（日本仕様は標準装備） 115
自己診断 115
セッティングの選択 116
故障のサイン 117
ヘッドライト 118
ヘッドライトの光軸調節（キセノン ヘッドライト装着車を除く。但し日本仕様車はキセノン ヘッドライト装着車輌） 118
角度の調節 118
キセノン ヘッドライト 119
運転条件 120
運転を開始する前に 120
オイル類 120
安全運転のために 120
運転する前に 120
走行にあたり 121
夜間の運転 122
雨の日の運転 122
霧の中での運転 122
山道での運転 123
雪道や凍結路での運転 123
排出ガス浄化装置 124
その他の注意事項 125
駐車 126
パーキング ブレーキ 126
タイヤ 127
冷間時のタイヤ空気圧 127
ウィンター タイヤ 127
タイヤ チェーン 128
推奨装備品 128

非常時には 129

エンジンのエマージェンシー スタート 130
ツール キット 131

タイヤがパンクした時 132
パンク時の注意事項 132
スペア タイヤ（エマージェンシー タイヤ）（オプション） 133
標準タイヤの取り付け 137
エクステリア ライトが切れた時 138
フロント ライト 138
リヤ ライト 138
方向指示灯 139
ハイマウント ストップ ライト 140
ナンバー プレート ライト 140
車内ライトが切れた時 141
フロント ルーム ライト 141
リヤ ルーム ライト 141
バニティ（化粧）ミラー ライト 142
グローブ ボックス ライト 142
ドア足元ライト（ドア下部） 142
トランク ルーム ライト 143
ヒューズが切れた時 144
ヒューズの交換 144
ヒューズ／リレーの設置場所 144
ヒューズの色 144
Maxi ヒューズの色 144
右側ダッシュボード下部のヒューズとリレー 145
ダッシュボード下のリレー 146
ダッシュボード下のヒューズ 146
エンジン ルーム内のヒューズ／リレー 149
サイド リレー 149
リヤ パネルのヒューズ 150
トランク ルーム内のリレー／ヒューズ ボックス ユニット 151
トランク ルーム内のリレー 152
トランク ルーム内のリレー 153
バッテリーが上がった時 154
予備バッテリーでのスタート 154
バッテリーの充電 154
ジャッキ アップする時 155
ジャッキの使用 155
けん引する時 156
事故の時 157
負傷者がいる場合 157
救急箱 157
容量および技術仕様 159
燃料 160
エンジン オイル 160
各種オイル類の容量と仕様 161
容量および推奨品 161
燃費 163
EU 基準 1999/100/EC に基づく燃費（リッター / 100 km） 163
CO_2 排出レベル 164
EU 基準 1999/100/EC (*) に基づく CO_2 排出レベル（g/km） 164
技術仕様 165
エンジン 165
インジェクションおよびイグニッション 165
潤滑システム 166
冷却システム 166
トランスミッション 166
ブレーキ 168
サスペンション 168
車速感応式パワー ステアリング 169
ホイール 169
性能 170
車両重量 170
寸法 171
タイヤ空気圧 172
メンテナンス 173
定期点検 174
170,000 km を超えたら 174
定期点検プラン 175
追加点検 178
警告 – エンジン オイル 178
警告 – エア クリーナー 178
レベルの点検 179
エンジン コンパートメント パネル 180
エンジン オイル 180
"Cambiocorsa" ギヤボックスのオイル 181
エンジン クーラント 182
ウィンドシールド／ヘッドライト ウォッシャー液 182
パワー ステアリング オイル 182
ブレーキ オイル 183
エア クリーナー 184
ダスト／花粉フィルター 184
バッテリー 185
バッテリーを長持ちさせるために 186
各種 ECU 187
スパーク プラグ 187
ホイールとタイヤ 188
タイヤの正しい使い方 188

M138_jap_UM.book 204 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分

ウィンドシールド ワイパー 190
スプレー ノズル 190
ワイパー ブレードの交換 190
エア コンディショナー システム 191
ボディ 191
大気中に含まれる物質からの
ボディの保護 191
ボティのお手入れ 191
インテリア 193
皮革部分のクリーニング 193
皮革部分のトリートメント 193
高品質ウッド パネル 193
車を長期間使用しない時 194
車を再使用する時 195
バッテリー マスター スイッチ 196
バッテリーの接続 197
RF リモート コントロール：行政上の
ホモロゲーション 197
換算表 198
目 次 199
車両記録 205

M138_jap_UM.book 205 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分

車両記録

オーナー

住所

登録番号

車台番号

エンジン番号

ペイント コード

スペア パーツ コード

M138_jap_UM.book 206 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分

このマニュアルに記載されているマセラティ車の型式とモデルは、法律および販売上の目的により、変更される場合があります。

マセラティ社は、技術改良および販売上の目的により、このマニュアルの記載内容を予告なしに変更する場合があります。

最新の情報が必要な場合はマセラティ社の正規ディーラーにお問い合わせ下さい。

車の性能、安全性、また価値を保つために、ホモロゲーションに適合しない改造はお止め下さい。

Publication no. 68347300 - 1st Edition - 07/2004
Printed by DECA s.r.l. Lugo - RA (Italy)
All rights reserved. This document must not be reproduced, even partially, without the written consent of Maserati S.p.A.

Coordinamento Editoriale DECA s.r.l. Lugo - (RA) (Italy)

M138_jap_UM.book 207 ページ ２００４年１１月１１日 木曜日 午前１０時５５分

CORNES

マセラティ日本総代理店

コーンズ・アンド・カンパニー・リミテッド

芝ショールーム 〒105-0014 東京都港区芝 3-5-1 コーンズハウス
TEL. 03（5730）1610

青山ショールーム 〒107-0062 東京都港区南青山 2-5-17
TEL. 03（5413）2100

世田谷ショールーム 〒158-0082 東京都世田谷区等々力 4-24-17
TEL. 03（3704）1151

名古屋ショールーム 〒464-0075 名古屋市千種区内山 3-23-15
TEL. 052（732）7772

大阪本町ショールーム 〒550-0005 大阪市西区西本町 1-13-40 コーンズハウス
TEL. 06（6532）1011

東大阪ショールーム 〒577-0016 東大阪市長田西 6-4-37
TEL. 06（6745）8225

ユーズドカーセンター 〒194-0004 東京都町田市鶴間 1855-1
TEL. 042（795）5910

コーンズショップ 〒107-0062 東京都港区南青山 2-5-17
「コーンズ青山ショールーム」内
TEL. 03（5413）2121

芝サービスセンター 〒105-0014 東京都港区芝 3-5-1 コーンズハウス
TEL. 03（5730）1614

東雲サービスセンター 〒135-0062 東京都江東区東雲 2-5-6
TEL. 03（3527）5511

世田谷サービスセンター 〒158-0082 東京都世田谷区等々力 4-24-17
TEL. 03（3701）7525

横浜サービスセンター 〒241-0802 横浜市旭区上川井町 2059-5
TEL. 045（921）3421

名古屋サービスセンター 〒464-0075 名古屋市千種区内山 3-23-15
TEL. 052（732）7772

大阪サービスセンター 〒577-0016 東大阪市長田西 6-4-37
TEL. 06（6745）8231

ボディーショップ 〒241-0802 横浜市旭区上川井町 2059-5
TEL. 045（924）6521

部品部 〒105-0014 東京都港区芝 3-5-1 コーンズハウス
TEL. 03（5765）5550

- 本書の内容の一部または全部を無断転載することは固くお断りします。
- 本書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれ等お気づきの点がありましたらご連絡下さい。
- 落丁、乱丁はお取り替えいたします。

MASERARI GRANSPORT オーナーズ マニュアル
GF-MGS
発 行 コーンズ・アンド・カンパニー・リミテッド 自動車グループ
発行日 2004年10月

M138_jap_UM.book 208 ページ ２００４年１１月８日 月曜日 午前１１時５５分